

粕屋町男女共同参画社会に関する 意識調査

平成 26 年度

粕 屋 町

…………… 目 次 ……………

I. 調査概要

1. 調査の目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査の性格	1
4. 標本の構成	2
5. 調査結果利用上の注意	4

II. 調査結果

1. 男女平等に関する意識について	5
(1) 男女平等や男女共同参画をテーマにする話題への関心度	5
(2) 各分野での男女の地位の平等について	7
(3) 固定的性別役割分担意識について	24
(4) 見たり聞いたりしたことがある言葉	27
2. 家庭生活について	29
(1) 家事を男女で分担することについて	29
(2) 家庭内の役割分担状況	32
(3) 生活の中での優先度	41
(4) -1 仕事や学校のある日に費やしている時間	43
(4) -2 休みの日・仕事や学校のない日に費やしている時間	45
(5) 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと	47
3. 地域活動について	49
(1) 地域活動への参加状況	49
(2) 地域活動に参加していない理由	52
(3) 地域活動の団体の長や代表者として選ばれた場合の対応	54
(4) 地域活動の団体の長や代表者を引き受けない理由	56
(5) 地域活動において女性の参画を進めるために必要なこと	58
(6) 防災や震災対応に女性が参画するために必要なこと	59
4. 職業観や仕事について	61
(1) 女性が職業をもつことについて	61
(2) 現在の就業状況	64
(3) 現在の職場で女性が男性に比べて不当に差別されていると思うこと	65
(4) 男性が育児休業・介護休業制度等を活用することについて	67
5. セクシュアル・ハラスメントやDV(配偶者や恋人間の暴力)について	68
(1) セクシュアル・ハラスメントを受けたり見聞きした経験	68
(2) セクシュアル・ハラスメントを受けた場所	70
(3) 暴力を受けた際に取った行動	71

(4) 夫婦・パートナー、恋人間で行われた時に暴力と考えられる行為	73
(5) この1年間のうち、配偶者・パートナー、恋人に行ったことがある行為	85
(6) この1年間のうち、配偶者・パートナー、恋人に受けたことがある行為	86
(7) 行為を受けた後の相談先	87
(8) 相談しなかった理由	89
(9) セクシュアル・ハラスメントやDVをなくすための対策	91
6. 男女共同参画社会の実現について	94
(1) 男女がすべての分野で平等になるために最も重要と思うこと	94
(2) 男女共同参画社会を実現するために粕屋町に望む施策	96

Ⅲ. 調査結果のまとめ

1. 男女平等に関する意識について	98
2. 家庭生活について	99
3. 地域活動について	100
4. 職業観や仕事について	101
5. セクシュアル・ハラスメントやDV(配偶者や恋人間の暴力)について	101
6. 男女共同参画社会の実現について	102
資料(使用した調査票)	103

I. 調査概要

1. 調査の目的

町民の男女共同参画に関する意識や要望の変化、意見などを統計的に把握し、今後の問題解決のための施策をより充実させていくための基本資料とする。

2. 調査項目

男女共同参画社会について

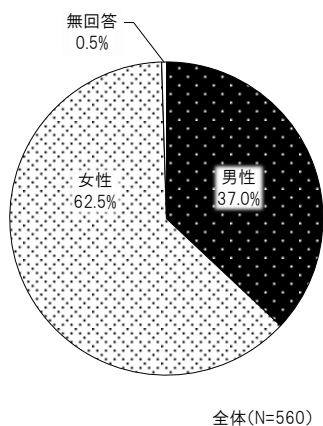
3. 調査の性格

- (1) 調査地域 粕屋町内全域
- (2) 調査対象者 粕屋町内に居住する満20歳から84歳までの男女
- (3) 調査対象者数 2,000サンプル 有効回収 560サンプル、有効回収率 28.0%
- (4) 抽出方法 住民基本台帳による二段階無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送法
- (6) 調査期間 平成26年8月1日(金)～12月31日(水)
- (7) 調査実施機関 株式会社 西日本リサーチ・センター
- (8) 総括分析 NPO法人福岡ジェンダー研究所 武藤 桐子

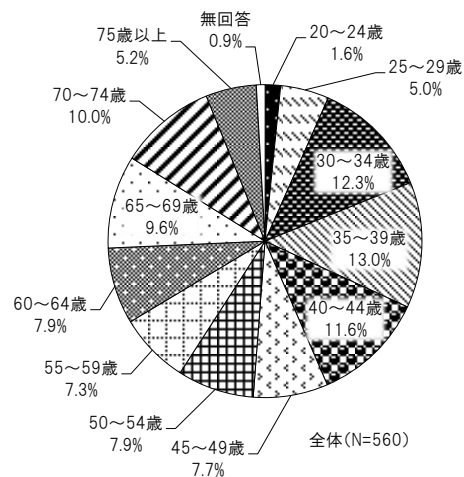
4. 標本の構成

■ 標本の全体構成

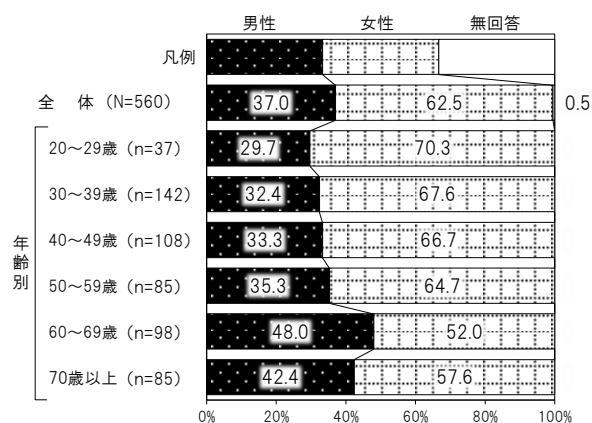
<性別>



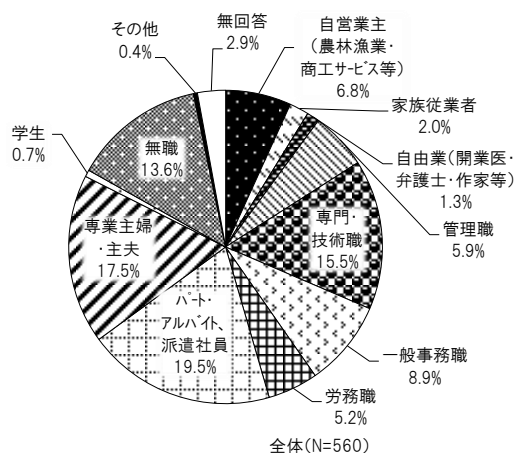
<年齢別>



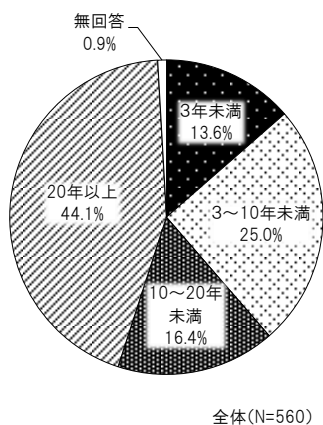
<性・年齢別>



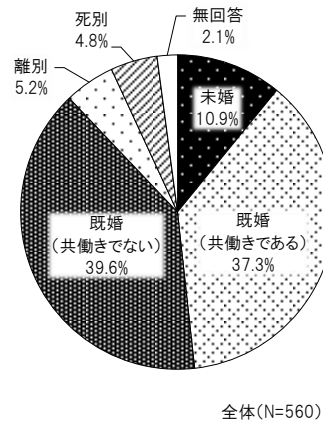
<職業・職種別>



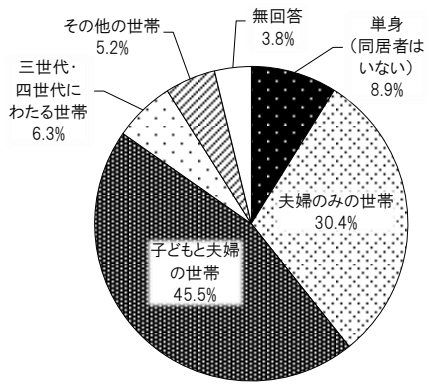
<居住年数別(通算)>



<配偶状況別>

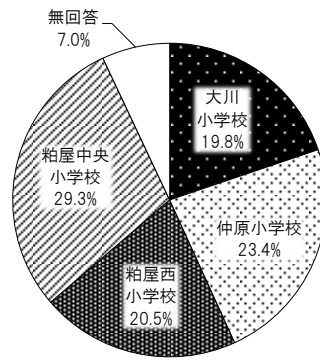


<同居家族の形態別>



全体(N=560)

<小学校区別>



全体(N=560)

5. 調査結果利用上の注意

- (1) 単数回答の集計については、設問ごとに無回答の項目を設けて、これを含めた全体の基数(標本数)を100%としている。なお、回答率は小数点以下第2位を四捨五入しているため、数表、図表に示す回答率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- (2) 2つ以上の回答を要する(複数回答)質問の集計については、項目別に、基数(標本数)に対するその項目を選んだ回答者の割合としている。従って、数表、図表に示す各項目の回答率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) 数表、図表、文中に示すN、nは、回答率算出上の基数(標本数)である。
N=標本全数
n=該当数(その質問を回答しなくてよい人を除いた数)
- (4) SQは前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問(Sub-Questionの略)である。この場合の回答者は設問回答の該当者のみである。
- (5) 数表、図表に示す選択肢はスペースの関係で文言を短縮して表記している場合があるので、詳細は巻末の調査票を参照のこと。
- (6) 文中の選択肢の表記は「 」で行い、選択肢のうち、2つ以上のものを合計して表す場合は『 』としている。
- (7) 2つ以上の選択肢を合計して表している比率については、各選択肢の基数(標本数)の合計をもとに算出しているため、選択肢個々の回答率の合計とは、必ずしも同じにならない場合がある。
- (8) 属性別の分析において、サンプル数(標本数)が少ないものについては、分析コメントを割愛する場合がある。

Ⅱ. 調査結果

1. 男女平等に関する意識について

(1) 男女平等や男女共同参画をテーマにする話題への関心度

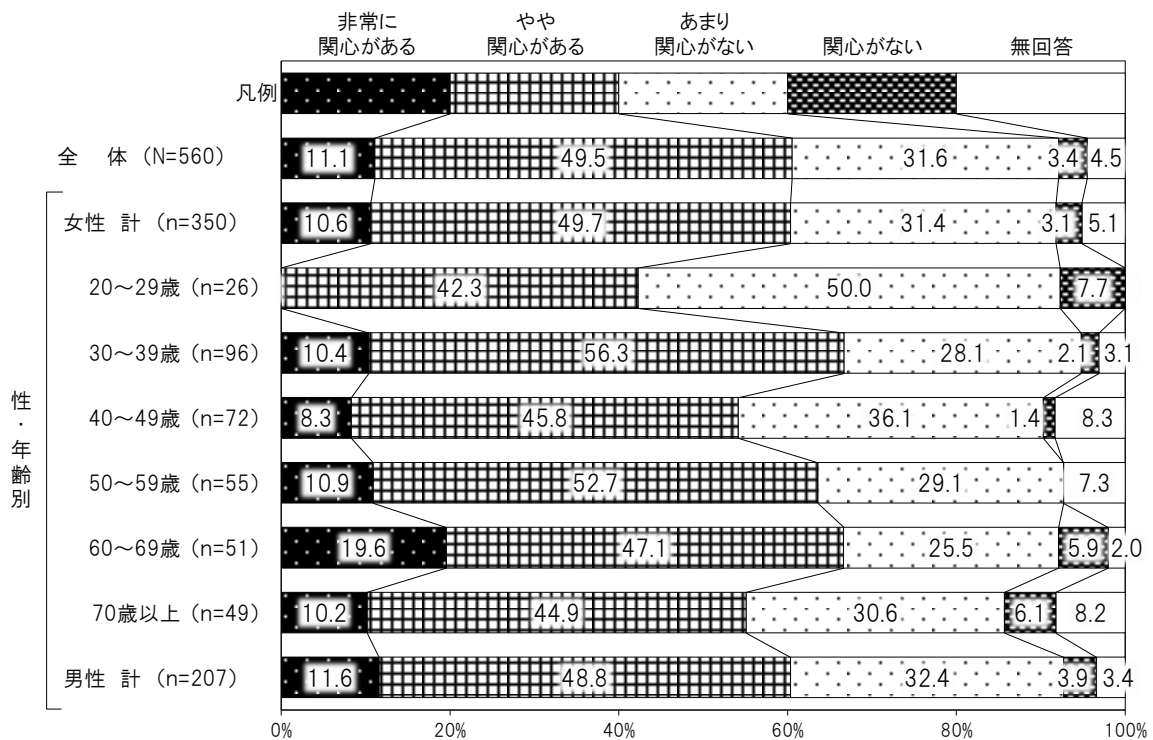
問1. あなたは男女平等や男女共同参画をテーマにする話題にどの程度関心がありますか。(〇は1つだけ)

男女平等や男女共同参画をテーマにする話題についての関心度をみると、「非常に関心がある」が11.3%、「やや関心がある」が49.5%で、これらを合わせた『関心がある』(60.8%)は6割を超えている。

性別にみると、女性、男性ともに『関心がある』(女性:60.3%、男性:60.4%)は6割を超えている。

女性年齢別にみると、20歳代では『関心がある』(42.3%)が4割程度にとどまっており、他の年代に比べ関心度が低い。

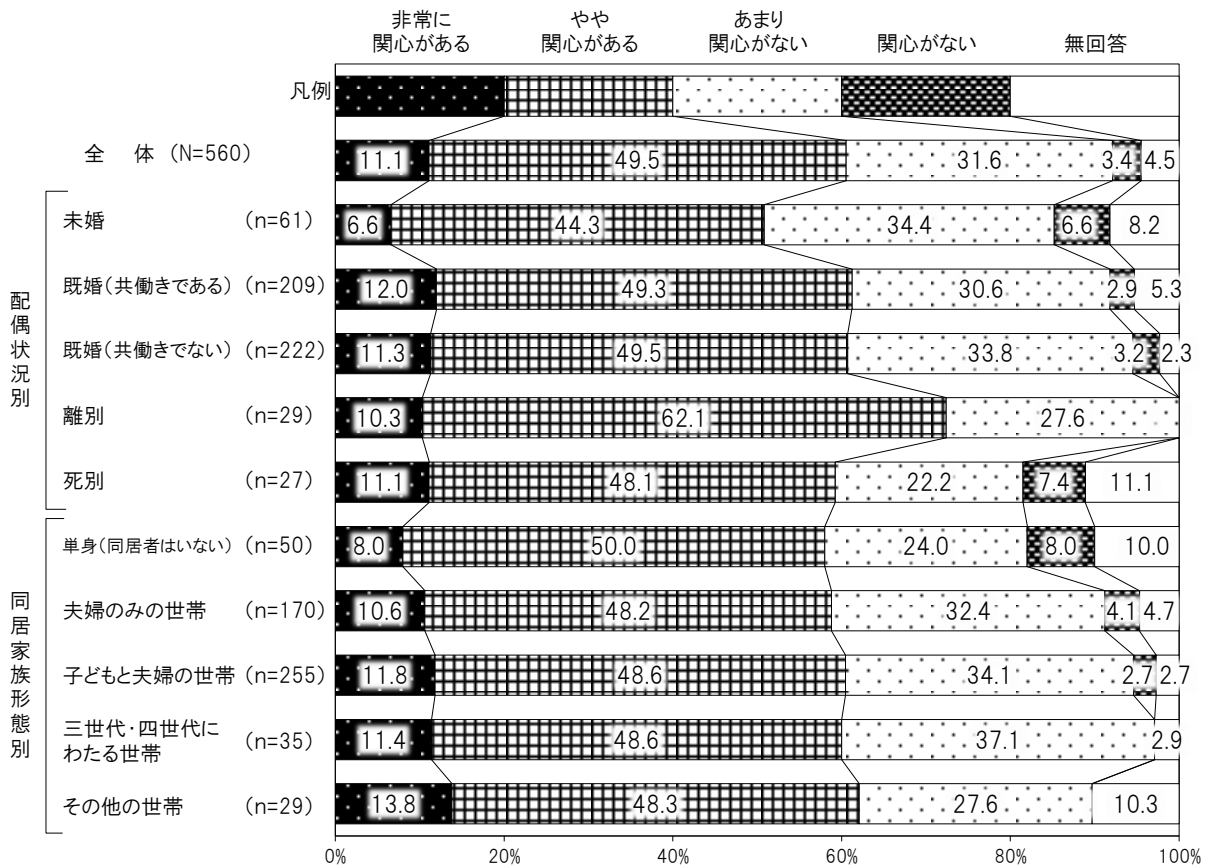
図 男女平等感や男女共同参画をテーマにする話題への関心度【性・年齢別】



配偶状況別にみると、各属性とも『関心がある』が過半数を占めており、離別者は『関心がある』が7割を超えている。

同居家族形態別にみると、各属性ともほぼ同様の傾向を示している。

図 男女平等感や男女共同参画をテーマにする話題への関心度【配偶状況別、同居家族形態別】



(2) 各分野での男女の地位の平等について

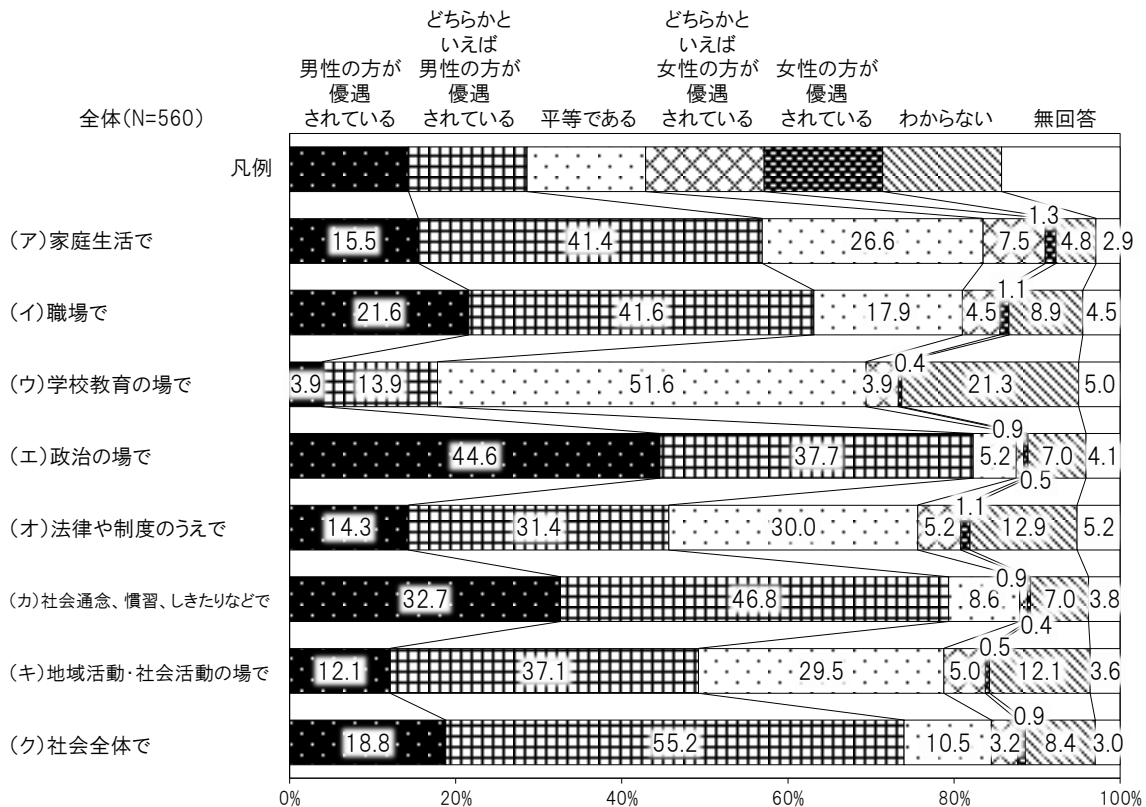
問2. あなたは、今からあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(ア) から (ク) の中からあなたの気持ちに最も近いものを1つだけお答えください。(〇はそれぞれ1つだけ)

各分野における男女の地位の平等感についてみると、「学校教育の場」は「平等である」(51.6%)の割合が最も高くなっているが、その以外の分野はすべて『男性優遇』(=「男性の方が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」)の割合が高くなっている。

中でも、「政治の場で」(82.3%)、「社会通念・慣習・しきたりなど」(79.5%)、「社会全体で」(74.0%)については、『男性の方が優遇されている』の割合が7割以上を占めている。

ちなみに、『女性優遇』(=「女性の方が優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」)と回答した人は、各分野とも1割にも満たない。

図 各分野での男女の地位の平等について【全体】

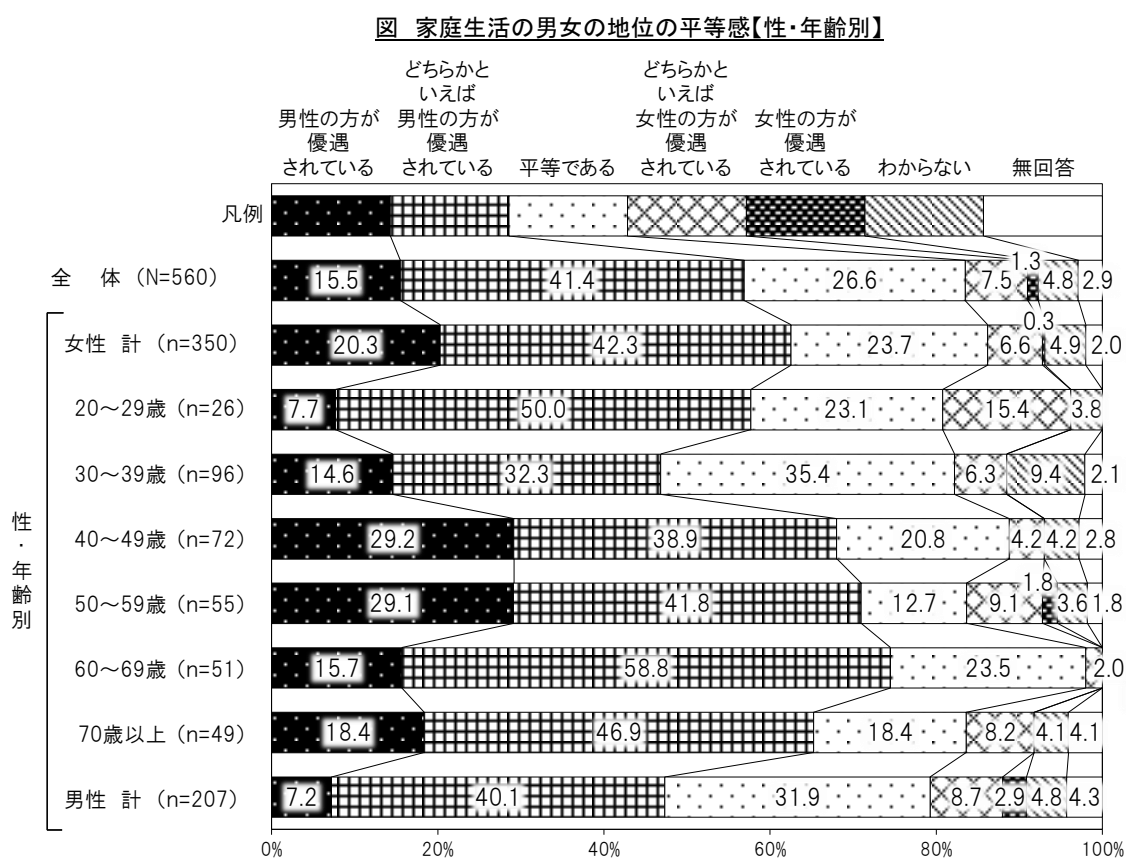


ア. 家庭生活

家庭生活においては、『男性優遇』(=「男性の方が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」)の割合が56.9%と過半数を占めている。

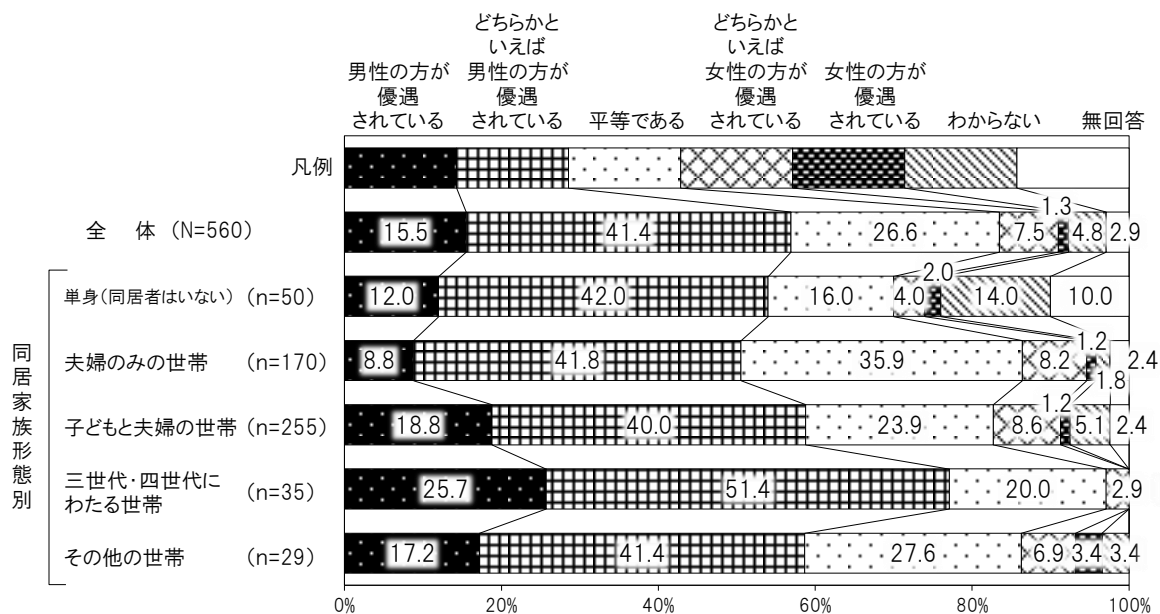
性別にみると、女性は『男性優遇』の割合が62.6%と、男性の回答結果(47.3%)を大きく上回り、女性は『男性優遇』と考える傾向が強くみられる。

女性年齢別にみると、40歳代以上においては『男性優遇』が6割以上みられる反面、30歳代では「平等」と答える人が3割強を占めている。



同居家族形態別にみると、三世代・四世代にわたる世帯では『男性優遇』の割合が7割強を占めている。

図 家庭生活の男女の地位の平等感【配偶状況別、同居家族形態別】

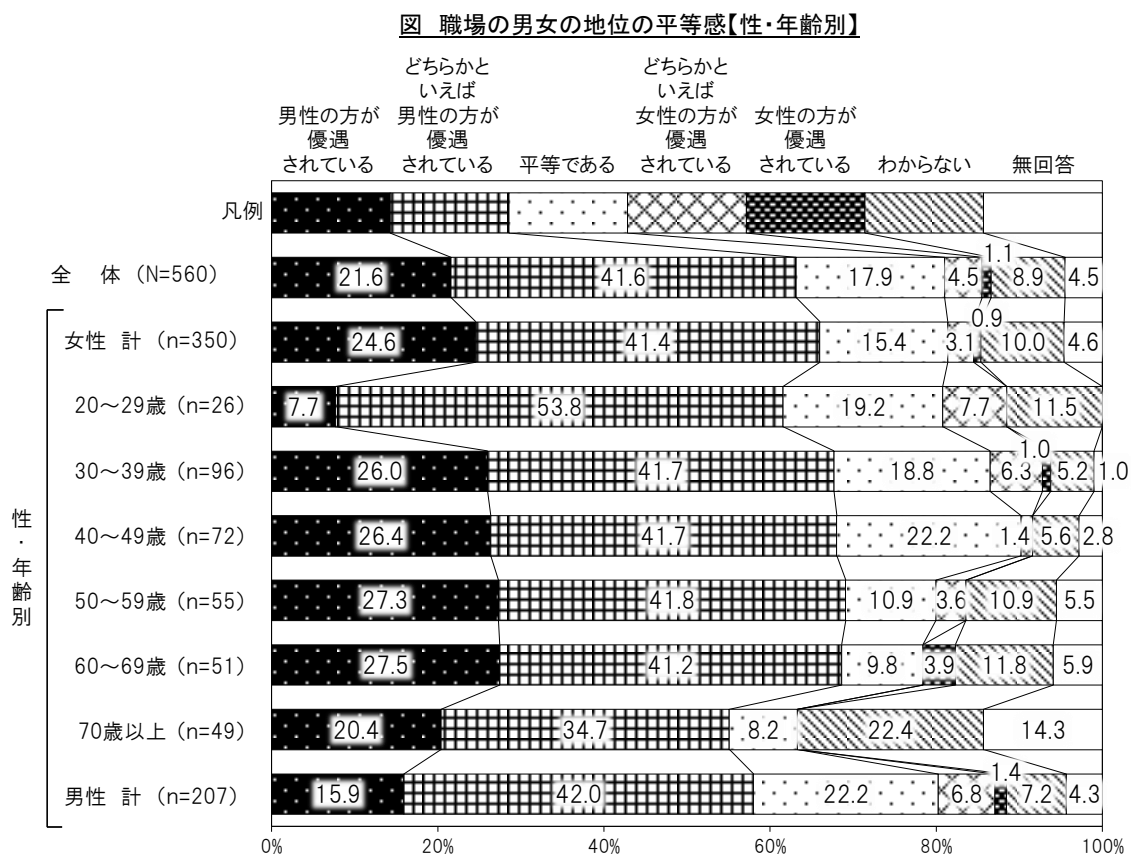


イ. 職場

職場においては、『男性優遇』(=「男性の方が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」)の割合が63.2%を占めている。

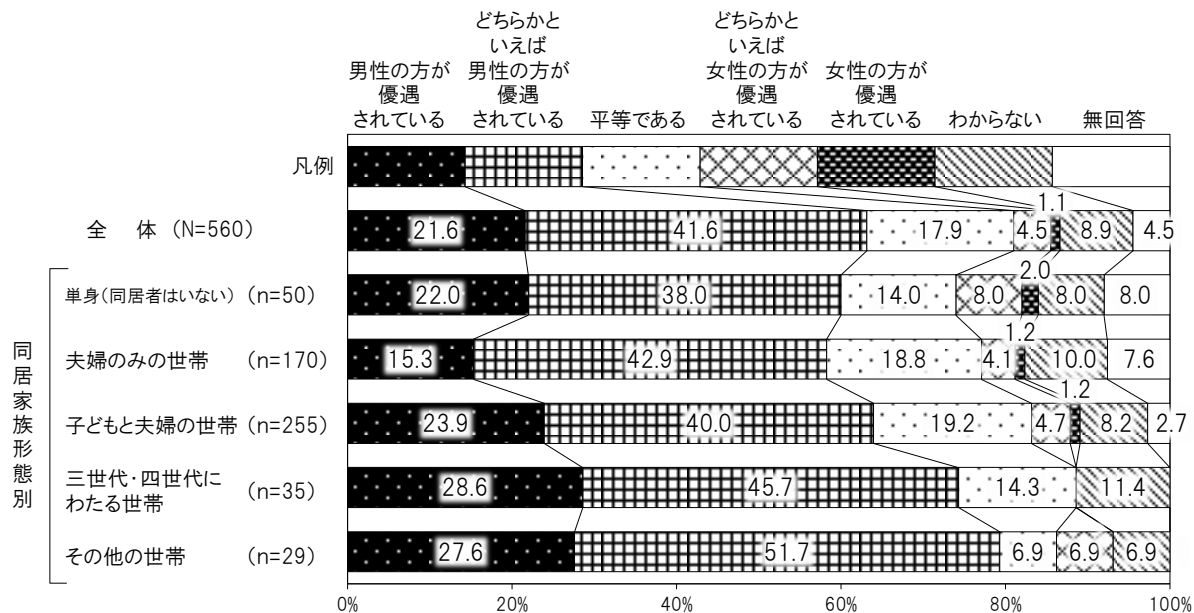
性別にみると、女性は『男性優遇』の割合が66.0%と、男性の回答結果(57.9%)を8.1ポイント上回っている。

女性年齢別にみると、いずれの年代も『男性優遇』の割合が過半数を占めている。



同居家族形態別にみると、子どもと夫婦の世帯や三世代・四世代にわたる世帯など、多世帯ほど『男性優遇』の割合が高く、三世代・四世代にわたる世帯では7割強を占めている。

図 職場の男女の地位の平等感【同居家族形態別】

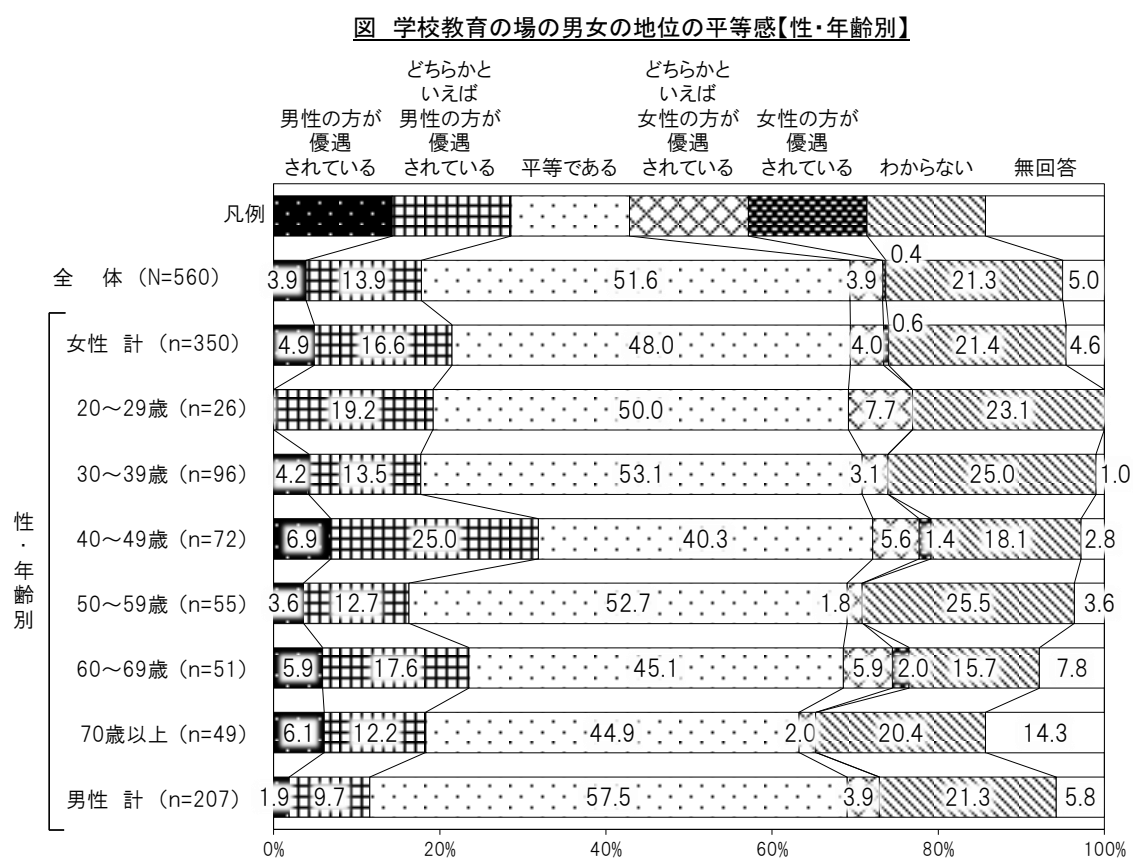


ウ. 学校教育の場

学校教育の場においては、「平等である」の割合が51.6%と過半数を占めている。

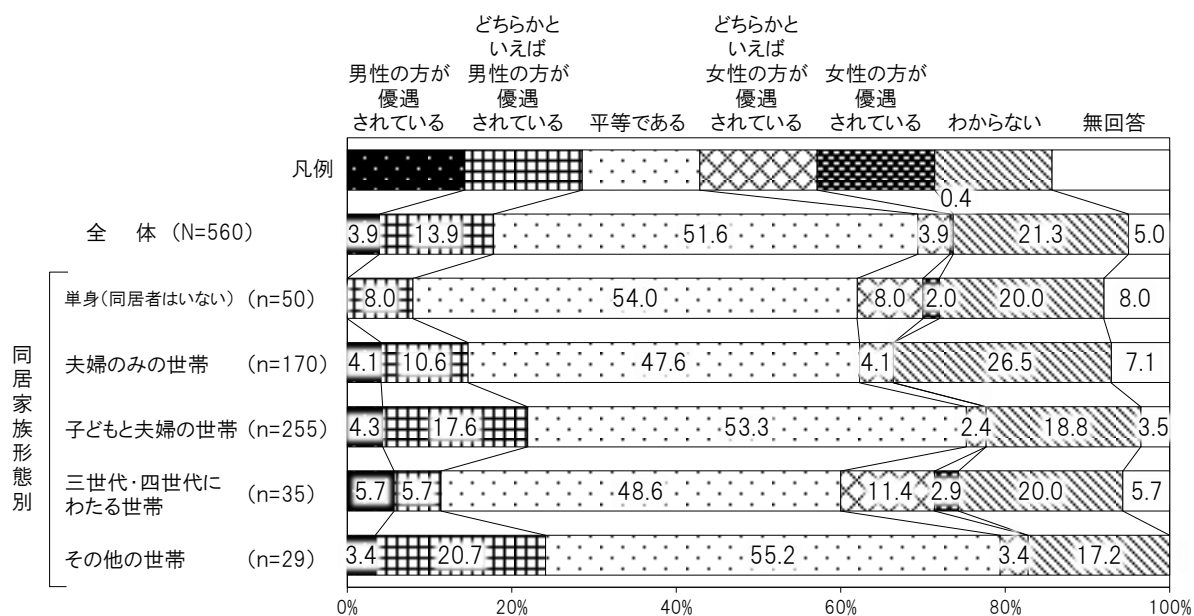
性別にみると、男女ともに「平等である」の割合が最も高くなっているものの、男性(57.5%)が女性(48.0%)を9.5ポイント上回っている。

女性年齢別にみると、いずれの年代においても「平等である」の割合が最も高くなっているものの、40歳代は4割にとどまっており、その分『男性優遇』と回答する人が多くなっている。



同居家族形態別にみると、各属性とも「平等である」と回答する人がほぼ半数を占め、最も多くなっている。

図 学校教育の場の男女の地位の平等感【同居家族形態別】

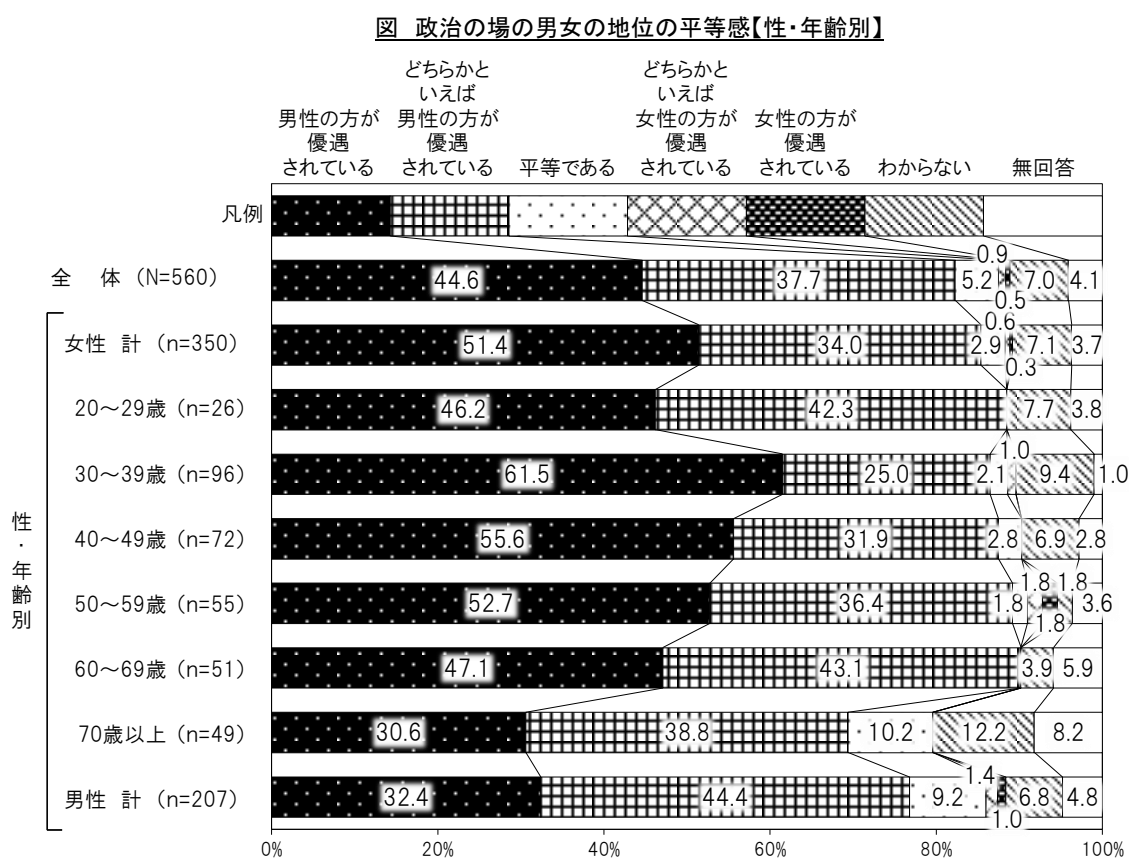


エ. 政治の場

政治の場においては、『男性優遇』(=「男性の方が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」)の割合が82.3%を占めている。

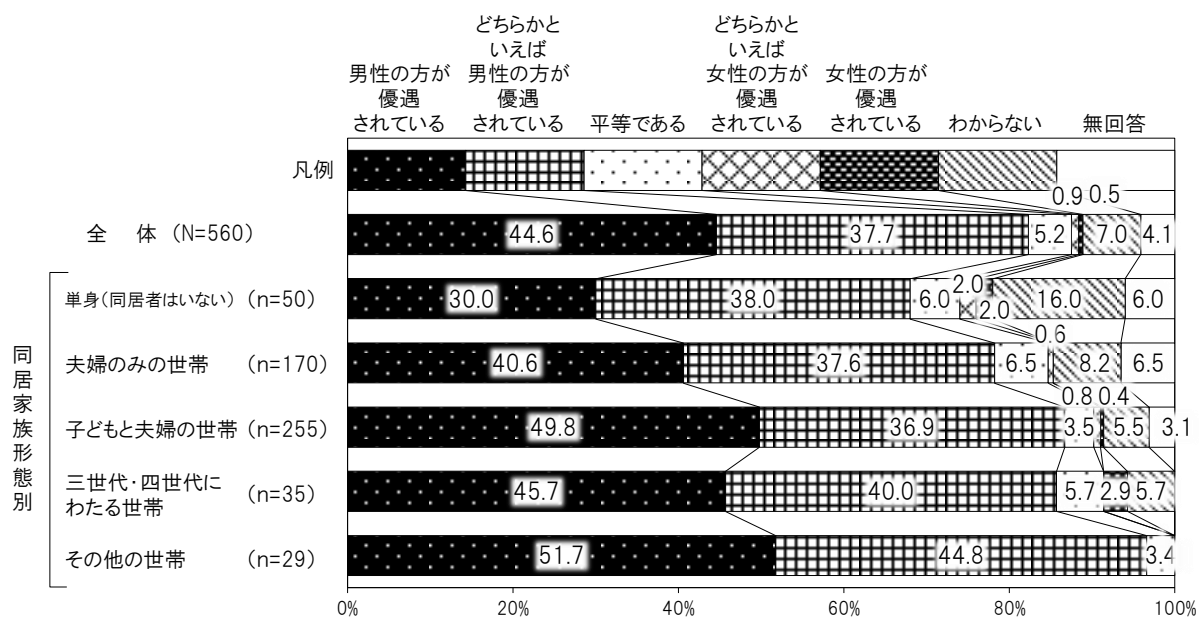
性別にみると、女性は『男性優遇』の割合が85.4%と、男性の回答結果(76.8%)を8.6ポイント上回っている。

女性年齢別にみると、いずれの年代とも『男性優遇』と回答する人が中心であり、30歳代は「男性の方が優遇されている」の割合だけで6割以上を占めている。



同居家族形態別にみると、子どもと夫婦の世帯や三世代・四世代にわたる世帯など、多世帯ほど『男性優遇』と回答する人が多くみられる。

図 政治の場の男女の地位の平等感【同居家族形態別】



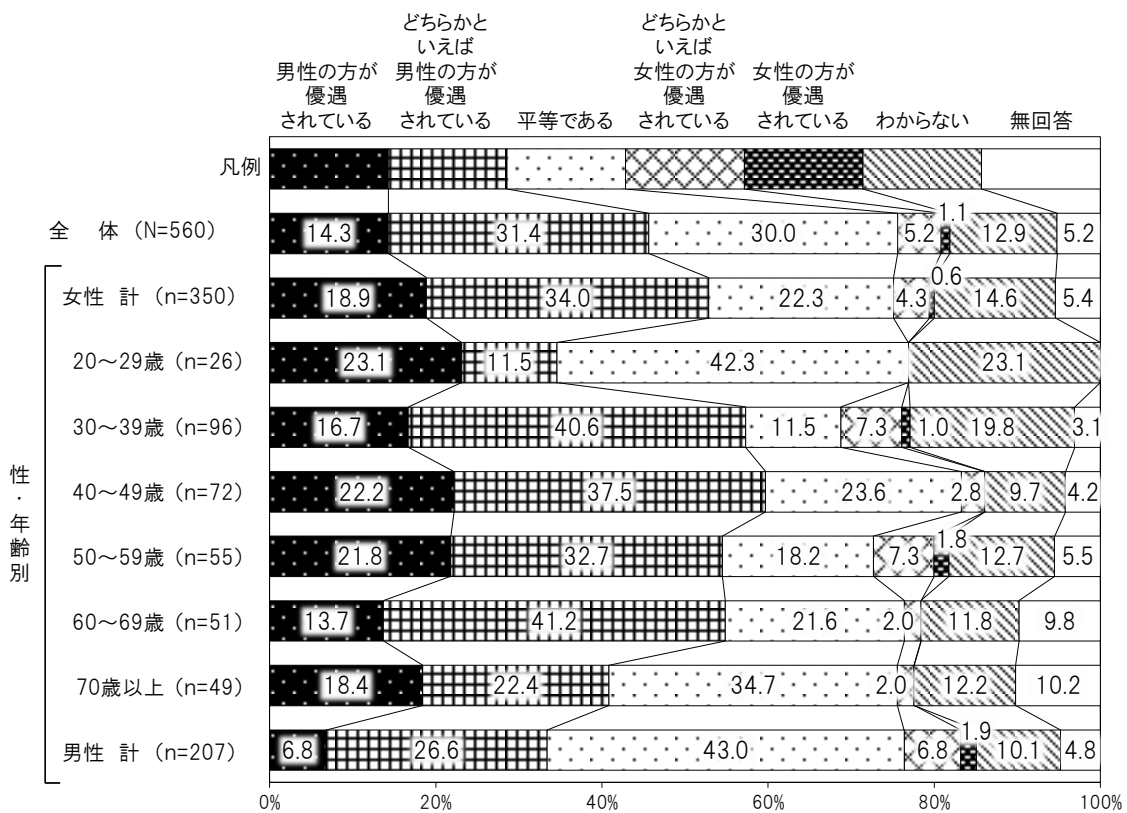
オ. 法律や制度上

法律や制度上においては、『男性優遇』(=「男性の方が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」)の割合が45.7%と約半数を占めている。

性別にみると、女性では『男性優遇』が52.9%と、男性の回答結果(33.4%)を大きく上回り、女性は『男性優遇』と考える傾向が強くみられる。

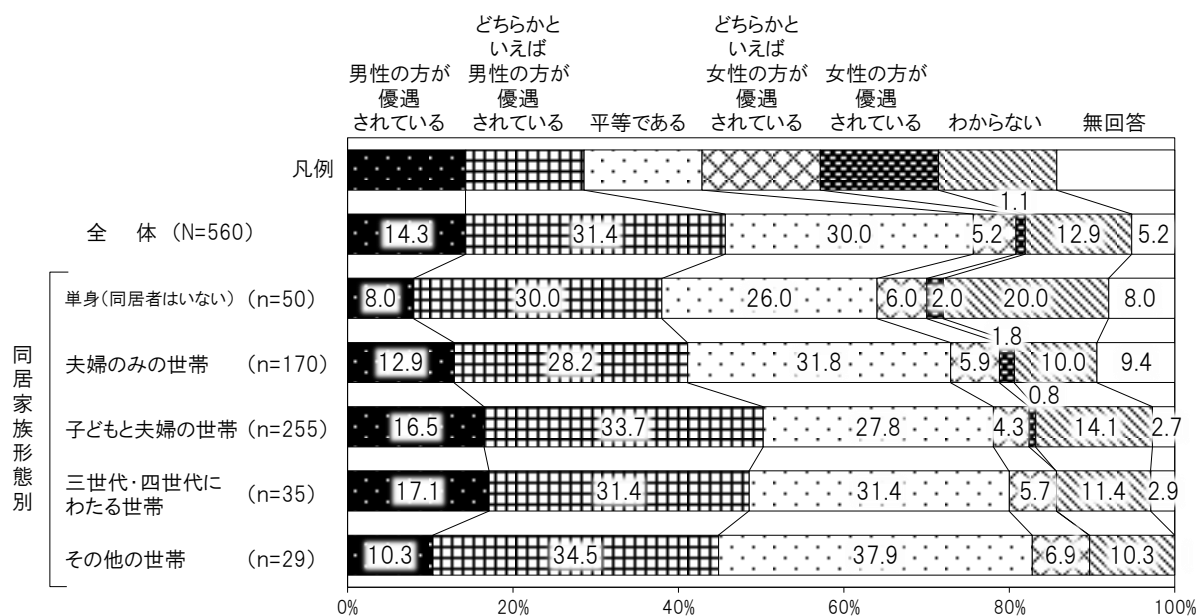
女性年齢別にみても、20歳代は「平等」が『男性優遇』を上回っているが、他の年代は40歳代を中心に『男性優遇』と考える傾向が強くみられる。

図 法律や制度上での男女の地位の平等感【性・年齢別】



同居家族形態別にみると、各属性ともほぼ同様の傾向を示している。

図 法律や制度上での男女の地位の平等感【同居家族形態別】



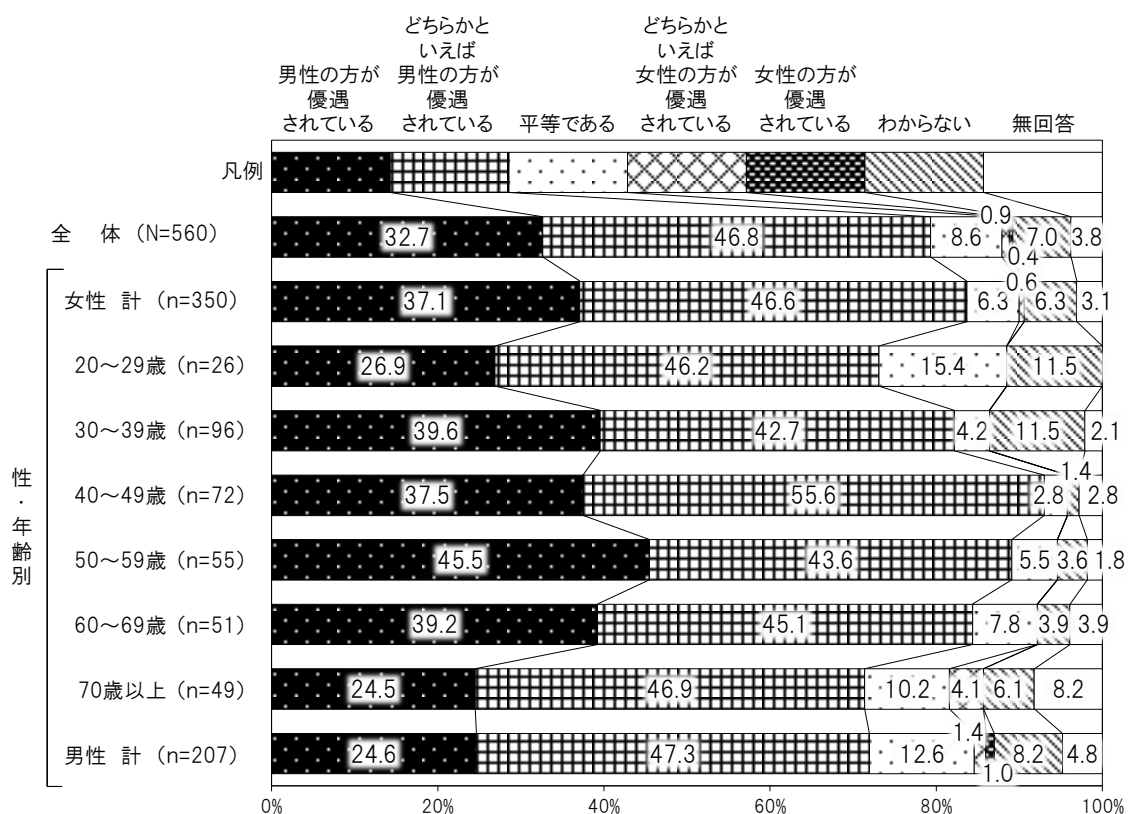
カ. 社会通念・慣習・しきたりなど

通念・慣習・しきたりなどにおいては、『男性優遇』(=「男性の方が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」)の割合が79.5%と約8割を占めている。

性別にみると、女性は『男性優遇』が83.7%と、男性の回答結果(71.9%)を11.8ポイント上回っている。

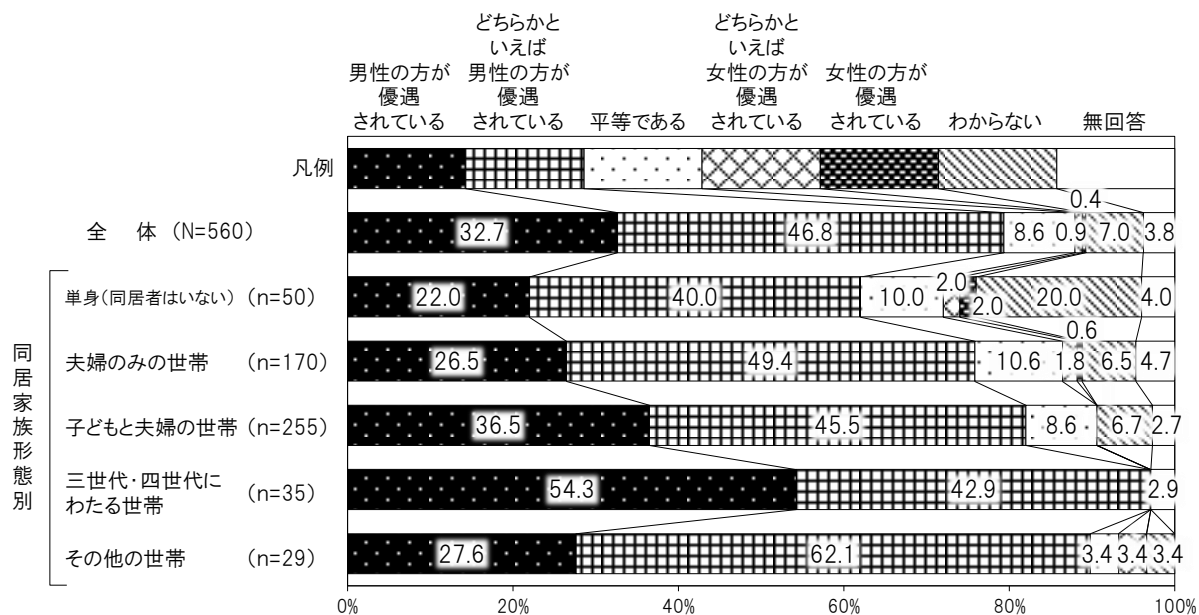
女性年齢別にみると、いずれの年代においても『男性優遇』の割合が高く、40歳代では9割を占めている。

図 社会通念・慣習・しきたりなどでの男女の地位の平等感【性・年齢別】



同居家族形態別にみると、多世帯になるほど『男性優遇』と回答する人が多く、三世代・四世代にわたる世帯では、ほぼ全員が『男性優遇』と答えている。

図 社会通念・慣習・しきたりなどでの男女の地位の平等感【同居家族形態別】



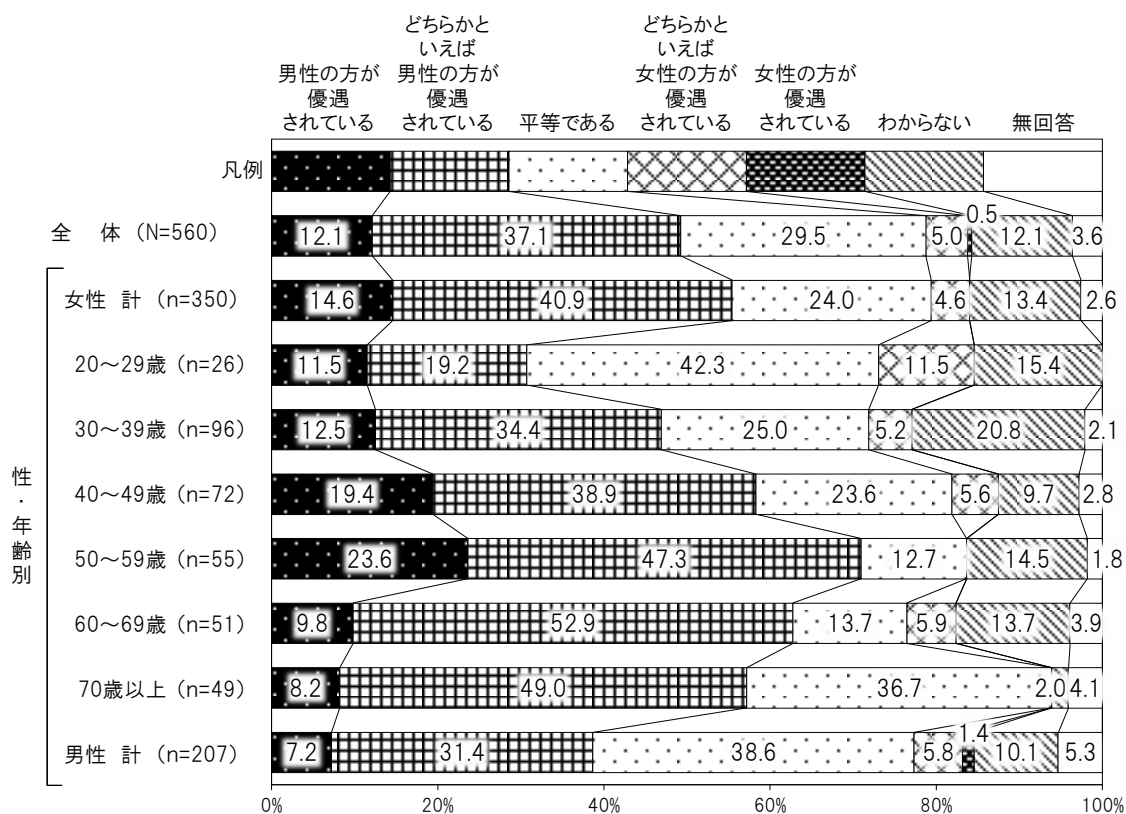
キ. 地域活動・社会活動の場

地域活動・社会活動の場においては、『男性優遇』(=「男性の方が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」)の割合が49.2%と約半数を占めている。

性別にみると、女性は『男性優遇』の割合が55.5%と、男性の回答結果(38.6%)を大きく上回り、『男性優遇』と考える傾向が強くみられる。

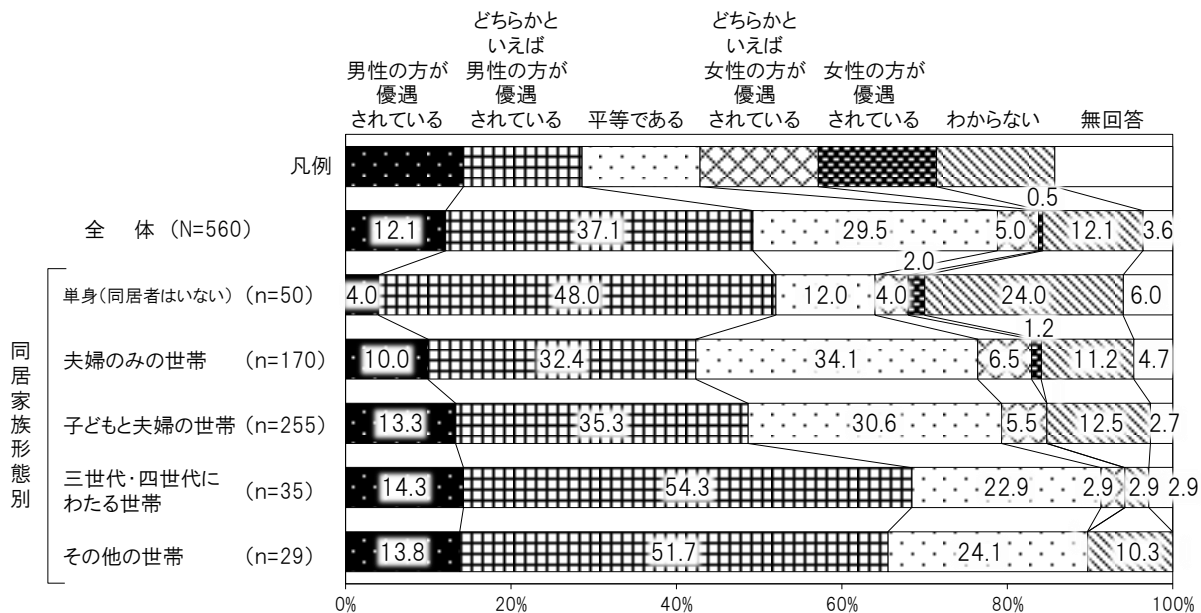
女性年齢別にみると、20歳代は「平等」が『男性優遇』を上回っているが、他の年代は50歳代を中心に『男性優遇』と考える傾向が強くみられる。

図 地域活動・社会活動の場で見えた場合の男女の地位の平等感【性・年齢別】



同居家族形態別にみると、三世代・四世代にわたる世帯においては、『男性優遇』の割合が約 7 割を占めている。

図 地域活動・社会活動の場で見た場合の男女の地位の平等感【同居家族形態別】



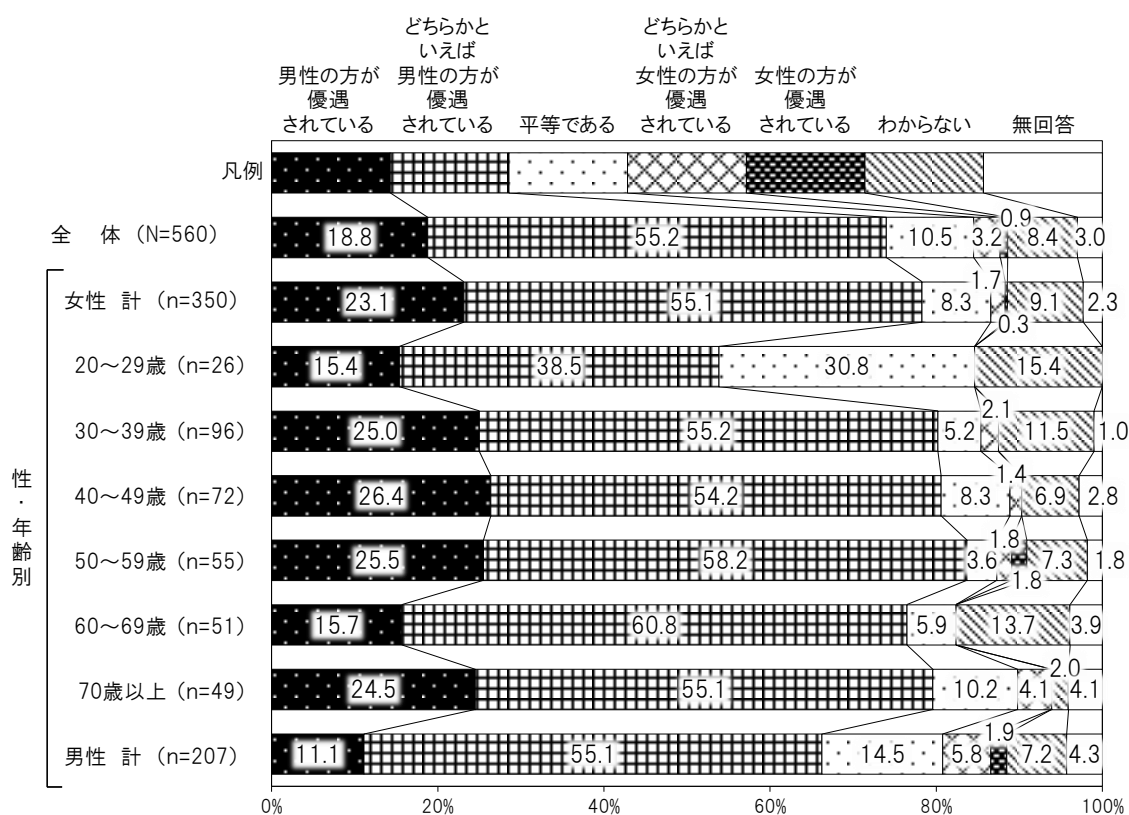
ク. 社会全体で見た場合

社会全体で見た場合においては、『男性優遇』(=「男性の方が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」)の割合が74.0%を占めている。

性別にみると、女性は『男性優遇』の割合が78.2%と、男性の回答結果(66.2%)を12.0ポイント上回っている。

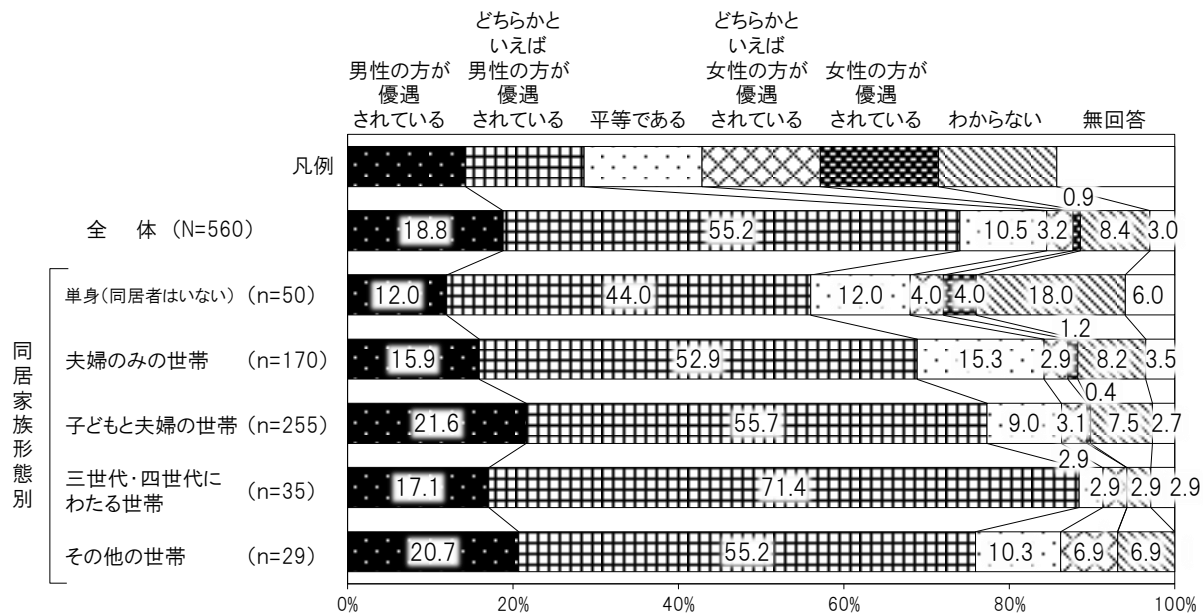
女性年齢別にみると、いずれの年代においても『男性優遇』と考える傾向が強いが、20歳代では「平等である」と回答する人が多くみられる。

図 社会全体で見た場合の男女の地位の平等感【性・年齢別】



同居家族形態別にみると、子どもと夫婦の世帯や三世代・四世代にわたる世帯など、多世帯ほど『男性優遇』の割合が高く、三世代・四世代にわたる世帯では約9割強を占めている。

図 社会全体で見た場合の男女の地位の平等感【同居家族形態別】



(3) 固定的性別役割分担意識について

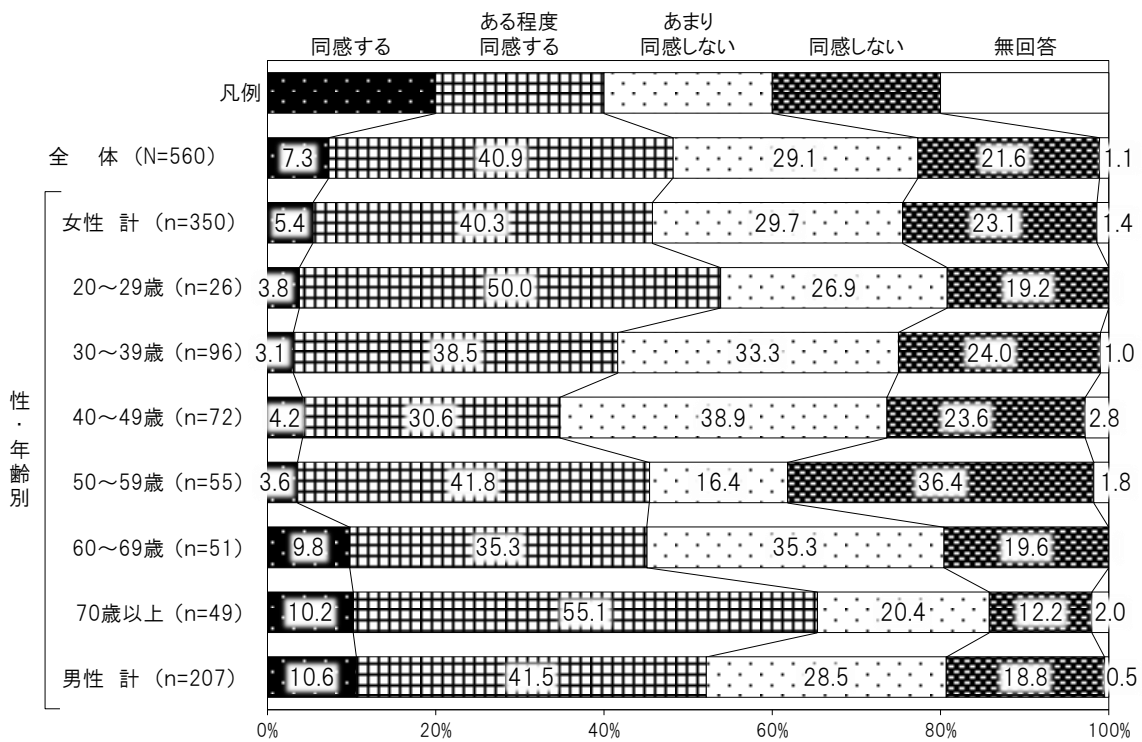
問3. 「男は仕事、女は家庭」という考え方があります。あなた自身の気持ちとしては、この考え方にどの程度同感しますか。(〇は1つだけ)

「男は仕事、女は家庭」という考え方に対して同感するかどうか尋ねたところ、「同感する」(7.3%)と「ある程度同感する」(40.9%)を合わせた『同感する』の割合は 48.2%で、「同感しない」(21.6%)と「あまり同感しない」(29.1%)を合わせた『同感しない』(50.7%)とほぼ拮抗している。

性別にみると、男性が女性に比べ『同感する』の割合が高くなっている。

女性年齢別にみると、30歳代～60歳代では『同感しない』が過半数を占めるものの、20歳代及び70歳以上は、『同感する』が『同感しない』を上回っている。

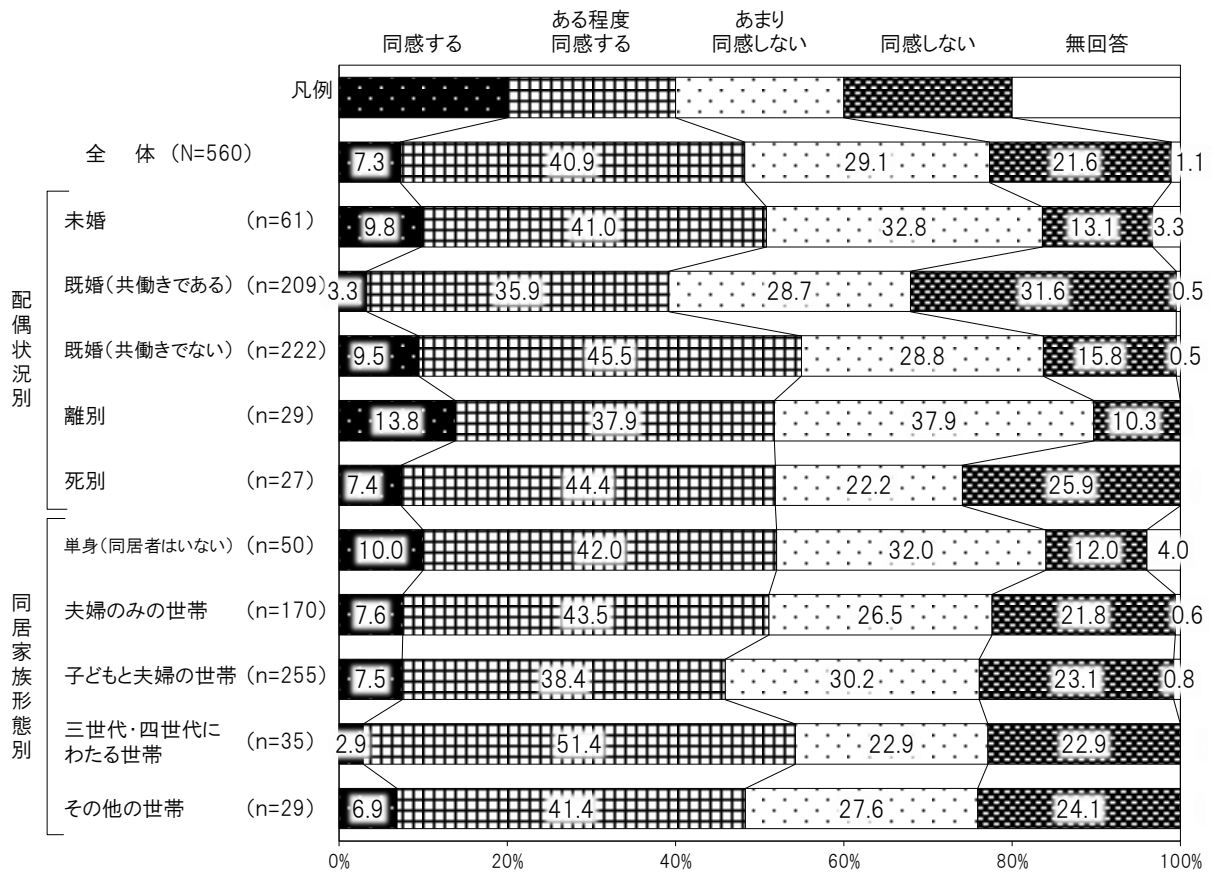
図 固定的性別役割分担意識について【性・年齢別】



配偶状況別にみると、ほぼ属性とも『同感する』が過半数を占めているが、唯一、既婚(共働きである)は『同感しない』が『同感する』を上回っている。

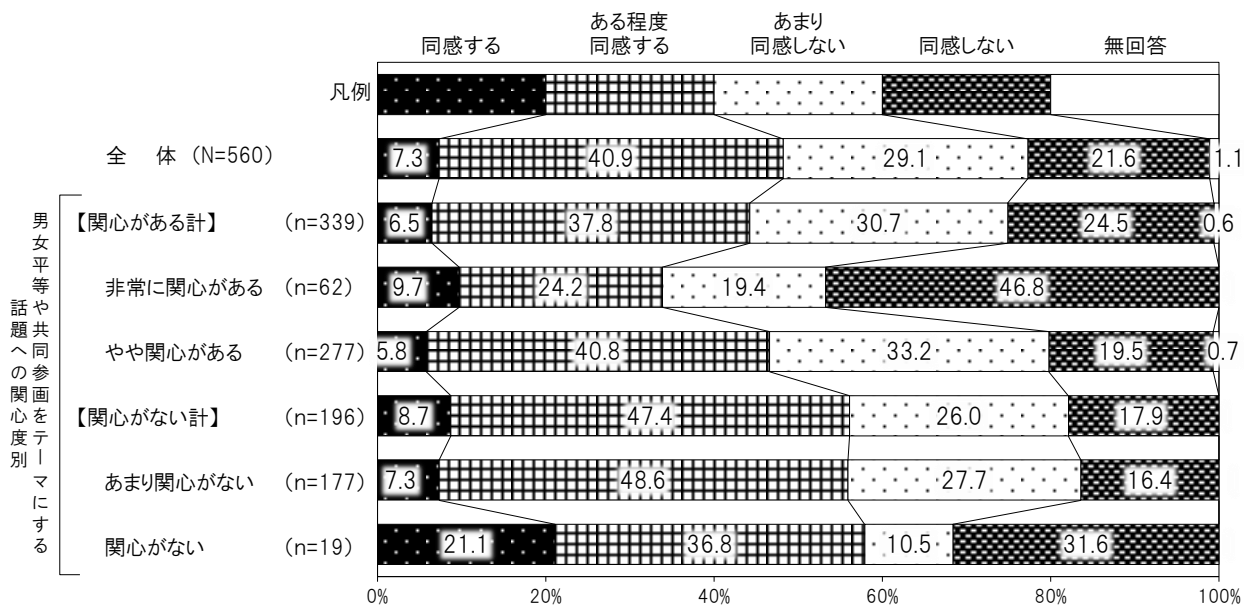
同居家族形態別にみると、子どもと夫婦の世帯とその他の世帯においては、『同感しない』が『同感する』を上回っている。

図 固定的性別役割分担意識について【配偶状況別、同居家族形態別】



男女平等や共同参画をテーマにする話題への関心度別にみると、関心度が高くなるほど固定的性別役割分担意識に関して『同感しない』という割合が高くなっている。

図 固定的性別役割分担意識について【男女平等や共同参画をテーマにする話題への関心度別】



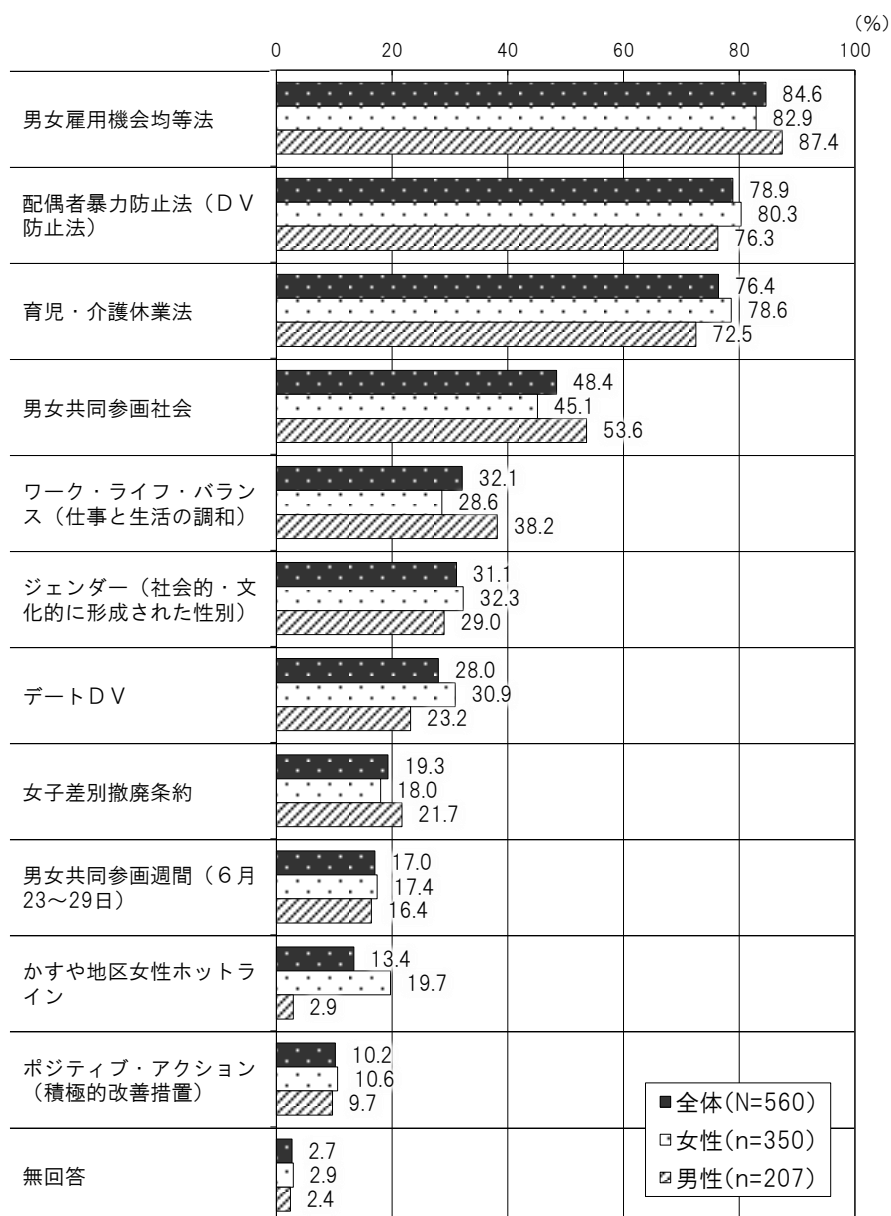
(4) 見たり聞いたりしたことがある言葉

問4. これらの言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものをすべてあげてください。
(〇はいくつでも)

男女共同参画関連用語・事業の認知状況をみると、「男女雇用機会均等法」が 84.5%で最も高く、次いで「配偶者暴力防止法(DV防止法)」(78.9%)、「育児・介護休業法」(76.4%)の順となっている。

性別にみると、女性は男性に比べ「デートDV」、「かすや地区女性ホットライン」の割合が高くなっている。一方、男性は女性に比べ「男女共同参画社会」、「ワーク・ライフ・バランス」の割合が高くなっている。

図 見たり聞いたりしたことがある言葉【性別】



女性年齢別にみると、20歳代～40歳代では「男女雇用機会均等法」、50歳代と70歳以上で「育児・介護休業法」、60歳代では「配偶者暴力防止法(DV防止法)」の割合が最も高くなっている。また、50歳代は「育児・介護休業法」、50歳代～60歳代は「配偶者暴力防止法(DV防止法)」の割合が9割程度を占めている。

表 見たり聞いたりしたことがある言葉【性・年齢別】

(単位:%)

	サンプル数	男女雇用機会均等法	V配偶者暴力防止法(D)	育児・介護休業法	男女共同参画社会	ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	別文化的に形成された性・別	ジェンダー(社会的性・別)	デートDV	女子差別撤廃条約	男女共同参画週間(6月23日～29日)	ラサヤ地区女性ホットライン	ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	無回答
全 体	560	84.6	78.9	76.4	48.4	32.1	31.1	28.0	19.3	17.0	13.4	10.2	2.7	
性・年齢別	女性 計	350	82.9	80.3	78.6	45.1	28.6	32.3	30.9	18.0	17.4	19.7	10.6	2.9
	20～29歳	26	80.8	61.5	61.5	61.5	30.8	34.6	30.8	19.2	15.4	23.1	7.7	-
	30～39歳	96	85.4	74.0	77.1	33.3	30.2	34.4	33.3	22.9	15.6	24.0	9.4	4.2
	40～49歳	72	88.9	83.3	70.8	41.7	30.6	41.7	38.9	12.5	18.1	20.8	9.7	2.8
	50～59歳	55	83.6	89.1	90.9	52.7	40.0	34.5	27.3	14.5	21.8	20.0	20.0	1.8
	60～69歳	51	80.4	90.2	82.4	52.9	19.6	25.5	25.5	15.7	15.7	11.8	13.7	2.0
	70歳以上	49	71.4	77.6	85.7	49.0	18.4	16.3	24.5	20.4	18.4	14.3	2.0	4.1
男性 計	207	87.4	76.3	72.5	53.6	38.2	29.0	23.2	21.7	16.4	2.9	9.7	2.4	

2. 家庭生活について

(1) 家事を男女で分担することについて

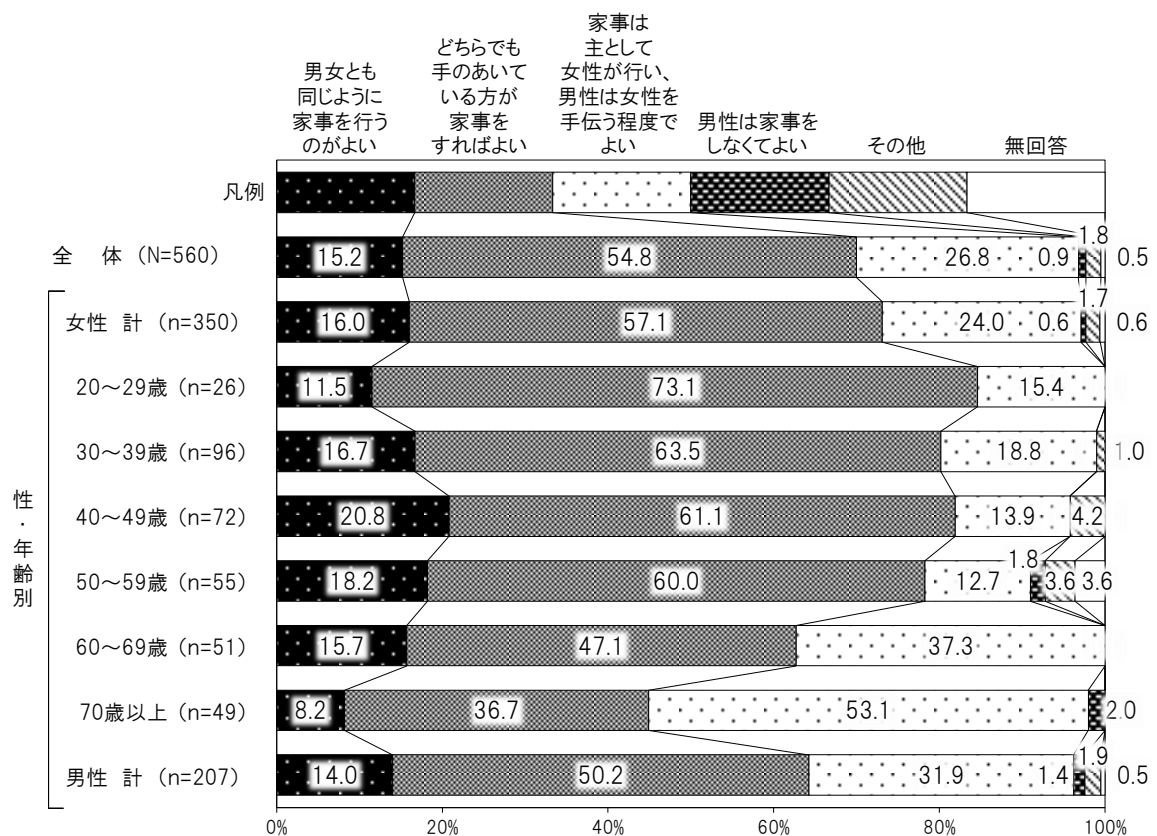
問5. あなたは家事を男女で分担することについてどう思いますか。(〇は1つだけ)

家事を男女で分担することに対する意識をみると、「どちらでも手のあいている方が家事をすればよい」(54.8%)が最も多く、次いで「家事は主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度でよい」(26.8%)、「男女とも同じように家事を行うのがよい」(15.2%)、「男性は家事をしなくてよい」(0.9%)の順となっている。

性別にみると、男女ともに、「どちらでも手のあいている方が家事をすればよい」の割合が最も高く、過半数を占めている。

女性年齢別にみると、20歳代～60歳では「どちらでも手のあいている方が家事をすればよい」の割合が最も高くなっているが、70歳以上においては「家事は主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度でよい」と回答する人が過半数を占めている。

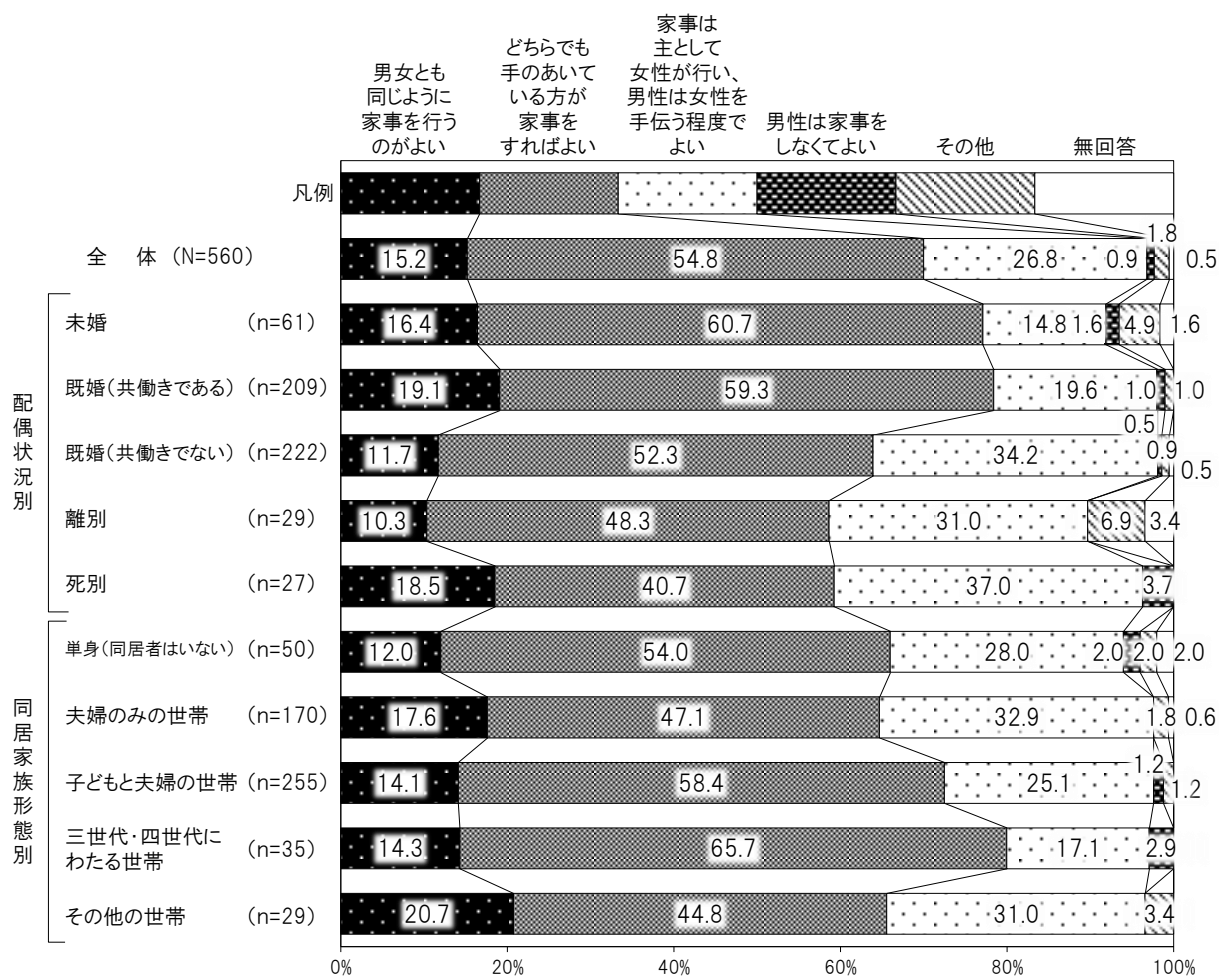
図 家事を男女で分担することについて【性・年齢別】



配偶状況別にみると、各属性とも「どちらでも手のあいている方が家事をすればよい」と回答する人が最も多く、未婚者及び既婚者(共働きである)は6割程度を占める。

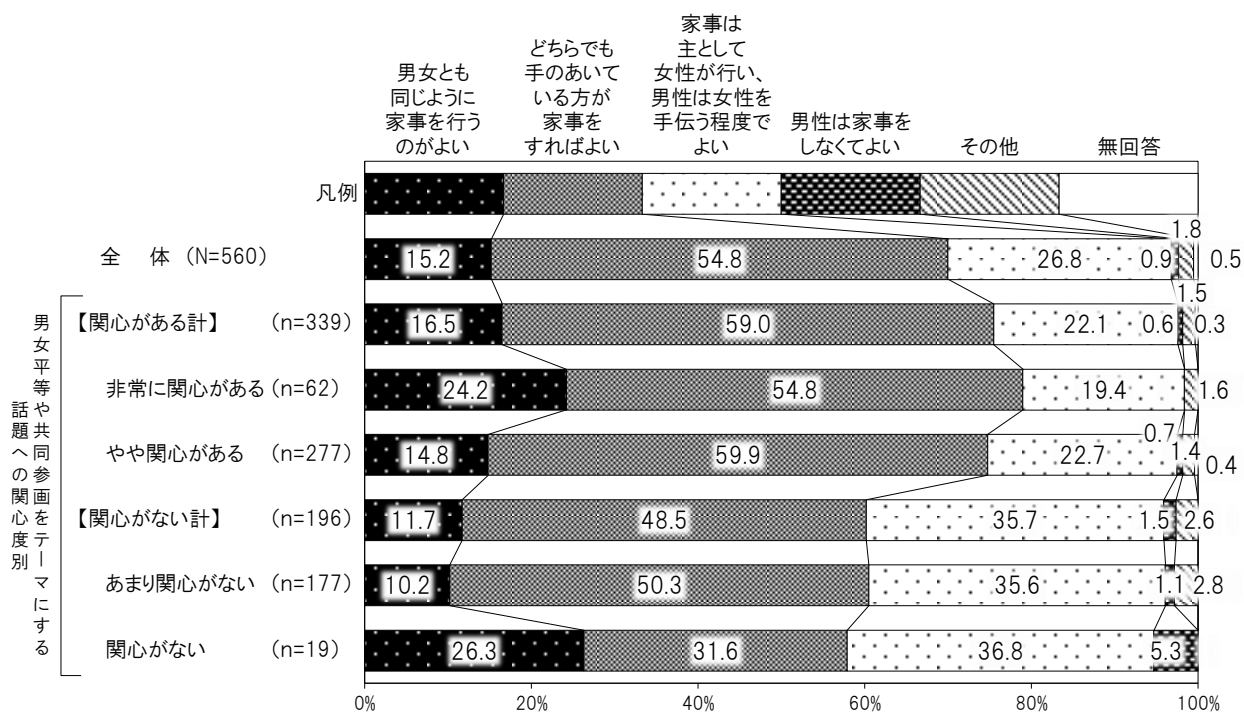
同居家族形態別にみると、子どもと夫婦の世帯や三世代・四世代にわたる世帯など、多世帯ほど「どちらでも手のあいている方が家事をすればよい」と回答する人が最も多く、三世代・四世代にわたる世帯では8割を占めている。

図 家事を男女で分担することについて【性・年齢別】



男女平等や共同参画をテーマにする話題への関心度別にみると、各層とも「どちらでも手のあいている方が家事をすればよい」と回答する人が最も多いものの、関心度が低くなるほど「家事は主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度でよい」という割合が高くなっている。

図 家事を男女で分担することについて【男女平等や共同参画をテーマにする話題への関心度別】



(2) 家庭内の役割分担状況

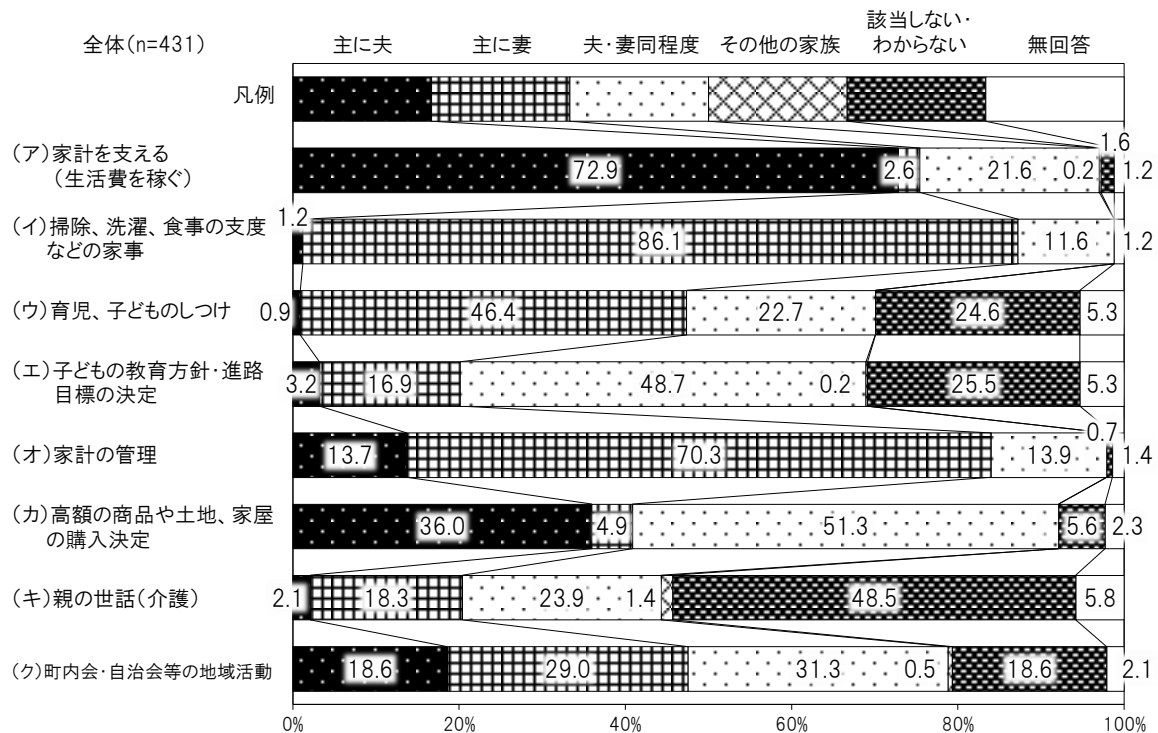
問6. (現在、「配偶者・パートナー（事実婚含む）と同居している方」にお尋ねします)
 あなたの家庭では、次にあげるようなことを、主にどなたがされていますか。(ア) から (ク) について、それぞれ選んでください。(〇はそれぞれ1つだけ)

家庭内の役割分担状況をみると、「(イ) 掃除、洗濯、食事の支援などの家事」、「(ウ) 育児、子どものしつけ」、「(オ) 家計の管理」は、「主に妻」が担う割合が最も高く、中でも「(イ) 掃除、洗濯、食事の支援などの家事」(86.1%)、「(オ) 家計の管理」(70.3%)は、ほとんどが妻の役割となっている。

一方、「主に夫」が担う割合が最も高い項目は、「(オ) 家計を支える(生活費を稼ぐ)」(72.9%)という役割に特化している。

また、「(エ) 子どもの教育方針・進路目標の決定」、「(カ) 高額な商品や土地、家屋の購入決定」、「(キ) 親の世話(介護)」、「(ク) 町内会・自治会等の地域活動」については、「夫・妻同程度」の割合が最も高くなっている。

図 家庭内の役割分担状況【全体】



ア. 家計を支える（生活費を稼ぐ）

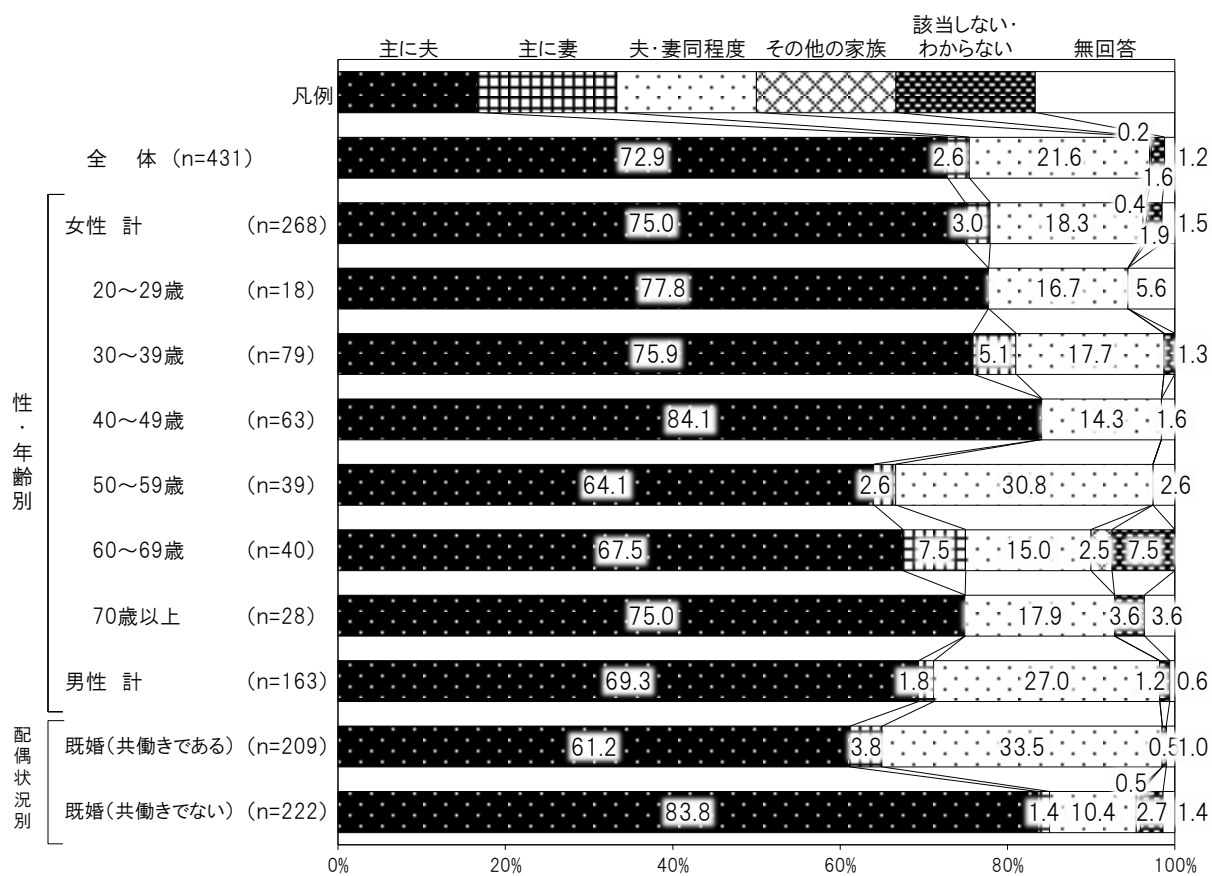
家計を支える(生活費を稼ぐ)については、「主に夫」の割合が72.9%を占めている。

性別にみると、男女とも「主に夫」の割合が最も高くなっている。

女性年齢別にみると、いずれの年代も「主に夫」の割合が最も高い反面、50歳代は「夫・妻同程度」の割合が他の年代に比べて高くなっている。

配偶状況別にみると、いずれの属性も「主に夫」の割合が最も高い反面、既婚(共働きである)のほぼ3分の1が「夫・妻同程度」と回答している。

図 家計を支える(生活費を稼ぐ)役割分担状況【性・年齢別、配偶状況別】



イ. 掃除、洗濯、食事の支度などの家事

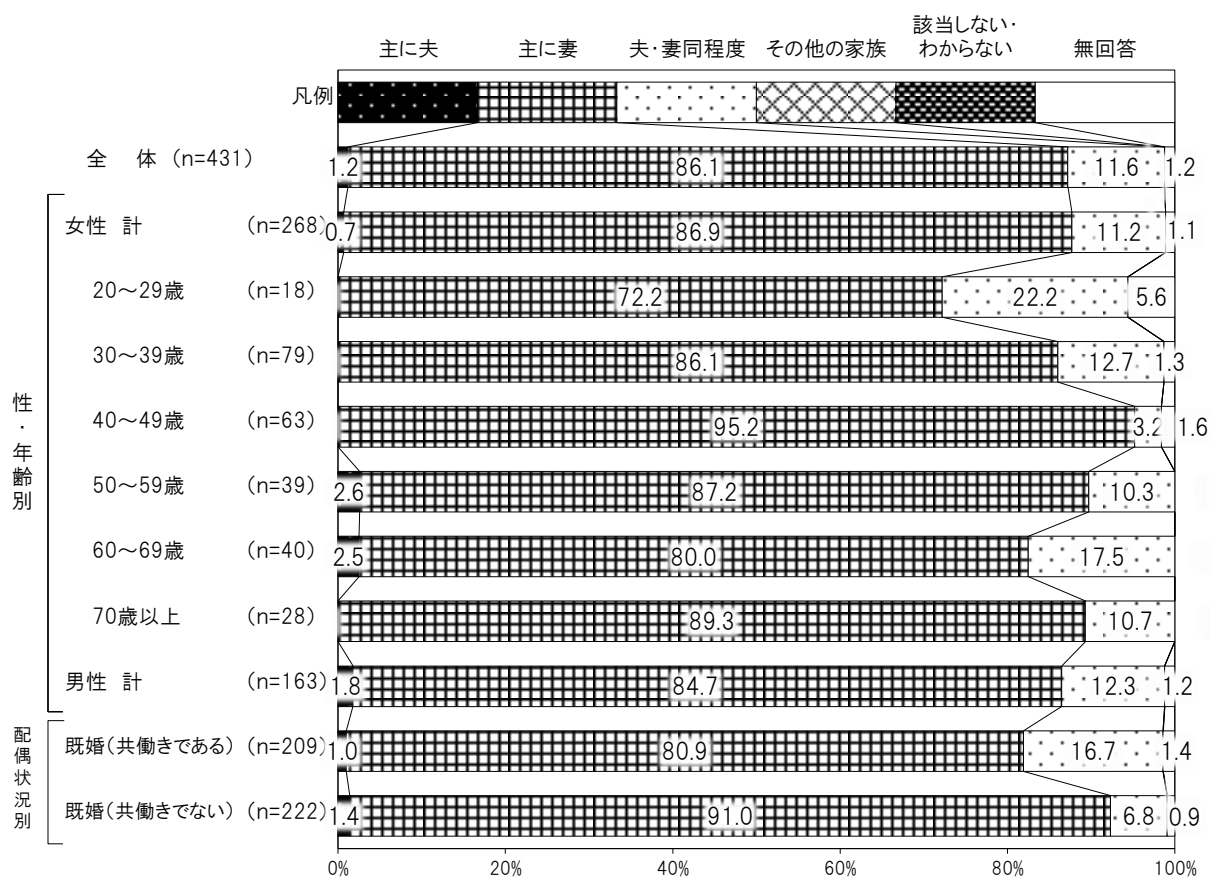
掃除、洗濯、食事の支度などの家事については、「主に妻」(86.1%)の特化している。

性別にみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。

女性年齢別にみると、すべての年代で「主に妻」という回答が中心であるが、20歳代では「夫・妻同程度」(22.2%)が2割以上みられる。

配偶状況別にみると、いずれの属性も「主に妻」の割合が中心であるが、「夫・妻同程度」は、既婚(共働きである)が既婚(共働きではない)を9.9ポイント上回っている。

図 掃除、洗濯、食事の支度などの家事の役割分担状況【性・年齢別、配偶状況別】



ウ. 育児、子どものしつけ

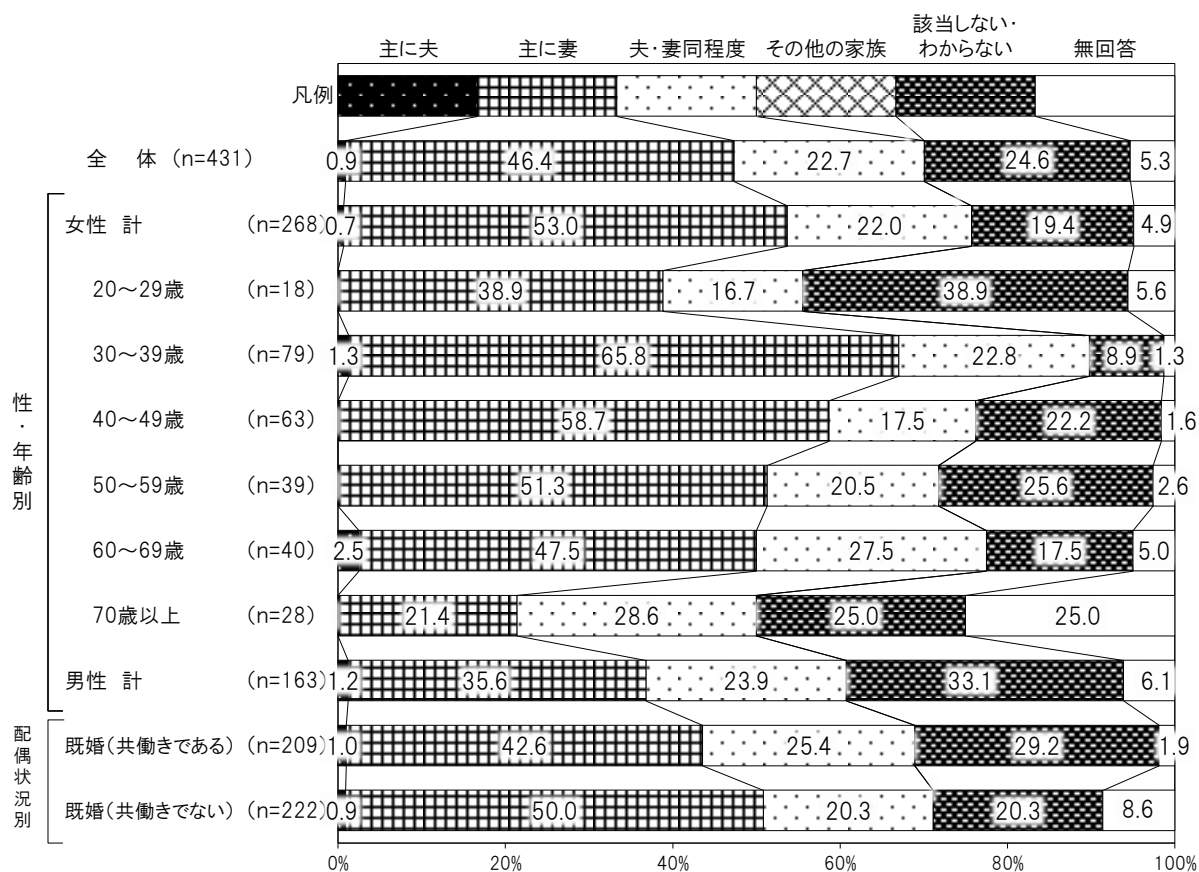
育児、子どものしつけについては、「主に妻」の割合が 46.4%で最も高く、次いで「その他の家族」(24.6%)、「夫・妻同程度」(22.7%)となっている。

性別にみると、女性は「主に妻」の割合が 53.0%と、男性の回答結果(35.6%)を大きく上回り、男女による意識の差がみられる。

女性年齢別にみると、30歳代～60歳代は「主に妻」と回答する人が中心であり、30歳代の3人に1人はそう捉えている。一方、20歳代は「主に妻」と「夫・妻同程度」が同じ割合となっている。

配偶状況別にみると、いずれの属性も「主に夫」の割合が最も高いが、「夫・妻同程度」は、既婚(共働きである)が既婚(共働きではない)を5.1ポイント上回っている。

図 育児、子どものしつけの役割分担状況【性・年齢別、配偶状況別】



エ. 子どもの教育方針・進路目標の決定

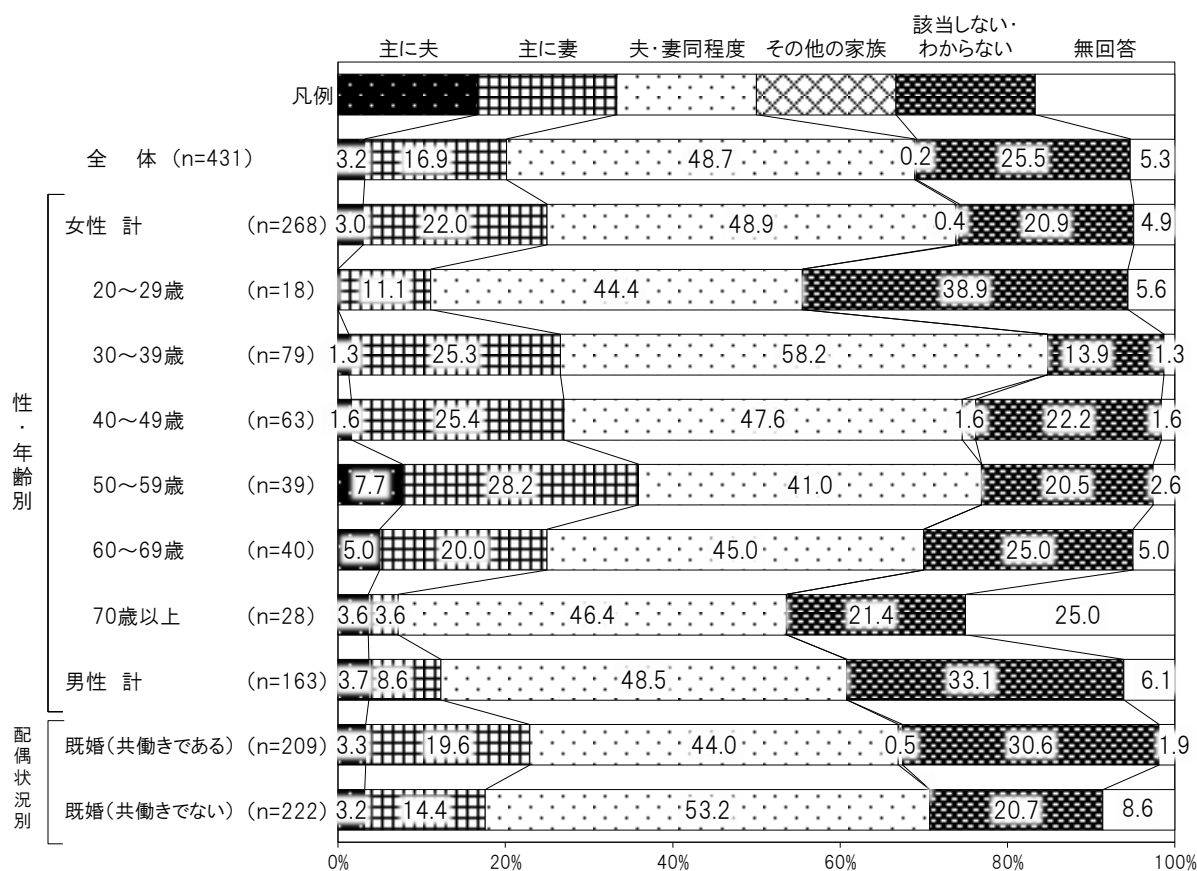
子どもの教育方針・進学目標の決定については、「夫・妻同程度」の割合が 48.7%で最も高く、次いで「主に妻」(16.9%)の順となっている。

性別にみると、男女とも「夫・妻同程度」の割合が最も高く、半数程度を占めている。

女性年齢別にみると、いずれの年代も「夫・妻同程度」の割合が最も高いものの、30歳代～50歳代では「主に妻」と回答する人が2割強を占める。

配偶状況別にみると、いずれの属性も「夫・妻同程度」の割合が最も高い。

図 子どもの教育方針・進路目標の決定の役割分担状況【性・年齢別、配偶状況別】



オ. 家計の管理

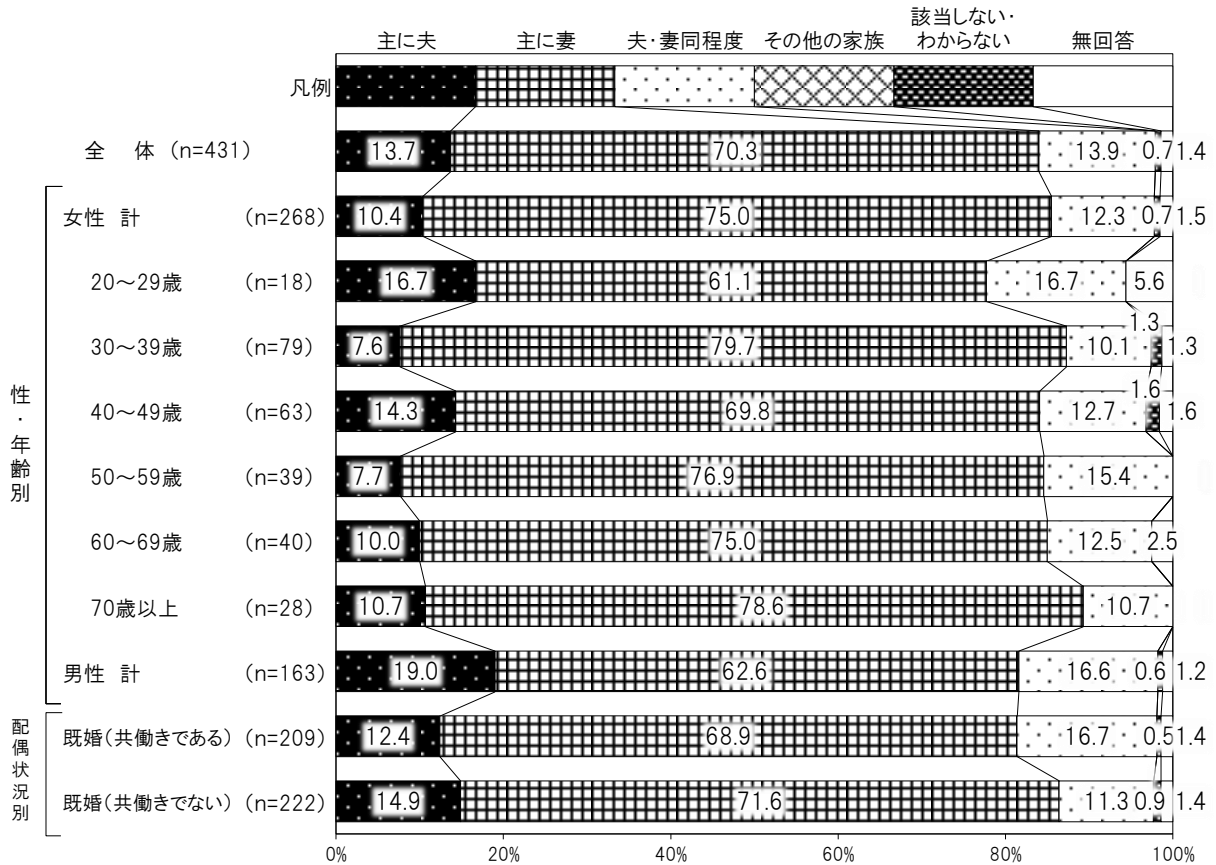
家計の管理については、「主に妻」の割合が70.3%を占めている。

性別にみると、女性は「主に妻」の割合が75.0%と、男性の回答結果(62.6%)を12.4ポイント上回っている。

女性年齢別にみると、いずれの年代も「主に妻」の割合が最も高くなっている。

配偶状況別にみると、いずれの属性も「主に妻」の割合が中心であるが、「夫・妻同程度」は、既婚(共働きである)が既婚(共働きではない)を5.4ポイント上回っている。

図 家計の管理の役割分担状況【性・年齢別、配偶状況別】



カ. 高額な商品や土地、家屋の購入決定

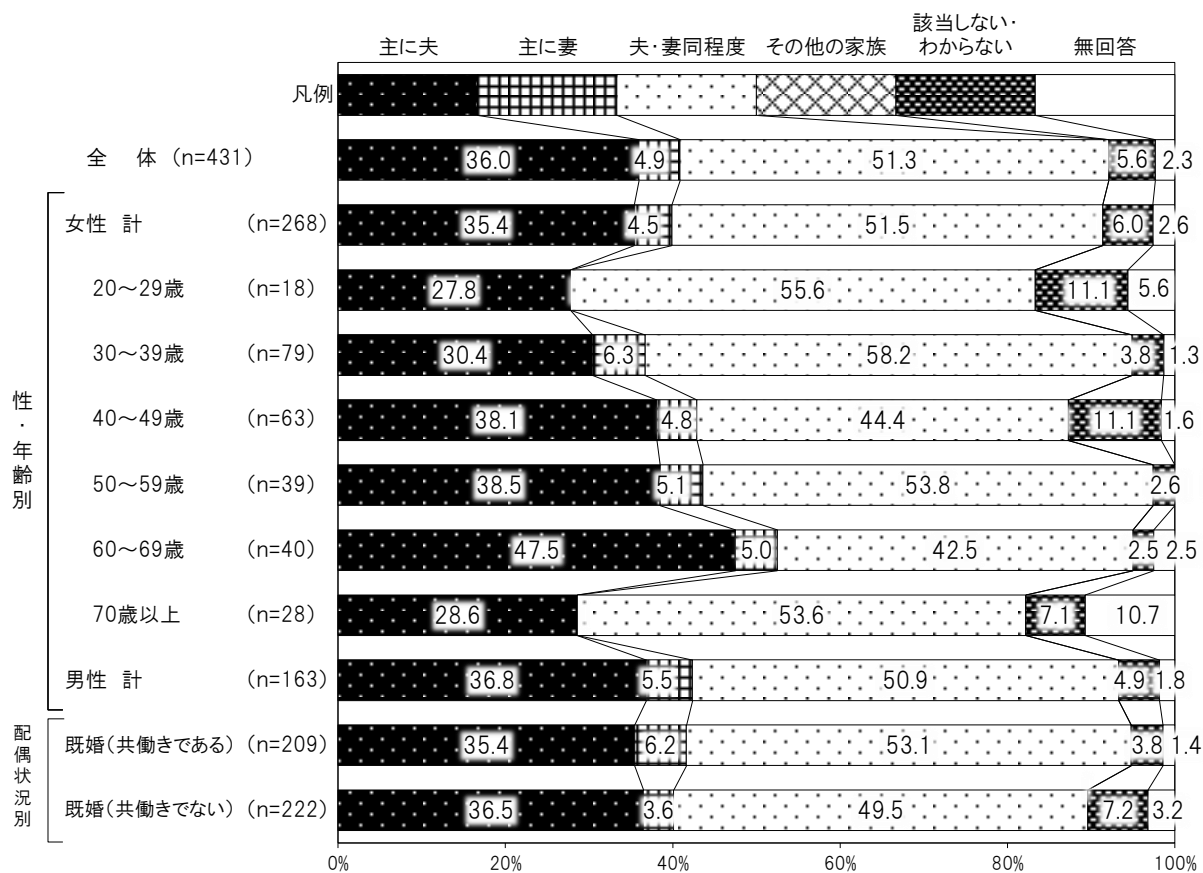
高額な商品や土地、家屋の購入については、「夫・妻同程度」の割合が 51.3%で最も高く、次いで「主に夫」(36.0%)となっている。

性別にみると、男女とも「夫・妻同程度」が過半数を占め、次いで「主に夫」の順となっている。

女性年齢別にみると、60歳代において「主に夫」、「夫・妻同程度」の割合が拮抗している。

配偶状況別にみると、いずれの属性も「夫・妻同程度」の割合が最も高い。

図 高額な商品や土地、家屋の購入決定の役割分担状況【性・年齢別、配偶状況別】



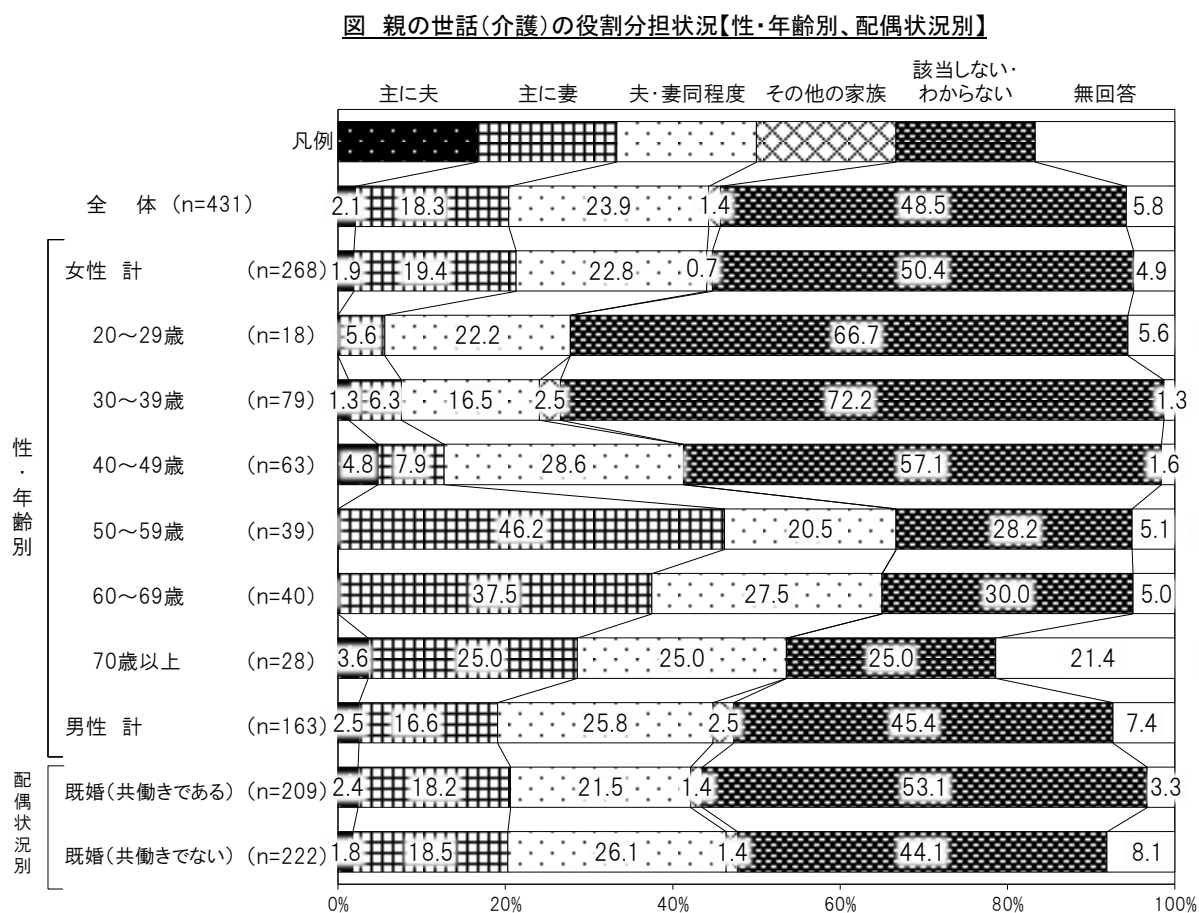
キ. 親の世話（介護）

親の世話（介護）については、「該当しない、わからない」が半数近くを占めるものの、「夫・妻同程度」（23.9%）が最も多い。

性別にみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。

女性年齢別にみると、50歳代～60歳代では「主に妻」の割合が最も高くなっている。

配偶状況別にみると、全体結果とほぼ同様の傾向を示している。



ク. 町内会・自治会等の地域活動

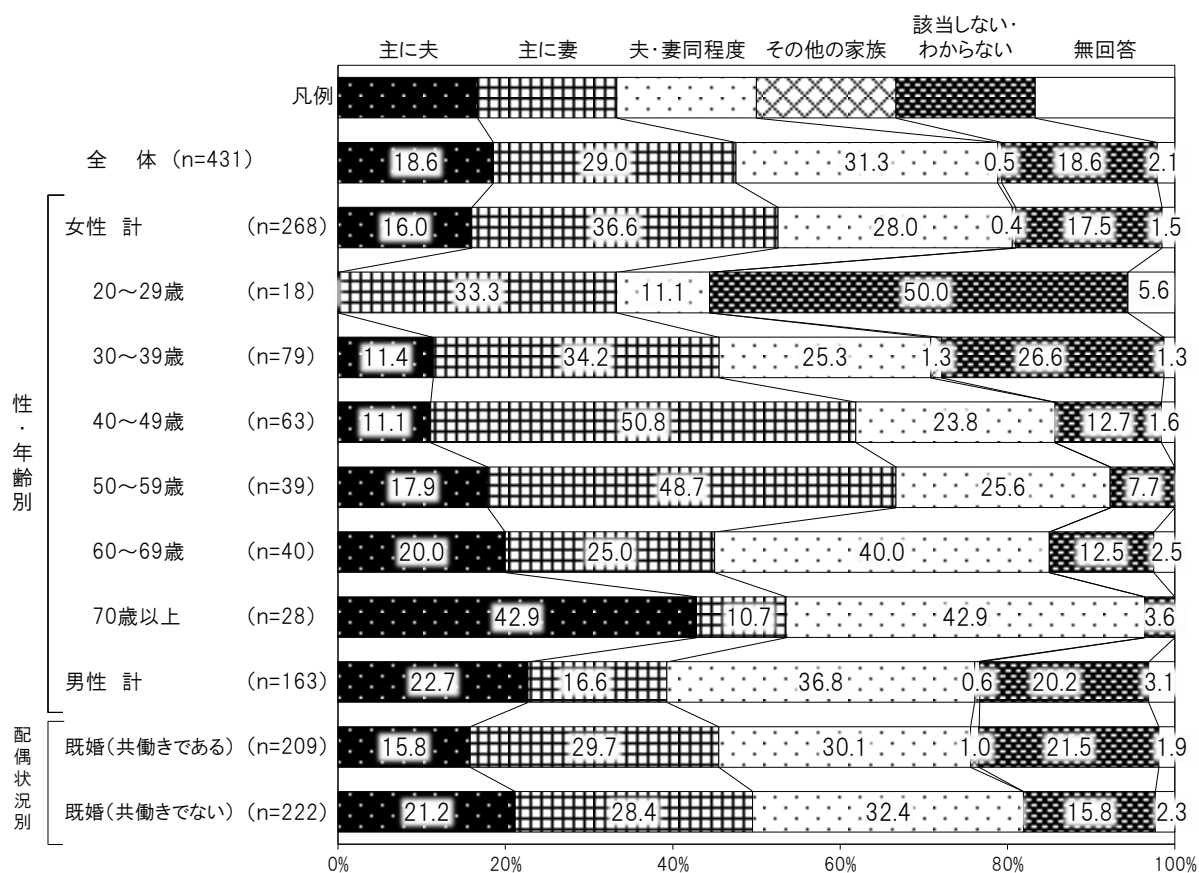
町内会・自治会等の地域活動への参加については、「夫・妻同程度」の割合が 31.3%で最も高く、次いで「主に妻」(29.0%)、「主に夫」(18.6%)の順となっている。

性別にみると、女性は「主に妻」、男性は「夫・妻同程度」の割合が最も高く、男女による意識の差がみられる。

女性年齢別にみると、20歳代～50歳代では「主に妻」の割合が最も高くなっているが、60歳代は「夫・妻同程度」と回答する人が最も多い。また、70歳以上は「主に妻」の割合は激減し、「主に夫」が4割強を占める。

配偶状況別にみると、全体結果とほぼ同様の傾向を示している。

図 町内会・自治会等の地域活動の役割分担状況【性・年齢別】



(3) 生活の中での優先度

問7. 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）」の優先度についておたずねします。(ア)、(イ)のそれぞれについてお答えください。(〇はそれぞれ1つだけ)

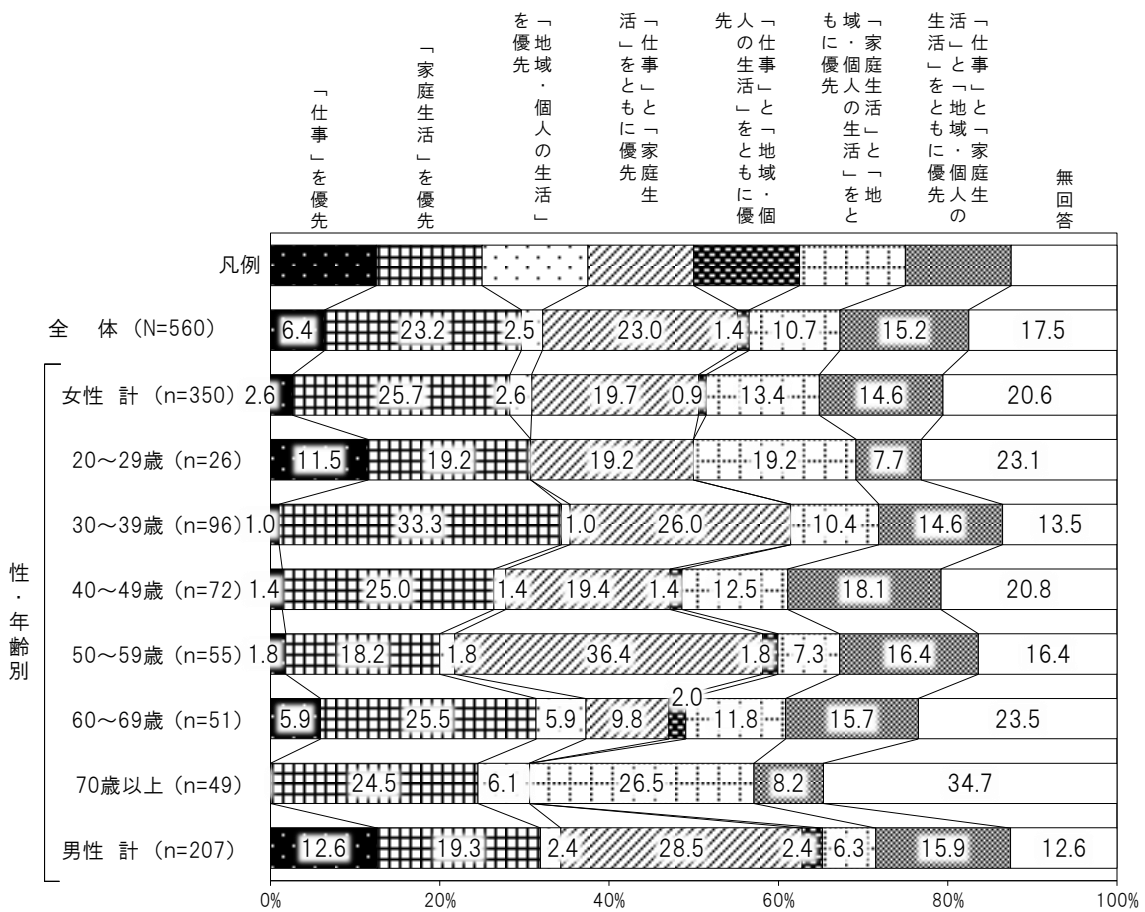
(ア) 希望

生活の中における「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の希望優先度をみると、「家庭生活を優先」(23.2%)が最も多く、次いで「仕事と家庭生活をともに優先」(23.0%)、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」(15.2%)、「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」(10.7%)の順となっており、上位の回答には共通して家庭生活が含まれている。

性別にみると、男性は女性に比べ仕事の優先度が高い傾向がみられ、「仕事を優先」で10.0ポイント、「仕事と家庭生活をともに優先」で8.8ポイント、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」で0.7ポイント上回っている。

女性年齢別にみると、30歳代、40歳代及び60歳代は「家庭生活を優先」、50歳代及び70歳以上は「家庭生活と仕事をともに優先」が最も多いものの、各年代とも家庭生活を優先する傾向がみられる。

図 希望する生活の中での優先度【性・年齢別】



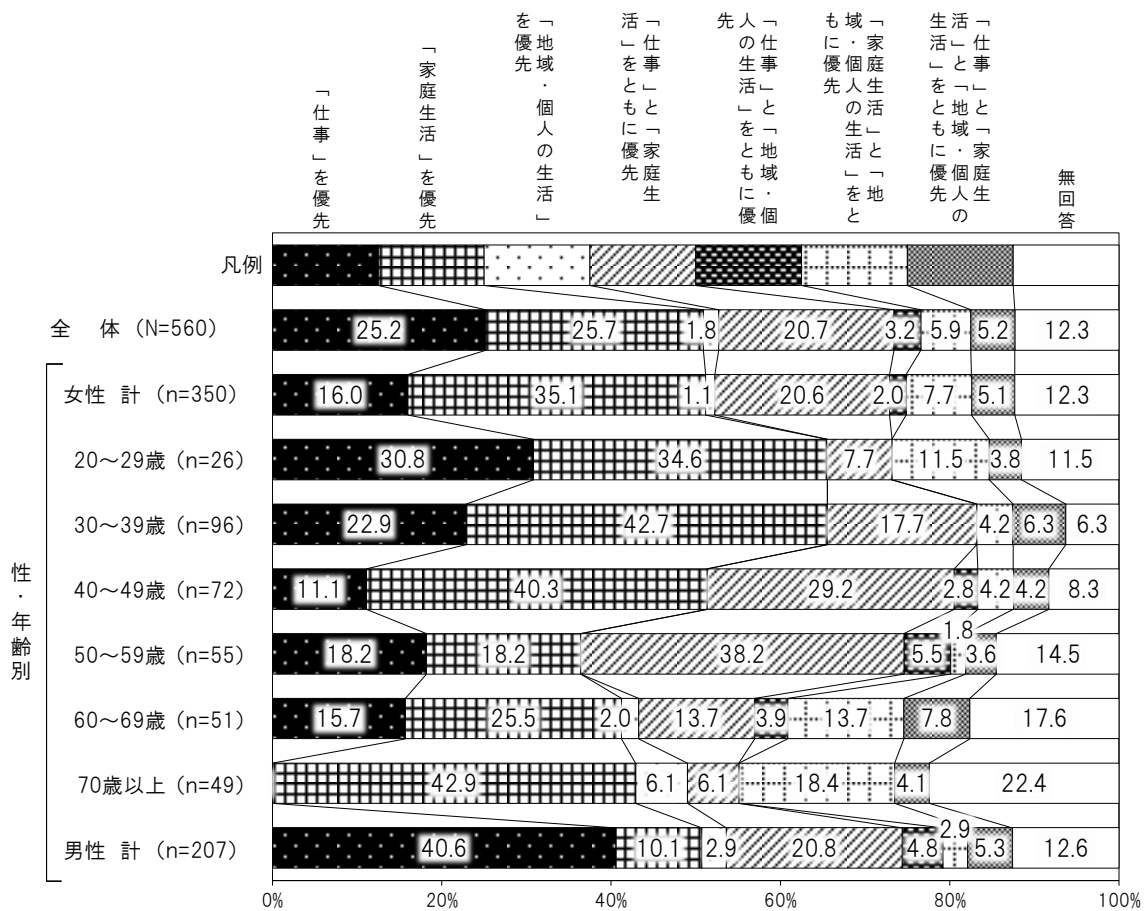
(イ) 現実（現状）

一方、生活の中における「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の現実（現状）をみると、「家庭生活を優先」(25.7%)が最も多く、次いで「仕事を優先」(25.2%)、「仕事と家庭生活をともに優先」(20.7%)の順となっており、上位の回答には共通して「地域・個人の生活」が含まれていない。

性別にみると、女性は「家庭生活を優先」、男性は「仕事を優先」が最も多く、男女による違いがみられる。

女性年齢別にみると、20歳代～40歳代及び60歳代以上は「家庭生活を優先」、50歳代は「家庭生活と仕事をともに優先」が最も多く、「仕事を優先」は年齢層が低いほど割合が高くなっている。

図 現実（現状）の生活の中での優先度【性・年齢別】



(4) - 1 仕事や学校のある日に費やしている時間

問8. 日頃の生活の中で(ア)～(オ)に費やしている時間はそれぞれどれくらいですか。およその時間を()内に数字でご記入ください。※該当しない場合は「×」をご記入ください。

仕事や学校のある日に費やしている時間をみると、「仕事・学校(通勤・通学時間を含む)」に占める時間(9.63時間)が最も多く、次いで「睡眠時間」(6.56時間)、「自由に使える時間」(3.83時間)の順となっている。

性別にみると、男女ともに「仕事・学校(通勤・通学時間を含む)」に占める時間が最も多いものの、男性が女性に比べ1時間以上長くなっている。一方、「家事(炊事、買物、選択、掃除など)」、「育児・介護」については、女性が男性に比べ各々3時間程度長くなっている。

表 仕事や学校のある日に費やしている時間【性別】

		(1) 仕事や学校のある日 (平均時間)		
		全体	女性	男性
ア	仕事・学校 (通勤・通学時間を含む)	9.63 時間	8.86 時間	10.54 時間
イ	家事 (炊事、買物、洗濯、掃除など)	2.96 時間	4.04 時間	1.02 時間
ウ	育児・介護	2.81 時間	3.75 時間	1.05 時間
エ	自由に使える時間 (趣味、読書、テレビなど)	3.83 時間	3.58 時間	4.22 時間
オ	睡眠時間	6.56 時間	6.49 時間	6.67 時間

女性年齢別にみると、「仕事・学校(通勤・通学時間を含む)」に占める時間が、年代が高くなるにつれて減少する傾向がみられる。また、30歳代では「育児・介護」に占める時間が他の年代と比べて多く、約5時間を占めている。

表 仕事や学校のある日に費やしている時間【性・年齢別】

		(1) 仕事や学校のある日 (平均時間)								
		全体	女性 計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	男性 計
ア	仕事・学校 (通勤・通学時間を含む)	9.63 時間	8.86 時間	11.08 時間	8.90 時間	8.80 時間	8.71 時間	7.84 時間	5.33 時間	10.54 時間
イ	家事 (炊事、買物、洗濯、掃除など)	2.96 時間	4.04 時間	2.42 時間	3.50 時間	4.47 時間	3.91 時間	4.39 時間	4.88 時間	1.02 時間
ウ	育児・介護	2.81 時間	3.75 時間	6.36 時間	4.99 時間	2.94 時間	1.54 時間	2.75 時間	2.00 時間	1.05 時間
エ	自由に使える時間 (趣味、読書、テレビなど)	3.83 時間	3.58 時間	2.95 時間	2.49 時間	3.16 時間	2.83 時間	4.43 時間	6.51 時間	4.22 時間
オ	睡眠時間	6.56 時間	6.49 時間	6.33 時間	6.57 時間	6.43 時間	6.36 時間	6.49 時間	6.73 時間	6.67 時間

(4) - 2 休みの日・仕事や学校のない日に費やしている時間

休みの日・仕事や学校のない日に費やしている時間をみると、「睡眠時間」(7.25 時間)が最も多く、次いで「自由に使える時間」(6.98 時間)、「育児・介護」に占める時間(5.73 時間)の順となっている。

性別にみると、女性は「睡眠時間」、男性は「自由に使える時間」に占める時間が最も多いものの、「家事」に費やしている時間は女性が男性に比べ3時間程度長くなっている。

表 休みの日・仕事や学校のない日に費やしている時間【性別】

		(2) 休みの日・仕事や学校のない日 (平均時間)		
		全体	女性	男性
ア	仕事・学校 (通勤・通学時間を含む)			
イ	家事 (炊事、買物、洗濯、掃除など)	3.76 時間	4.88 時間	1.90 時間
ウ	育児・介護	5.73 時間	5.68 時間	5.86 時間
エ	自由に使える時間 (趣味、読書、テレビなど)	6.98 時間	5.97 時間	8.54 時間
オ	睡眠時間	7.25 時間	7.19 時間	7.36 時間

女性年齢別にみると、20 歳代では「自由に使える時間」、30 歳代では「育児・介護」、40 歳代以上で「睡眠時間」が最も多くなっている。

表 休みの日・仕事や学校のない日に費やしている時間【性・年齢別】

		(2) 休みの日・仕事や学校のない日（平均時間）								
		全体	女性 計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	男性 計
ア	仕事・学校 （通勤・通学時間を含む）									
イ	家事 （炊事、買物、洗濯、掃除など）	3.76 時間	4.88 時間	3.02 時間	4.24 時間	5.63 時間	5.14 時間	5.14 時間	5.00 時間	1.90 時間
ウ	育児・介護	5.73 時間	5.68 時間	8.06 時間	8.02 時間	4.20 時間	2.73 時間	4.60 時間	2.00 時間	5.86 時間
エ	自由に使える時間 （趣味、読書、テレビなど）	6.98 時間	5.97 時間	8.67 時間	5.06 時間	5.37 時間	6.84 時間	5.52 時間	6.35 時間	8.54 時間
オ	睡眠時間	7.25 時間	7.19 時間	7.93 時間	7.31 時間	7.36 時間	7.01 時間	6.90 時間	6.85 時間	7.36 時間

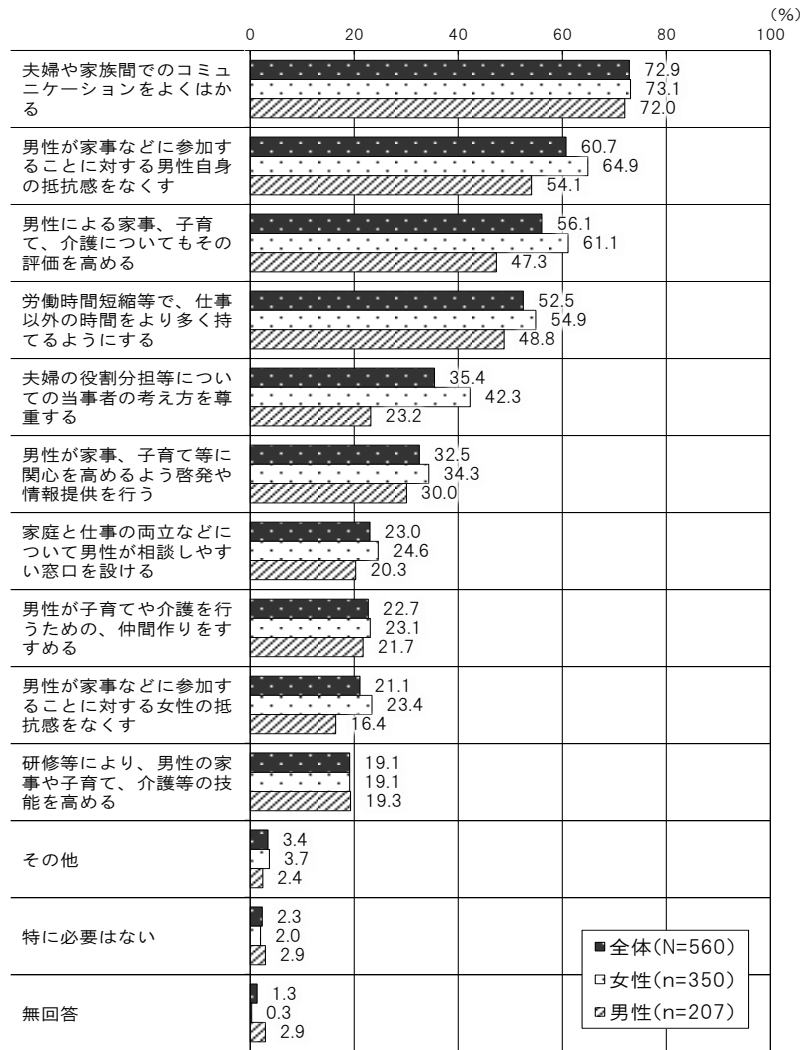
(5) 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

問9. 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことをみると、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」(72.9%)が最も多く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(60.7%)、「男性による家事、子育て、介護についてもその評価を高める」(56.1%)の順となっている。

性別にみると、男女ともほぼ同様の傾向を示しているが、「夫婦の役割分担等についての当事者の考えを尊重する」ことに関しては男女による意識の差がみられ、女性は男性より 19.1 ポイントも上回っている。

図 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと【性別】



女性年齢別にみると、概ねどの年代とも「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」の割合が最も高いものの、60歳代では「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」と回答する人が最も多くなっている。

表 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと【性・年齢別】

(単位:%)

	サンプル数	くはか る	夫 妻 の シ ョ ン を よ く は か る	自 身 の 抵 抗 感 を な く す	男 性 が 家 事 に 参 加 す る こ と に 対 す る 男 性 自 身 の 抵 抗 感 を な く す	の 評 価 を 高 め る	男 性 に よ る 家 事 の 時 間 短 縮 を 促 す	事 務 の 時 間 短 縮 を 促 す	労 働 時 間 短 縮 を 促 す	を 重 ん ず る	夫 婦 の 当 事 者 の 考 え に 方 つ く	発 見 や 情 報 提 供 を 行 う	男 性 が 家 事 、 子 育 て に 関 心 を 高 め る	や す い 窓 口 を 設 け る	家 庭 と 仕 事 の 両 立 を 支 援 す	行 う た め の 仲 間 介 護 を 行 う	男 性 が 子 育 て に 関 心 を 高 め る	男 性 が 家 事 に 参 加 す る こ と に 対 す る 女 性 の 抵 抗 感 を な く す	家 事 や 子 育 て に 関 心 を 高 め る	研 修 等 に よ り 、 男 性 の 技 能 を 高 め る	そ の 他	特 に 必 要 は な い	無 回 答
全 体	560	72.9	60.7	56.1	52.5	35.4	32.5	23.0	22.7	21.1	19.1	3.4	2.3	1.3									
性・年齢別	女性 計	350	73.1	64.9	61.1	54.9	42.3	34.3	24.6	23.1	23.4	19.1	3.7	2.0	0.3								
	20～29歳	26	80.8	42.3	53.8	65.4	34.6	23.1	19.2	34.6	11.5	19.2	-	-	-								
	30～39歳	96	72.9	65.6	61.5	62.5	33.3	32.3	22.9	21.9	17.7	20.8	4.2	1.0	-								
	40～49歳	72	72.2	62.5	63.9	56.9	41.7	27.8	18.1	12.5	20.8	15.3	8.3	-	-								
	50～59歳	55	69.1	63.6	72.7	61.8	50.9	43.6	29.1	25.5	25.5	18.2	3.6	1.8	-								
	60～69歳	51	72.5	76.5	58.8	39.2	43.1	37.3	29.4	25.5	27.5	13.7	-	5.9	2.0								
	70歳以上	49	75.5	67.3	49.0	40.8	55.1	40.8	30.6	28.6	38.8	28.6	2.0	4.1	-								
男性 計	207	72.0	54.1	47.3	48.8	23.2	30.0	20.3	21.7	16.4	19.3	2.4	2.9	2.9									

3. 地域活動について

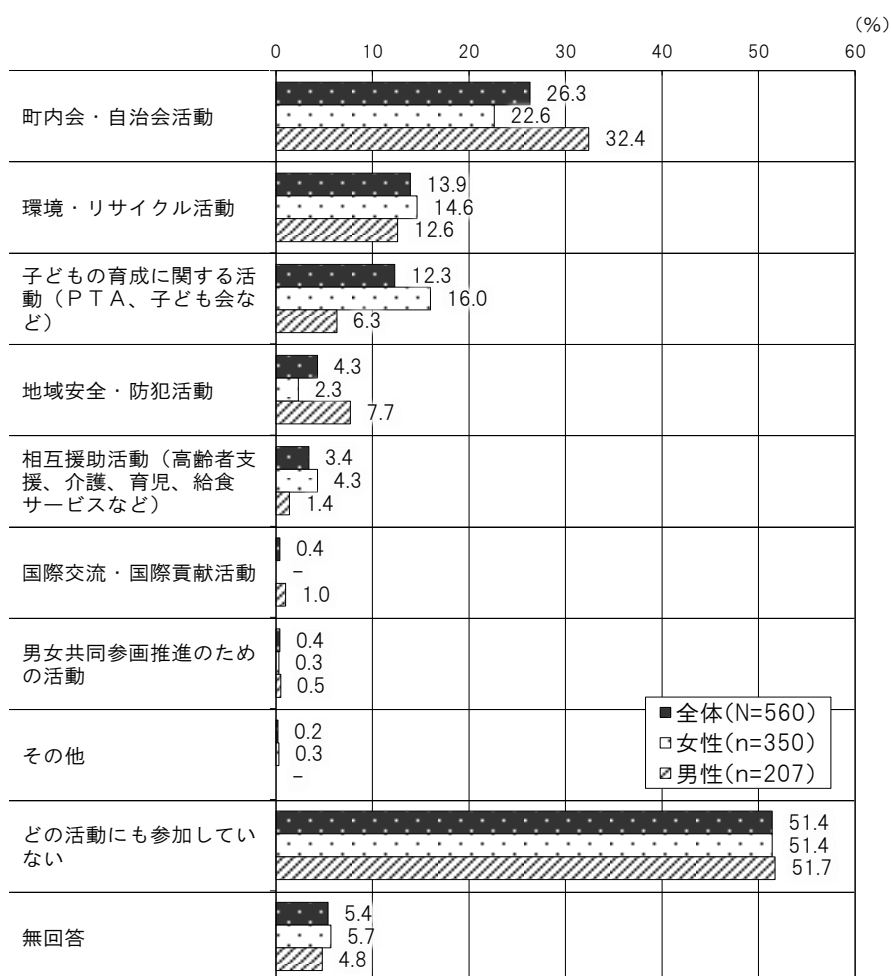
(1) 地域活動への参加状況

問 10. あなたは現在、地域づくりにかかわる活動を何かなさっていますか。(〇はいくつでも)

地域づくりにかかわる活動をみると、「どの活動にも参加していない」(51.4%)が過半数を占めているものの、参加している活動では「町内会・自治会活動」(26.3%)、「環境・リサイクル活動」(13.9%)、「子どもの育成に関する活動(PTA、子ども会など)」(12.3%)の順となっている。

性別にみると、男女ともに「町内会・自治会活動」の割合が最も高いが、男性が女性に比べ9.8ポイント上回っている。逆に、「子どもの育成に関する活動(PTA、子ども会など)」は、女性が男性に比べ 9.7 ポイント上回っている。

図 地域活動への参加状況【性別】



女性年齢別にみると、20歳代では「環境・リサイクル活動」(23.1%)、30歳代と50歳代以上で「町内会・自治会活動」、40歳代では「子どもの育成に関する活動(PTA、子ども会など)」の割合が最も高くなっている。

居住年数別にみると、「どの活動にも参加していない」と回答する人は、居住年数が短い人ほど割合が高くなっている。

表 地域活動への参加状況【性・年齢別、居住年数別】

(単位:%)

	サンプル数	町内会・自治会活動	環境・リサイクル活動	子ども育成に関する活動(PTAなど)	子ども育成に関する活動(PTAなど)	地域安全・防犯活動	食支援・サービスなど	相互援助活動(高齢者)	国際交流・国際貢献活動	男女共同参画推進のため	その他	どの活動にも参加していない	無回答
全体	560	26.3	13.9	12.3	4.3	3.4	0.4	0.4	0.2	51.4	5.4		
性・年齢別	女性計	350	22.6	14.6	16.0	2.3	4.3	-	0.3	0.3	51.4	5.7	
	20～29歳	26	7.7	23.1	7.7	-	7.7	-	-	-	65.4	3.8	
	30～39歳	96	26.0	10.4	24.0	1.0	3.1	-	-	1.0	50.0	1.0	
	40～49歳	72	13.9	13.9	37.5	4.2	2.8	-	-	-	51.4	1.4	
	50～59歳	55	29.1	9.1	3.6	1.8	5.5	-	-	-	56.4	7.3	
	60～69歳	51	25.5	19.6	3.9	2.0	5.9	-	-	-	43.1	13.7	
	70歳以上	49	26.5	18.4	-	4.1	4.1	-	2.0	-	51.0	12.2	
男性計	207	32.4	12.6	6.3	7.7	1.4	1.0	0.5	-	51.7	4.8		
居住年数別	3年未満	76	14.5	13.2	3.9	-	2.6	1.3	-	-	72.4	1.3	
	3～10年未満	140	17.9	12.9	17.9	2.9	3.6	0.7	-	0.7	56.4	2.1	
	10～20年未満	92	23.9	12.0	22.8	5.4	2.2	-	-	-	47.8	6.5	
	20年以上	247	35.6	15.4	8.1	6.1	3.6	-	0.8	-	43.3	8.1	

配偶状況別にみると、未婚者及び離婚者、死別者は既婚者に比べ「どの活動にも参加していない」と答えた人が多く、6～7割を占めている。

同居家族形態別にみると、三世代・四世代にわたる世帯では「町内会・自治会活動」の割合が高く、単身世帯は「どの活動にも参加していない」と答えた人が7割程度を占めている。

表 地域活動への参加状況【配偶状況別、同居家族形態別】

(単位:%)

	サンプル数	町内会・自治会活動	環境・リサイクル活動	子ども育成に関する活動(PTAなど)	地域安全・防犯活動	食支援・介護、育児、給者サービスなど)	相互援助活動(高齢者)	国際交流・国際貢献活動	男女共同参画推進のための活動	その他	どの活動にも参加していない	無回答
全体	560	26.3	13.9	12.3	4.3	3.4	0.4	0.4	0.2	51.4	5.4	
配偶状況別	未婚	61	4.9	13.1	1.6	4.9	1.6	-	-	-	75.4	3.3
	既婚(共働きである)	209	30.1	12.0	18.2	3.8	2.4	-	-	0.5	49.3	3.8
	既婚(共働きでない)	222	31.1	16.7	11.7	5.0	4.1	0.5	0.5	-	43.7	6.8
	離別	29	13.8	13.8	10.3	-	6.9	3.4	-	-	65.5	3.4
	死別	27	22.2	7.4	-	3.7	-	-	-	-	70.4	3.7
同居家族形態別	単身(同居者はいない)	50	10.0	8.0	-	4.0	2.0	2.0	-	-	68.0	8.0
	夫婦のみの世帯	170	24.7	15.3	2.9	3.5	3.5	-	0.6	-	57.1	6.5
	子どもと夫婦の世帯	255	27.5	13.7	20.0	3.9	3.1	0.4	0.4	0.4	46.7	5.1
	三世代・四世代にわたる世帯	35	45.7	14.3	28.6	8.6	2.9	-	-	-	34.3	-
	その他の世帯	29	31.0	10.3	6.9	6.9	6.9	-	-	-	55.2	-

(2) 地域活動に参加していない理由

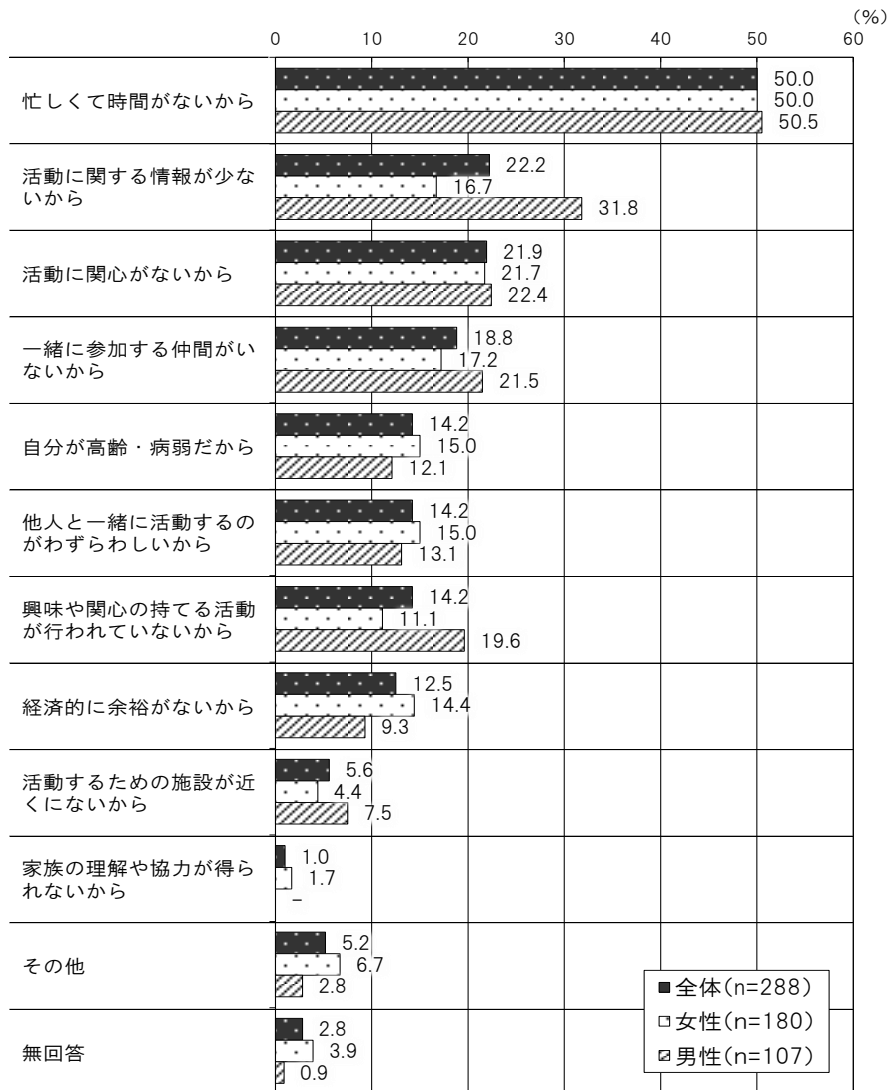
(問 10で「9. どの活動にも参加していない」と答えた方にうかがいます。)
 問 10-1. あなたが、活動に参加していないのはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)

地域づくりに関わる活動について参加していない理由をみると、「忙しくて時間がないから」(50.0%)が最も多く、次いで「活動に関する情報が少ないから」、「活動に関心がないから」(各々22.2%)の順となっている。

性別にみると、男女ともに「忙しくて時間がないから」の割合が最も高く、それぞれ半数を占めている。

また、男性は女性に比べ「活動に関する情報が少ないから」、「興味や関心の持てる活動が行われていないから」と回答する人が多くみられる。

図 地域活動に参加していない理由【性別】



居住年数別にみると、地域活動への参加率が特に低い「3年未満」の人では、「忙しくて時間がないから」、「活動に関心がないから」の割合が高い反面、「活動に関する情報が少ないから」、「一緒に参加する仲間がいないから」も相対的に割合が高い。

表 地域活動に参加していない理由【居住年数別】

(単位:%)

	サンプル数	忙しくて時間がないから	活動に関する情報が少ないから	活動に関心がないから	一緒に参加する仲間がいないから	自分が高齢・病弱だから	他人と一緒に関われないから	興味がわかないから	経済的に余裕がないから	活動にするための施設がないから	家族の理解や協力が得られないから	その他	無回答	
全体	288	50.0	22.2	21.9	18.8	14.2	14.2	14.2	12.5	5.6	1.0	5.2	2.8	
居住年数別	3年未満	55	63.6	27.3	27.3	32.7	5.5	18.2	5.5	12.7	7.3	-	5.5	1.8
	3～10年未満	79	50.6	27.8	27.8	16.5	10.1	11.4	12.7	6.3	5.1	-	3.8	2.5
	10～20年未満	44	47.7	20.5	11.4	20.5	15.9	11.4	13.6	15.9	6.8	-	2.3	2.3
	20年以上	107	43.9	16.8	18.7	13.1	20.6	15.9	20.6	15.9	4.7	2.8	7.5	3.7

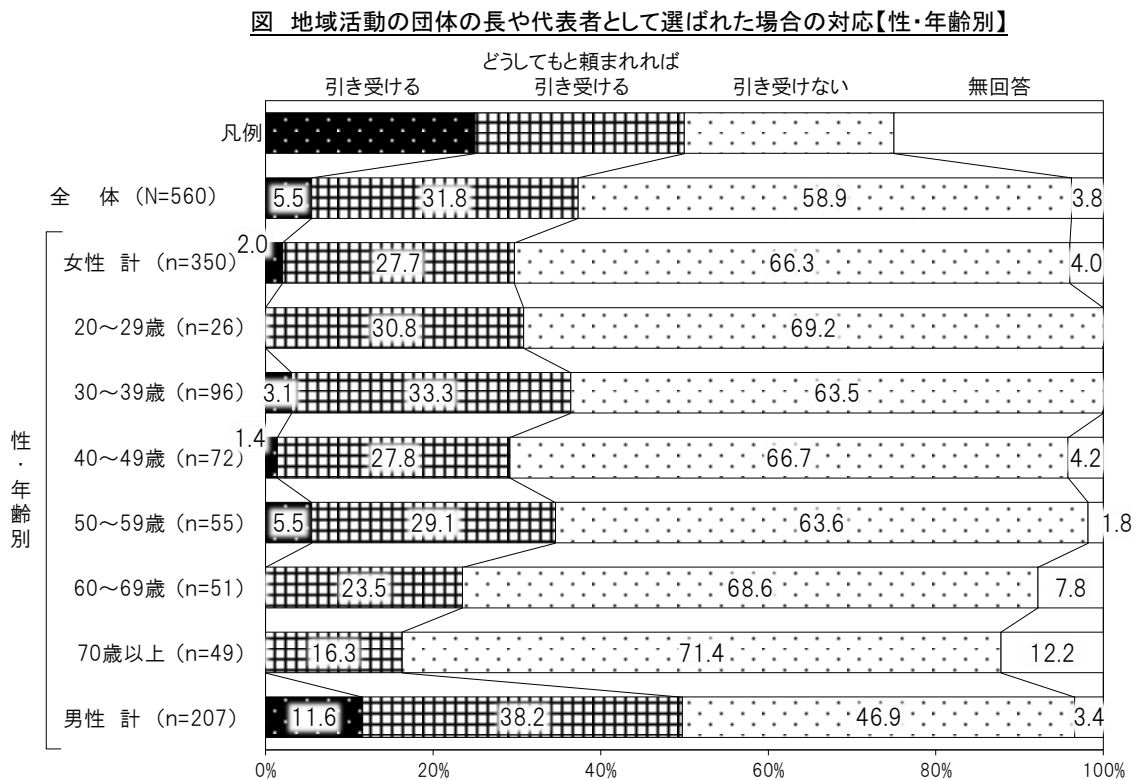
(3) 地域活動の団体の長や代表者として選ばれた場合の対応

問 11. あなた自身が、団体の長や代表者として選ばれる機会があったとしたら、あなたはその職を引き受けたいと思いますか。(〇は1つだけ)

役職・公職への就任を依頼された場合の対応をみると、「引き受ける」が 5.5%、「どうしても頼まれれば引き受ける」が 31.8%と、引き受ける意思がある人は4割弱みられる。なお、「引き受けない」(58.9%)と答える人は6割程度みられる。

性別にみると、男性が女性に比べ引き受ける意思がある人が多く、「引き受ける」では9.6ポイント、「どうしても頼まれれば引き受ける」では 10.5 ポイント上回っている。

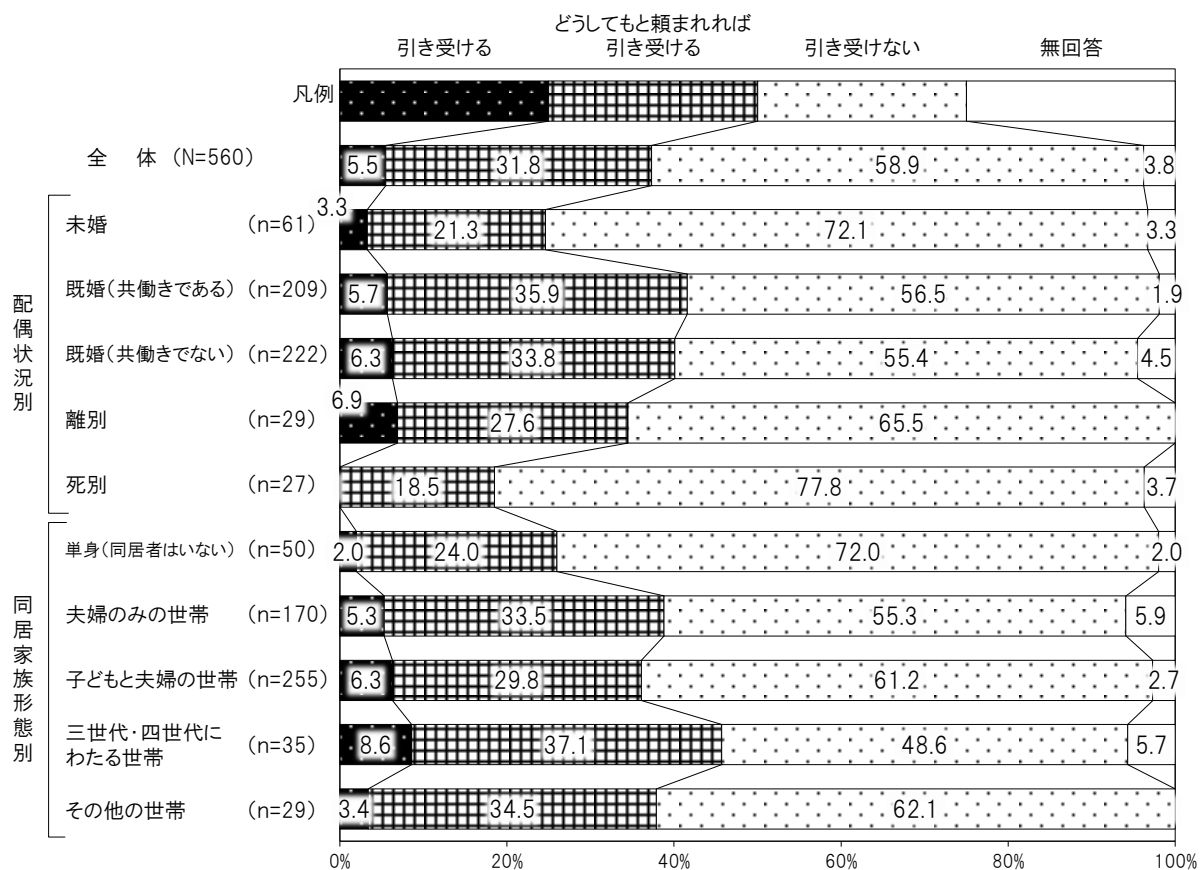
女性年齢別にみると、年齢が高くなるほど引き受ける意思がある人は少なく、70 歳以上では「引き受けない」(71.4%)が7割以上を占めている。



配偶状況別にみると、既婚者において引き受ける意思がある人が多く、逆に未婚者、死別者では「引き受けない」が7割以上を占めている。

同居家族形態別にみると、子どもと夫婦の世帯や三世代・四世代にわたる世帯など、多世帯ほど引き受ける意思がある人が多くみられる。

図 地域活動の団体の長や代表者として選ばれた場合の対応【配偶状況別、同居家族形態別】



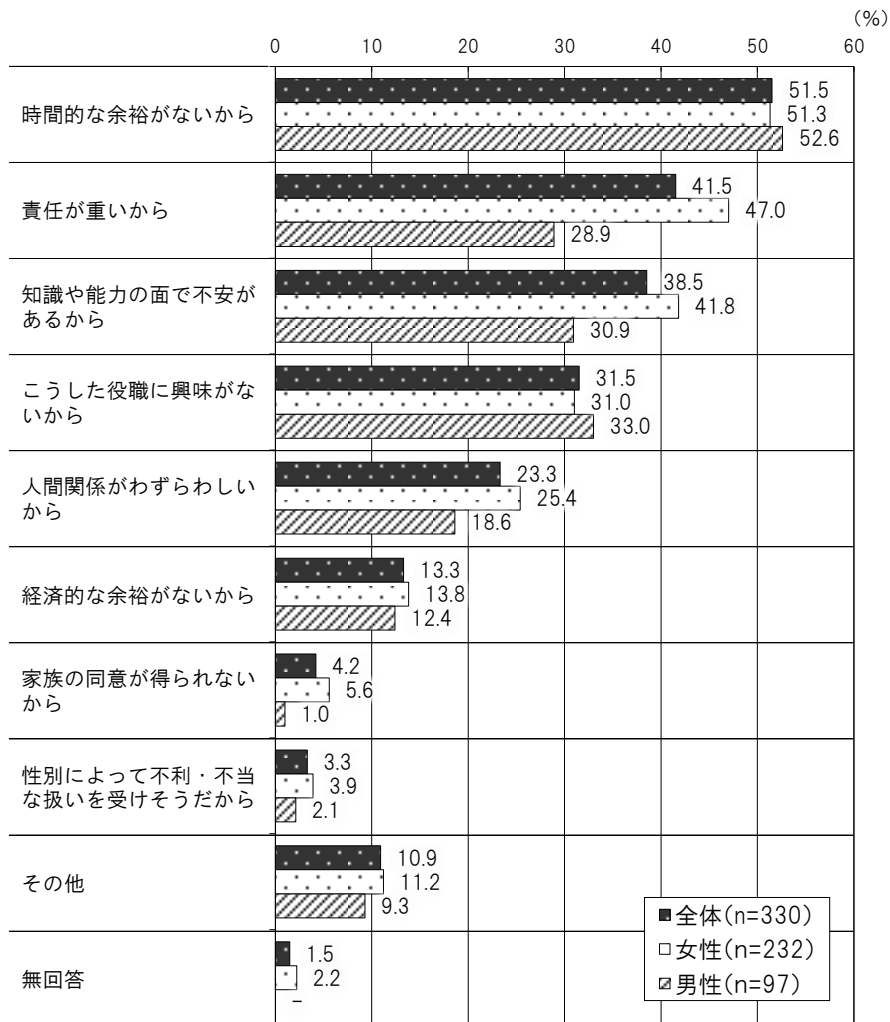
(4) 地域活動の団体の長や代表者を引き受けない理由

(問 11 で「3. 引き受けない」と答えた方にうかがいます。)
 問 11-1. 引き受けない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

地域活動の団体の長や代表者を引き受けない理由をみると、「時間的余裕がないから」(51.5%)が最も多く、次いで「責任が重いから」(41.5%)、「知識や能力の面で不安があるから」(38.5%)、「こうした役職に興味がないから」(31.5%)の順となっている。

性別にみると、男女いずれも「時間的余裕がないから」という理由が最も多いものの、女性は男性に比べ「責任が重いから」、「知識や能力の面で不安があるから」という理由が多く挙がっている。

図 地域活動の団体の長や代表者を引き受けない理由【性別】



女性年齢別にみると、20歳代～50歳代は「時間的に余裕がないから」という理由が最も多いものの、60歳代では「責任が重いから」、70歳以上では「知識や能力の面で不安があるから」と回答する人が最も多くみられる。また、20歳代の「こうした役職に興味がないから」、40歳代の「人間関係が煩わしい」という理由は、他の年代に比べ多くみられる。

表 地域活動の団体の長や代表者を引き受けない理由【性・年齢別】

(単位:%)

	サンプル数	時間的に余裕がないから	責任が重いから	知識や能力の面で不安があるから	こうした役職に興味がないから	人間関係が煩わしいから	経済的に余裕がないから	家族の同意が得られないから	性別によって不利・不当扱いを受ける	その他	無回答	
全体	330	51.5	41.5	38.5	31.5	23.3	13.3	4.2	3.3	10.9	1.5	
性・年齢別	女性計	232	51.3	47.0	41.8	31.0	25.4	13.8	5.6	3.9	11.2	2.2
	20～29歳	18	55.6	44.4	38.9	44.4	22.2	11.1	5.6	5.6	5.6	-
	30～39歳	61	68.9	50.8	41.0	34.4	29.5	18.0	3.3	4.9	3.3	-
	40～49歳	48	52.1	50.0	39.6	33.3	33.3	16.7	6.3	-	16.7	2.1
	50～59歳	35	65.7	45.7	40.0	37.1	17.1	17.1	5.7	5.7	11.4	2.9
	60～69歳	35	37.1	54.3	48.6	22.9	25.7	11.4	8.6	5.7	-	5.7
	70歳以上	35	17.1	31.4	42.9	17.1	17.1	2.9	5.7	2.9	31.4	2.9
男性計	97	52.6	28.9	30.9	33.0	18.6	12.4	1.0	2.1	9.3	-	

(5) 地域活動において女性の参画を進めるために必要なこと

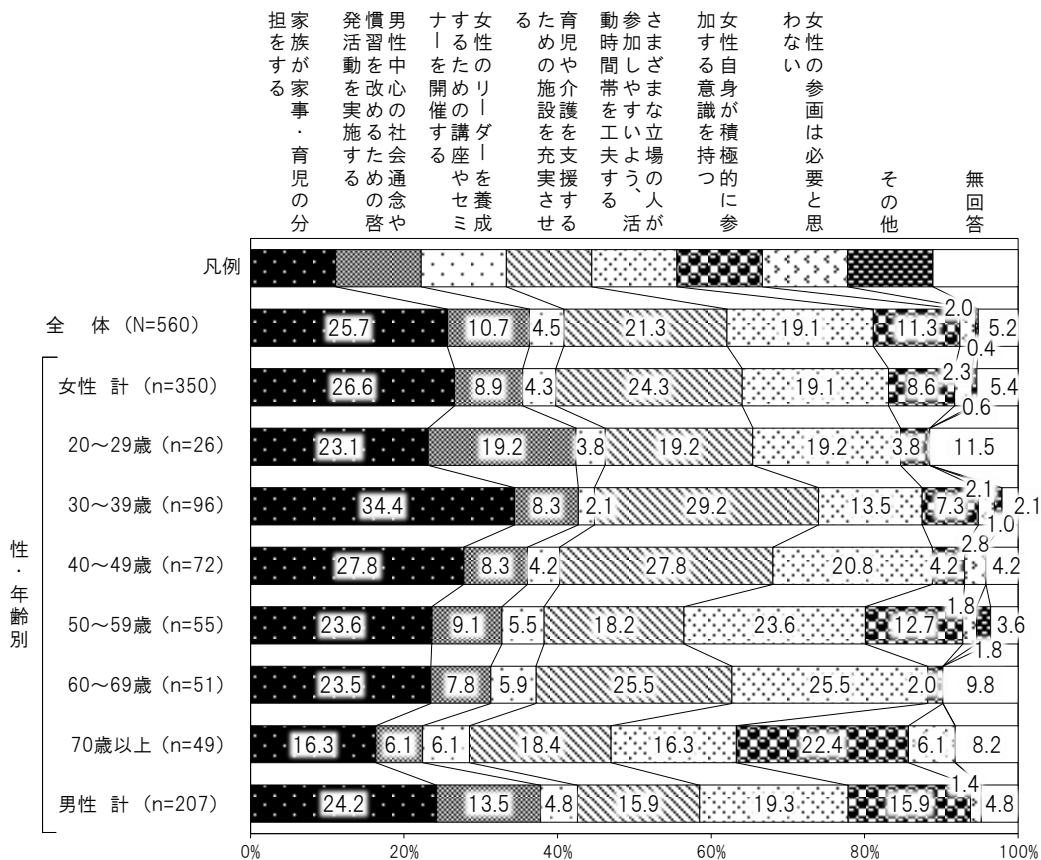
問 12. 地域活動において、女性の「参画」を進めるためには、あなたはどのようなことが最も必要だと思いますか。(〇は1つだけ)

地域活動において女性の参画を進めるために必要なことをみると、「家族が家事・育児の分担をする」(25.7%)が最も多く、次いで「育児や介護を支援するための施設を充実させる」(21.3%)、「さまざまな立場の人が参加しやすいよう、活動時間帯を工夫する」(19.1%)の順となっている。

性別にみると、男女いずれも「家族が家事・育児の分担をする」と答える人が最も多いものの、女性は男性に比べ「育児や介護を支援するための施設を充実させる」と回答する人が多くみられる。一方、男性は女性に比べ「女性自身が積極的に参加する意識を持つ」の割合が高く、男女による意識の差がみられる。

女性年齢別にみると、20歳代では「男性中心の社会通念や慣習を改めるための啓発活動を実施する」、30歳代では「家族が家事・育児の分担をする」、40歳代では「育児や介護を支援するための施設を充実させる」と回答する人が、他の年代に比べ多くみられる。

図 地域活動において女性の参画を進めるために必要なこと【性・年齢別】



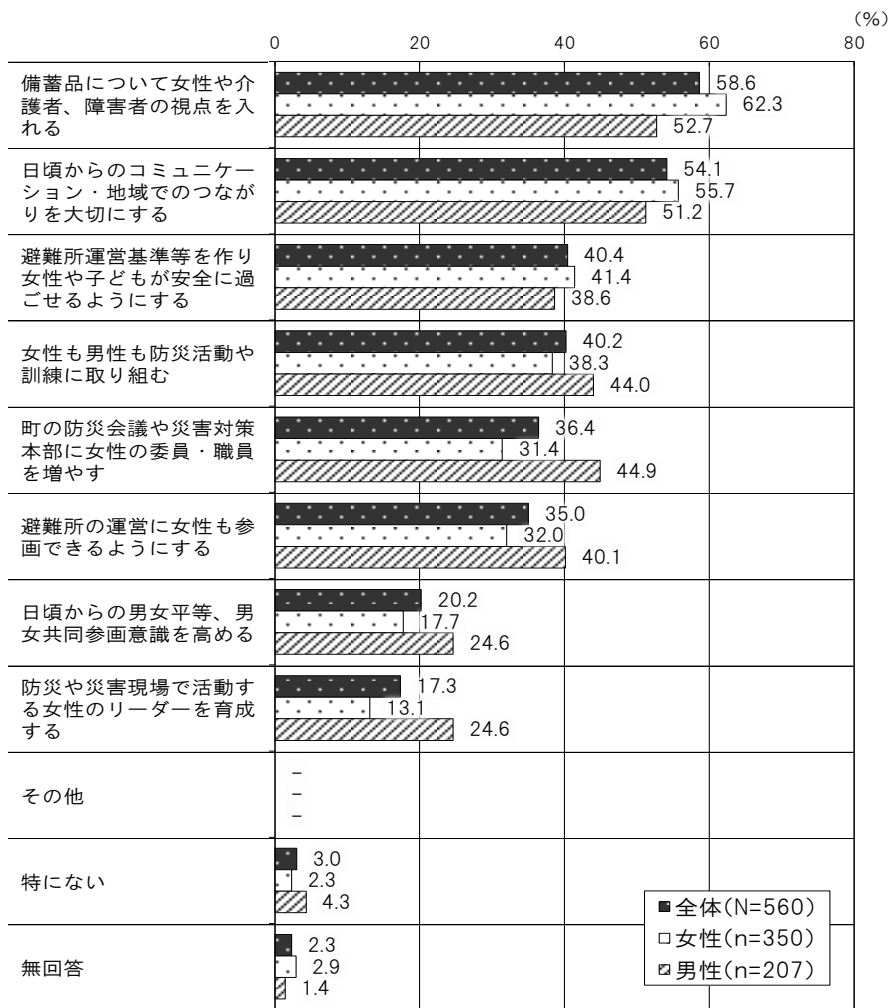
(6) 防災や震災対応に女性が参画するために必要なこと

問 13. 東日本大震災では、日頃の防災や震災対応に女性の視点が活かされていないことなどの問題が指摘されました。災害に備えるために、これからどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

防災や震災に女性が参画するために必要なことをみると、「備蓄品について女性や介護者、障害者の視点を入れる」(59.6%)が最も多く、次いで「日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」(54.1%)、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」(40.4%)、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」(40.2%)の順となっている。

性別にみると、男女ともほぼ同様の傾向を示しているが、「町の防災会議や災害対策本部に女性の委員・職員を増やす」、「避難所の運営に女性も参画できるようにする」、「防災や災害現場で活動する女性のリーダーを育成する」に関しては男女の意識の差がみられ、男性の回答者が多くみられる。

図 防災や震災対応に女性が参画するために必要なこと【性別】



女性年齢別にみると、20 歳代～50 歳代は「備蓄品について女性や介護者、障害者の視点を入れる」、60 再代以上は「日頃からコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」と回答する人が最も多くみられる。特に、この2つの回答は20 歳代において、最も割合が高いという特徴がみられる。

表 防災や震災対応に女性が参画するために必要なこと【性・年齢別】

(単位:%)

	サンプル数	を介 入 者 に 障 害 者 の 女 性 点 や	備蓄 品 に つ い て の 女 性 の 視 点 や	つ け な が り を 大 切 に す る の	日 頃 か ら の コ ミ ュ ニ テ ィ の	に り 過 ご せ る 子 や 孫 の 安 全	避 難 所 運 営 基 準 等 を 全 作	や 女 性 も に 取 り 組 む 活 動	職 員 を 増 やす の 委 員 ・ 対	策 本 部 に 女 性 の 災 害 ・ 対	町 の 防 災 会 議 や 災 害 ・ 対	参 画 所 の 運 営 に 女 性 も	め 男 女 共 同 の 参 画 意 識 を 高	日 頃 か ら の 男 女 平 等 、	育 成 す る 女 性 の 現 場 で 活 動	防 災 や 災 害 の 一 た り を 動	そ の 他	特 に な い	無 回 答			
全 体	560	58.6	54.1	40.4	40.2	36.4	35.0	20.2	17.3	-	3.0	2.3										
性・年齢別	女性 計	350	62.3	55.7	41.4	38.3	31.4	32.0	17.7	13.1	-	2.3	2.9									
	20～29歳	26	73.1	73.1	26.9	46.2	26.9	23.1	11.5	7.7	-	3.8	-									
	30～39歳	96	67.7	50.0	44.8	43.8	39.6	28.1	21.9	13.5	-	1.0	1.0									
	40～49歳	72	63.9	40.3	44.4	36.1	34.7	34.7	15.3	12.5	-	4.2	2.8									
	50～59歳	55	72.7	58.2	43.6	41.8	30.9	41.8	14.5	18.2	-	-	3.6									
	60～69歳	51	49.0	66.7	31.4	31.4	23.5	29.4	19.6	9.8	-	5.9	5.9									
	70歳以上	49	46.9	65.3	44.9	28.6	22.4	30.6	18.4	14.3	-	-	4.1									
男性 計	207	52.7	51.2	38.6	44.0	44.9	40.1	24.6	24.6	-	4.3	1.4										

4. 職業観や仕事について

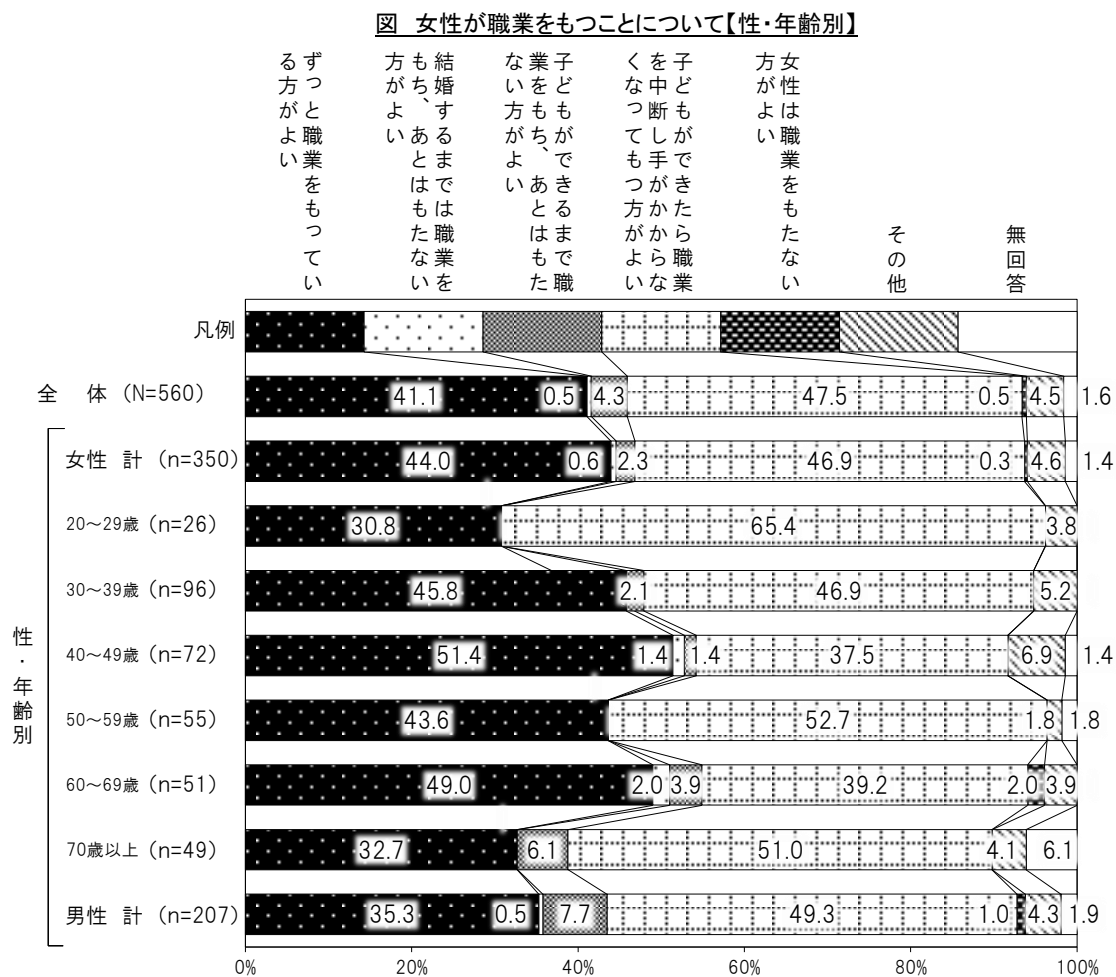
(1) 女性が職業をもつことについて

問 14. 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。(〇は1つだけ)

女性が職業をもつことについてみると、「子どもができれば職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」(47.5%)と「ずっと職業をもっている方がよい」(41.1%)という回答に二分されている。

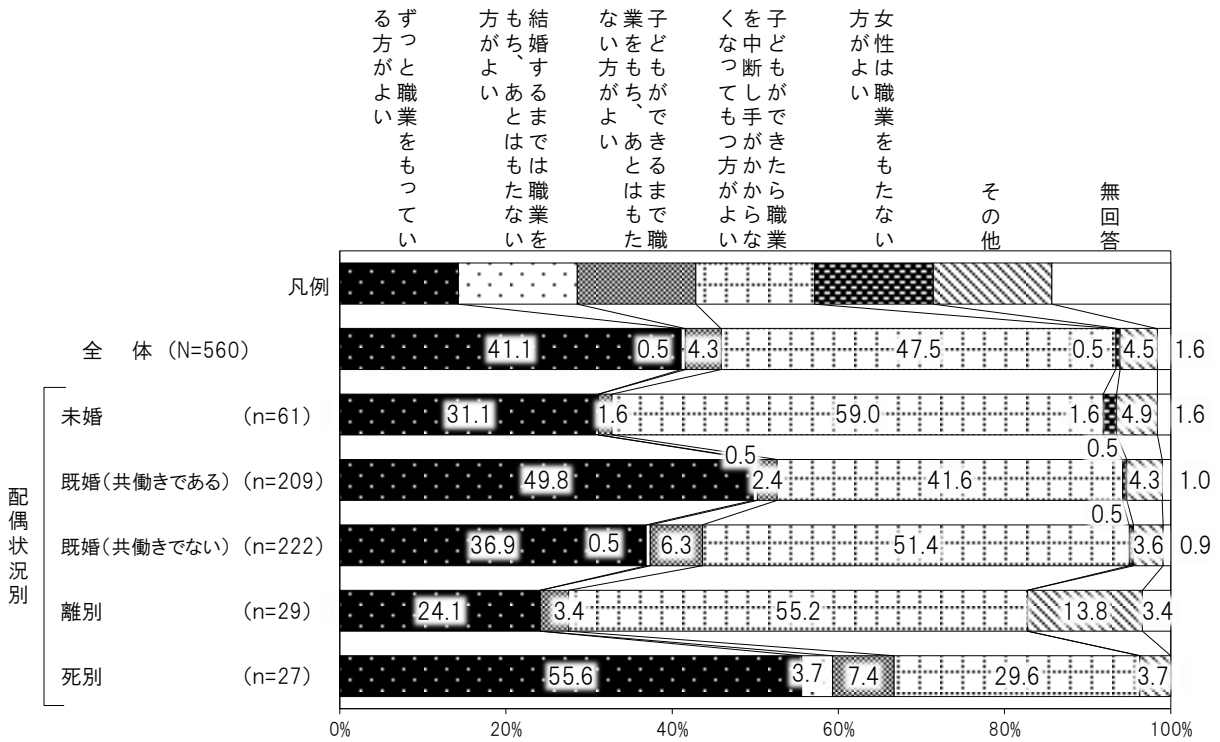
性別にみると、女性は男性に比べ「ずっと職業をもっている方がよい」と答える人が多く、男性を8.7ポイント上回っている。

女性年齢別にみると、20歳代及び70歳以上は「子どもが出来たら職業を中断して手がかからなくなってもつ方がよい」と回答する人が多く、「ずっと職業をもっている方がよい」と答える人は40歳代で多くみられる。



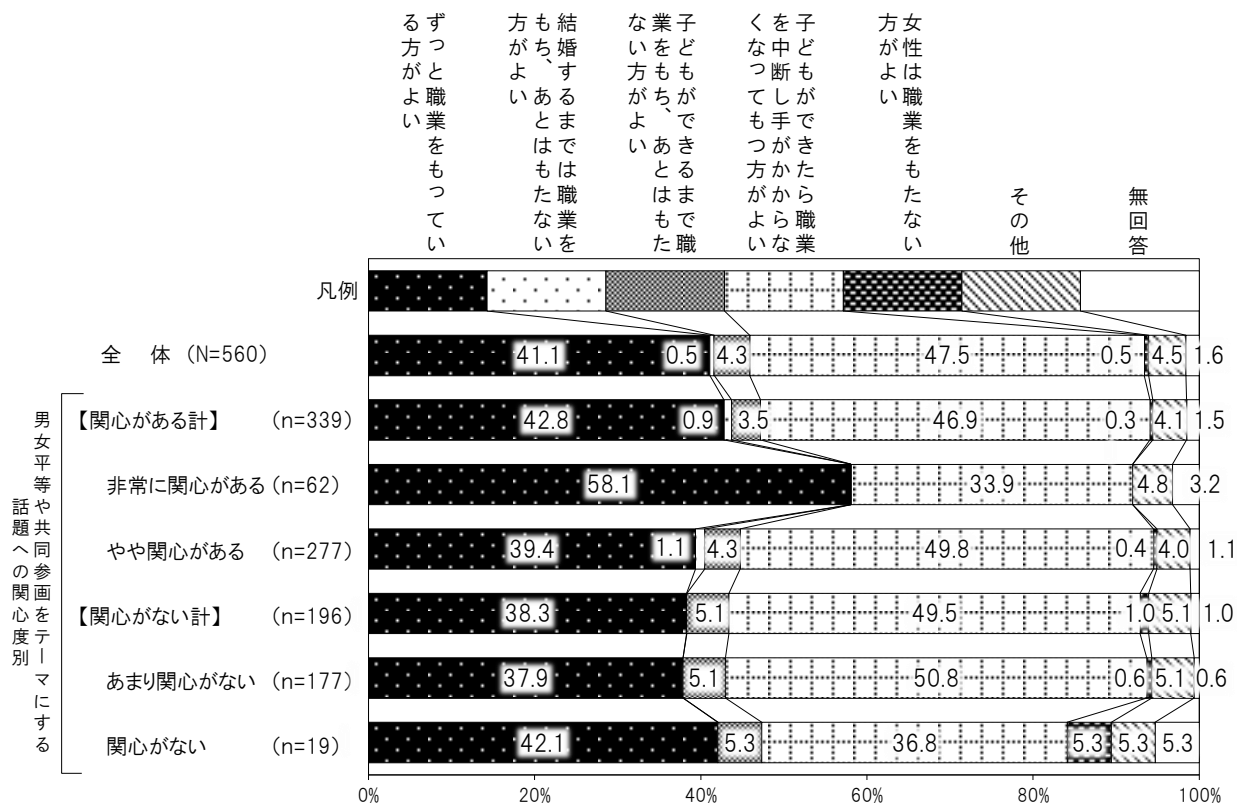
配偶状況別にみると、既婚（共働きである）、死別において「ずっと職業をもっている方がよい」と回答する人が多く、「子どもが出来たら職業を中断して手がからなくなってもつ方がよい」と答える人離婚で多くみられる。

図 女性が職業をもつことについて【配偶状況別】



男女平等や共同参画をテーマにする話題への関心度別にみると、関心度が高い層ほど「ずっと職業をもっている方がよい」という割合が高く、非常に関心がある層においては約6割を占めており。

図 女性が職業をもつことについて【男女平等や共同参画をテーマにする話題への関心度別】



(2) 現在の就業状況

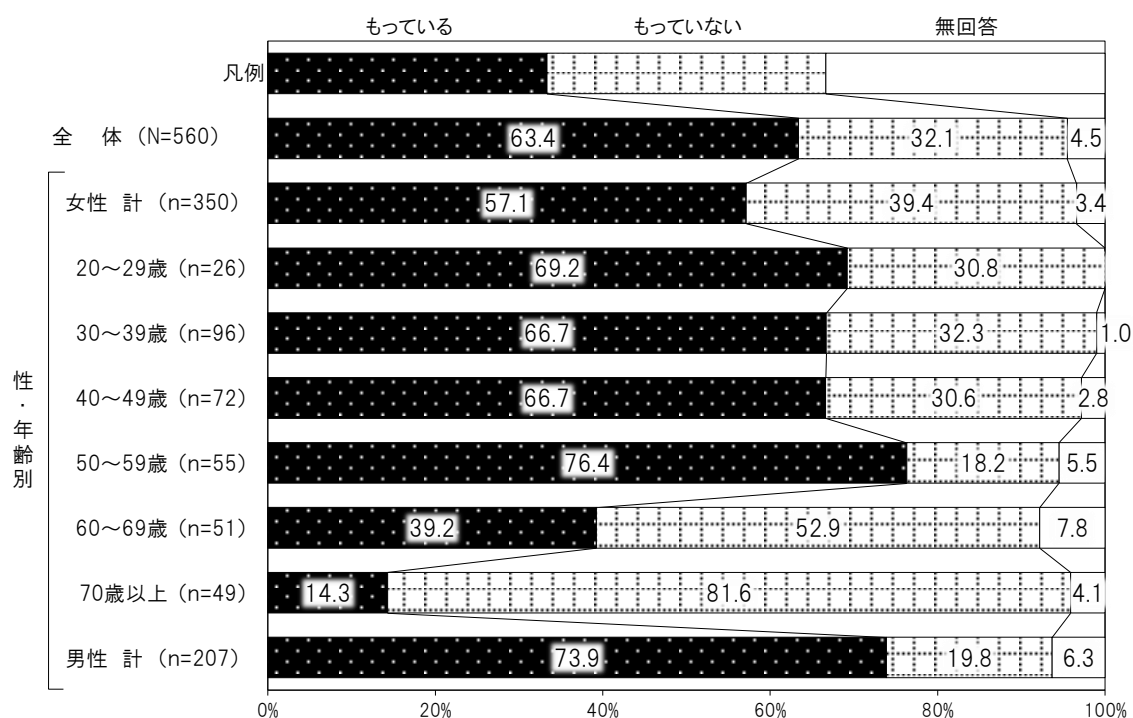
問 15. あなたは、現在職業（収入を伴う仕事）をもっていますか。※臨時雇、アルバイトなどを含みます。
 (○は1つだけ)

現在の職業(収入を伴う仕事)をみると、「もっている」(63.4%)が6割強を占めている。

性別にみると、男性の73.9%、女性の57.1%が「もっている」と回答している。

女性年齢別にみると、20歳代～40歳代は7割程度、50歳代は8割弱が「もっている」と回答している。

図 現在の就業状況【性・年齢別】



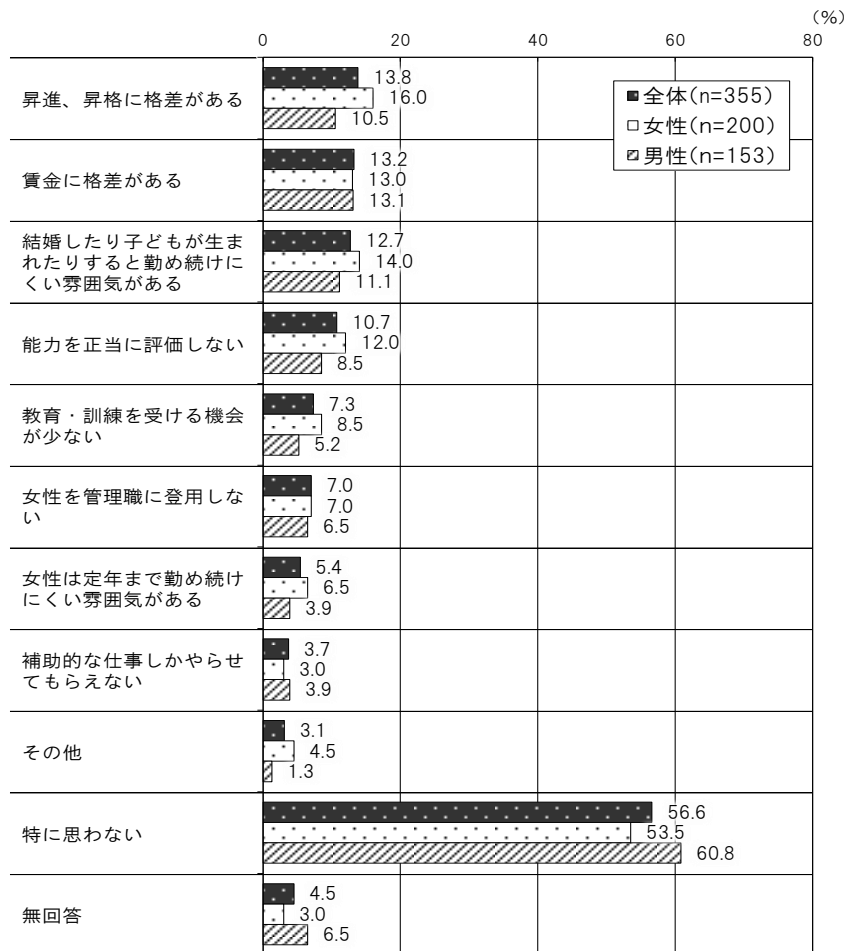
(3) 現在の職場で女性が男性に比べて不当に差別されていると思うこと

(問 15 で「1. もっている」と答えた方にうかがいます。)
 問 15-1. あなたの今の職場では、仕事の内容や待遇面で、女性は男性に比べ不当に差別されていると思うこと
 がありますか。(○はいくつでも)

現在の職場で女性が男性に比べて不当に差別されていると思うことをみると、「特に思わない」(56.6%)が過半数を占めるものの、「昇進、昇格に差別がある」(13.8%)、「賃金に差別がある」(13.2%)、「結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある」(12.7%)、「能力を正當に評価しない」(10.7%)などが上位に挙げられている。

性別にみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。

図 現在の職場で女性が男性に比べて不当に差別されていると思うこと【性別】



年齢別にみると、就労者が比較的多い30歳代～50歳代においては、「昇進・昇格に格差がある」と回答する人が40歳代において多くみられる。

表 現在の職場で女性が男性に比べて不当に差別されていると思うこと【性・年齢別】

(単位:%)

	サンプル数	る昇進、昇格に格差がある	賃金に格差がある	けま結婚したり子育てがめが	い能力を正当に評価しない	会教育・訓練を受ける機会が少ない	な女性を管理職に登用しない	け女性に定年まで勤め続ける	せ補助的な仕事しかやら	その他	特に思わない	無回答	
全体	355	13.8	13.2	12.7	10.7	7.3	7.0	5.4	3.7	3.1	56.6	4.5	
性・年齢別	女性計	200	16.0	13.0	14.0	12.0	8.5	7.0	6.5	3.0	4.5	53.5	3.0
	20～29歳	18	11.1	5.6	27.8	16.7	-	5.6	5.6	-	-	61.1	-
	30～39歳	64	14.1	10.9	18.8	12.5	4.7	14.1	6.3	4.7	3.1	54.7	-
	40～49歳	48	25.0	14.6	10.4	16.7	14.6	2.1	10.4	4.2	-	54.2	4.2
	50～59歳	42	11.9	14.3	9.5	7.1	14.3	4.8	2.4	-	4.8	57.1	2.4
	60～69歳	20	15.0	20.0	10.0	10.0	5.0	5.0	10.0	5.0	20.0	45.0	-
	70歳以上	7	14.3	-	-	-	-	-	-	-	14.3	28.6	42.9
男性計	153	10.5	13.1	11.1	8.5	5.2	6.5	3.9	3.9	1.3	60.8	6.5	

(4) 男性が育児休業・介護休業制度等を活用することについて

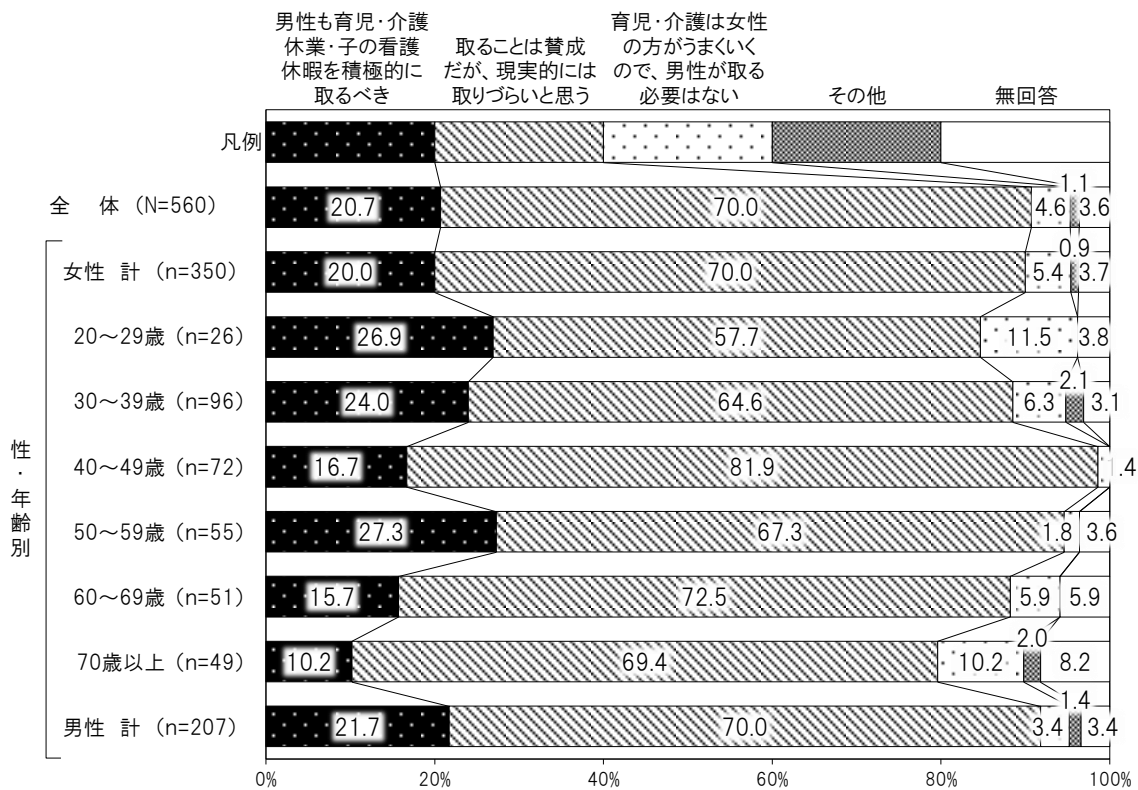
問 16. 育児や家族の介護を行うために、法律に基づき育児休業・介護休業・子の看護休暇を取得できる制度があります。あなたは、男性が、この制度を活用することについてどう思いますか。(○は1つだけ)

男性が育児休業・介護休業等を活用することについてみると、「取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」(70.0%)と回答する人が中心であり、「男性も育児・介護休業・子の看護休暇を積極的に取るべきである」(20.7%)と答える人は2割にとどまっている。

性別にみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。

女性年齢別にみると、いずれの年代も「取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」と回答する人が中心であるが、20歳代及び50歳代において「男性も育児・介護休業・子の看護休暇を積極的に取るべきである」と答える人が多くみられる。なお、70歳以上では「育児・介護は女性の方がうまくいくので、男性が取る必要はない」と回答する人が1割みられた。

図 男性が育児休業・介護休業制度等を活用することについて【性・年齢別】



5. セクシュアル・ハラスメントやDV（配偶者や恋人間の暴力）について

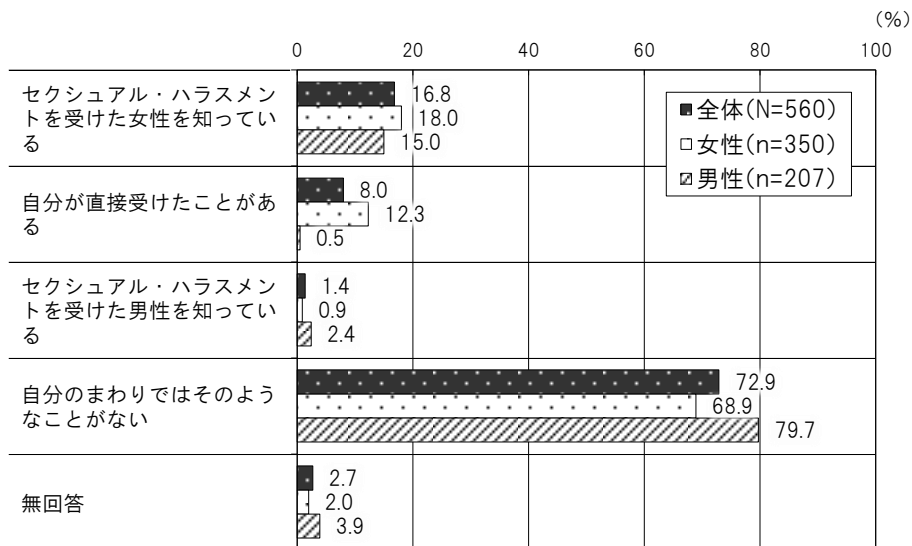
(1) セクシュアル・ハラスメントを受けたり見聞きした経験

問 17. あなたは、セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）を受けたり見聞きしたりしたことがありますか。（〇はいくつでも）

セクシュアル・ハラスメントを受けたり見聞きした経験をみると、『ある』が24.4%と4人中1人は経験者であり、内訳は「セクシュアル・ハラスメントを受けた女性を知っている」(16.8%)、「自分が直接受けたことがある」(8.0%)、「セクシュアル・ハラスメントを受けた男性を知っている」(1.4%)の順となっている。

性別にみると、女性が男性に比べ『ある』と答えた人がやや多く、「自分が直接受けたことがある」という女性は12.2%となっている。

図 セクシュアル・ハラスメントを受けたり見聞きした経験【性別】



女性年齢別にみると、40 歳代において「自分が直接受けたことがある」(27.8%)と答える人が3割弱を占めている。

表 セクシュアル・ハラスメントを受けたり見聞きした経験【性・年齢別】

(単位:%)

	サンプル数	メックンとして受けた・女性を	自分が直接受けたこと	メックンとして受けた・男性を	自分なこまわりではないはその	無回答	
全体	560	16.8	8.0	1.4	72.9	2.7	
性・年齢別	女性計	350	18.0	12.3	0.9	68.9	2.0
	20～29歳	26	19.2	11.5	-	73.1	-
	30～39歳	96	27.1	11.5	1.0	62.5	1.0
	40～49歳	72	12.5	27.8	-	59.7	-
	50～59歳	55	12.7	9.1	3.6	76.4	1.8
	60～69歳	51	19.6	5.9	-	72.5	3.9
	70歳以上	49	12.2	2.0	-	79.6	6.1
	男性計	207	15.0	0.5	2.4	79.7	3.9

(2) セクシュアル・ハラスメントを受けた場所

(問 17で「1. 自分が直接受けたことがある」と答えた方にうかがいます。)
 問 17-1. セクシュアル・ハラスメントを受けた場所はどこですか。(〇はいくつでも)

セクシュアル・ハラスメントを受けた場所をみると、大半は「職場」(84.4%)と回答している。

図 セクシュアル・ハラスメントを受けた場所【性別】

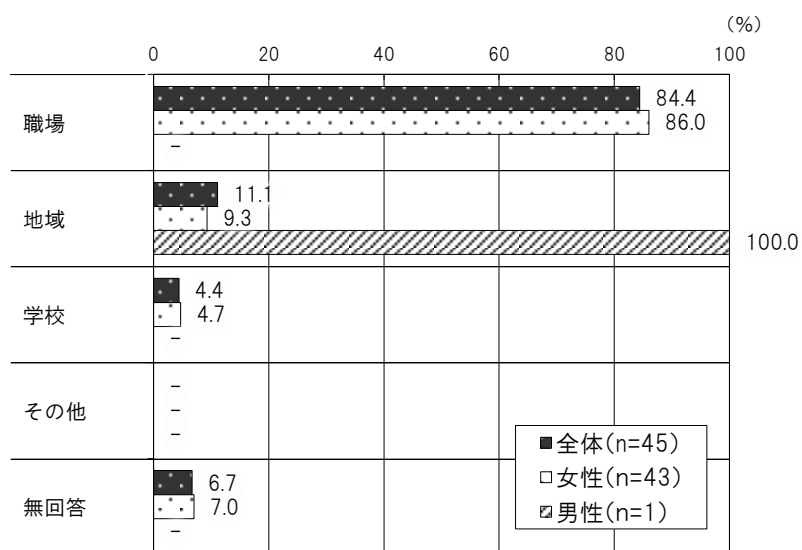


表 セクシュアル・ハラスメントを受けた場所【性・年齢別】

(単位:%)

		サンプル数	職場	地域	学校	その他	無回答
全 体		45	84.4	11.1	4.4	-	6.7
性・年齢別	女性 計	43	86.0	9.3	4.7	-	7.0
	20~29歳	3	66.7	-	33.3	-	-
	30~39歳	11	90.9	9.1	9.1	-	9.1
	40~49歳	20	95.0	5.0	-	-	5.0
	50~59歳	5	80.0	-	-	-	20.0
	60~69歳	3	66.7	33.3	-	-	-
	70歳以上	1	-	100.0	-	-	-
男性 計	1	-	100.0	-	-	-	

(3) 暴力を受けた際に取った行動

(問 17で「1. 自分が直接受けたことがある」と答えた方にうかがいます。)
 問 17-2. その後、あなたはどのような行動をとりましたか。(〇はいくつでも)

暴力を受けた際に取った行動を尋ねたところ、「相手に直接抗議した」、「家族や友人に相談した」(各々26.7%)、「職場の上司や学校の先生などに相談した」(22.2%)など多岐にわたるものの、3人に1人は「特に何もしなかった」(33.3%)と回答している。

図 暴力を受けた際に取った行動【性別】

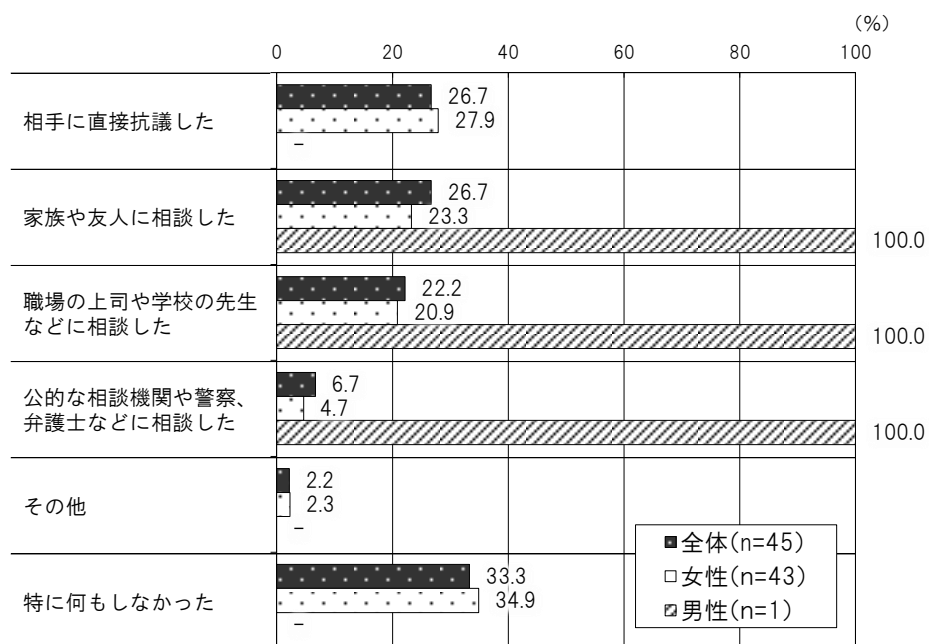


表 暴力を受けた際に行った行動【性・年齢別】

(単位:%)

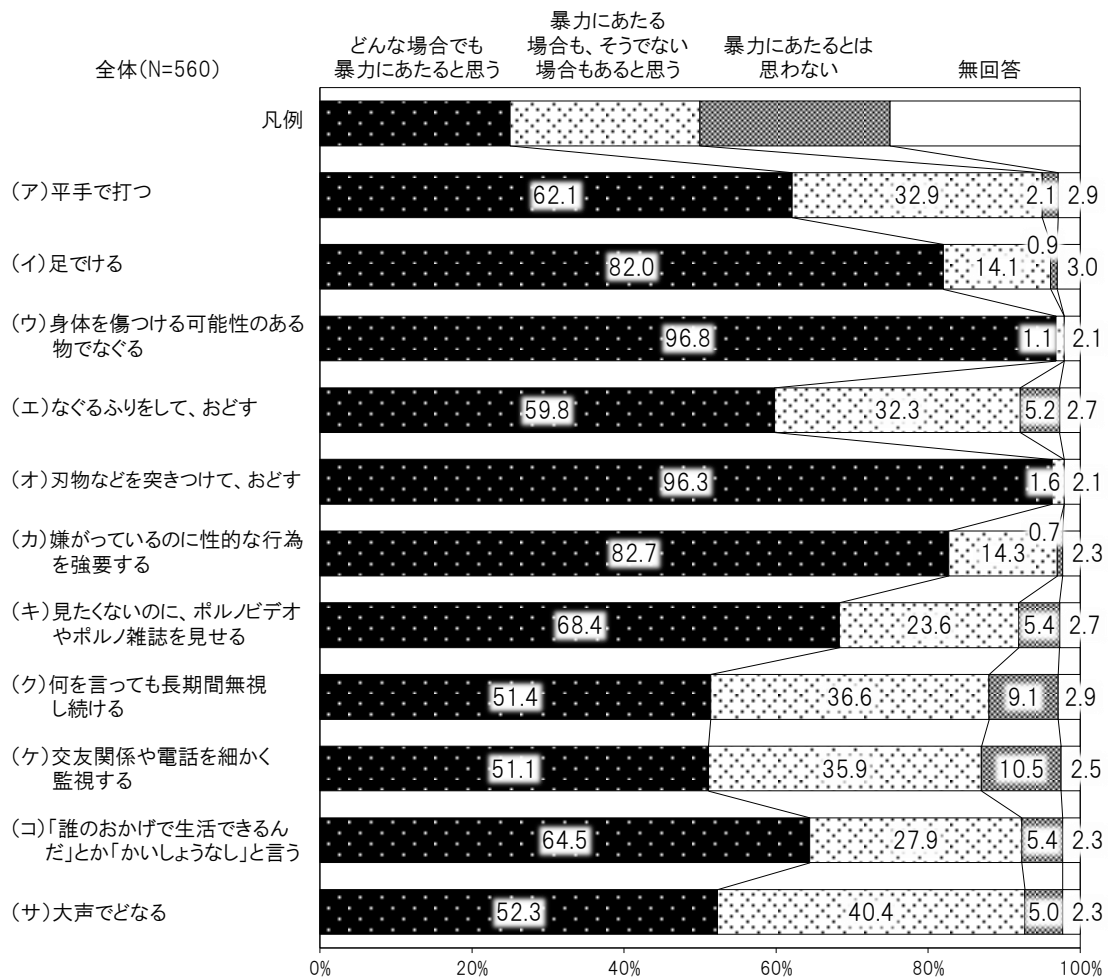
		サンプル数	相手に直接抗議した	家族や友人に相談した	職場の上司や学校の先生などに相談した	警察、弁護士などに相談した	公的な相談機関や警察	その他	特に何もしなかった
全 体		45	26.7	26.7	22.2	6.7	2.2	33.3	
性・年齢別	女性 計	43	27.9	23.3	20.9	4.7	2.3	34.9	
	20～29歳	3	-	66.7	33.3	-	-	-	
	30～39歳	11	45.5	27.3	27.3	-	-	27.3	
	40～49歳	20	20.0	20.0	20.0	5.0	5.0	45.0	
	50～59歳	5	20.0	-	20.0	20.0	-	40.0	
	60～69歳	3	33.3	33.3	-	-	-	33.3	
	70歳以上	1	100.0	-	-	-	-	-	
男性 計	1	-	100.0	100.0	100.0	-	-		

(4) 夫婦・パートナー、恋人間で行われた時に暴力と考えられる行為

問 18. あなたは次のようなことが夫婦・パートナー、恋人間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。(ア)～(サ)のそれぞれの項目についてあてはまるものを選んでください。(○はそれぞれ1つだけ)

夫婦・パートナー、恋人間で行われた時に暴力と考えられる行為をみると、挙げられている全ての行為で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と答える人が過半数を占め、中でも「(ウ)身体を傷つける可能性のある物でなぐる」(96.8%)、「(オ)刃物などを突き付けて、おどす」(96.3%)、「(カ)嫌がっているのに性的な行為を強要する」(82.7%)、「(イ)足でける」(82.0%)については、大半の人が暴力だと認識している。

図 夫婦・パートナー、恋人間で行われた時に暴力と考えられる行為【全体】

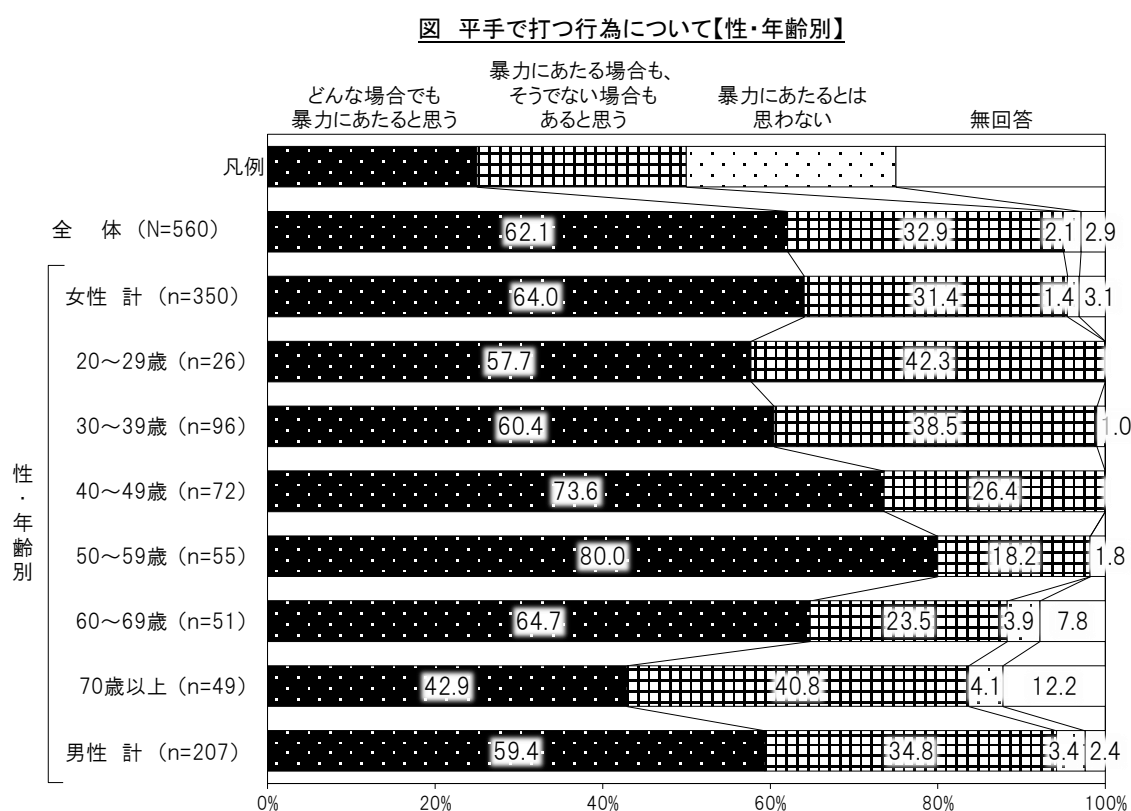


ア. 平手で打つ

平手で打つ行為については、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と答える人が 62.1%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」と答える人が 32.9%、「暴力にあたるとは思わない」と答える人が 2.1%となっている。

性別にみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。

女性年齢別にみると、50歳代では「どんな場合でも暴力にあたると思う」と答える人が80.0%を占めるが、70歳以上では「どんな場合でも暴力にあたると思う」と「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」と回答する人がほぼ同率となっている。

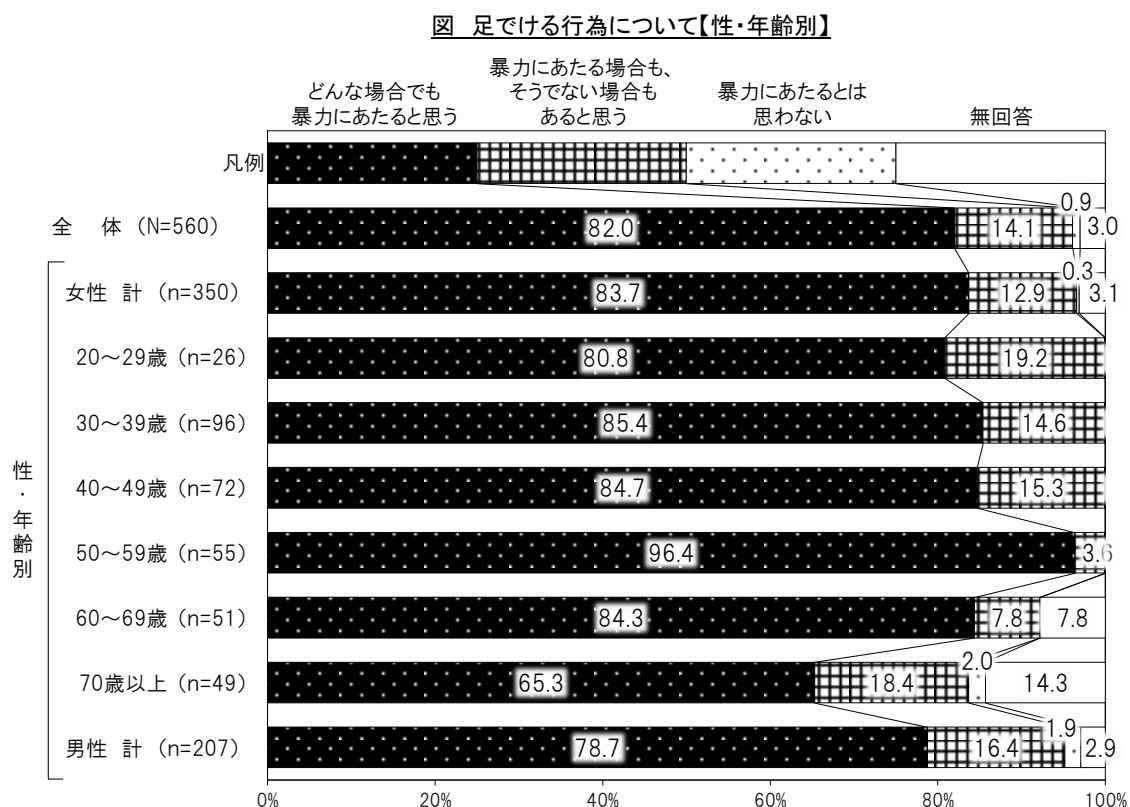


イ. 足でける

足でける行為については、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(82.0%)と答える人が大半を占め、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(14.1%)と回答する人は1割強にとどまっている。

性別にみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。

女性年齢別にみると、いずれの年代でも「どんな場合でも暴力にあたると思う」と答える人が大半であり、中でも50歳代は「どんな場合でも暴力にあたると思う」と答える人が9割以上(96.4%)を占めている。



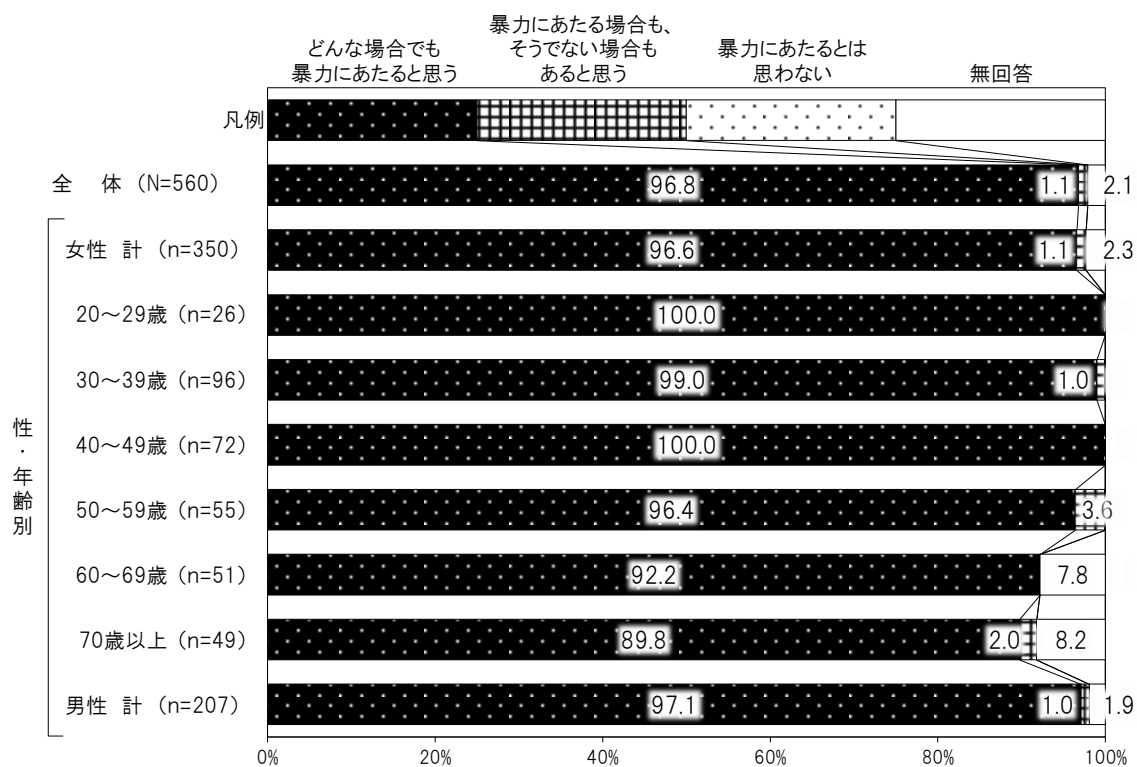
ウ. 身体を傷つける可能性のある物でなぐる

身体を傷つける可能性のある物でなぐる行為については、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(96.8%)と答える人がほとんどである。

性別にみると、男女ともほぼ同様の結果となっている。

女性年齢別にみると、いずれの年代ともほぼ同様の傾向を示している。

図 身体を傷つける可能性のある物でなぐる行為について【性・年齢別】

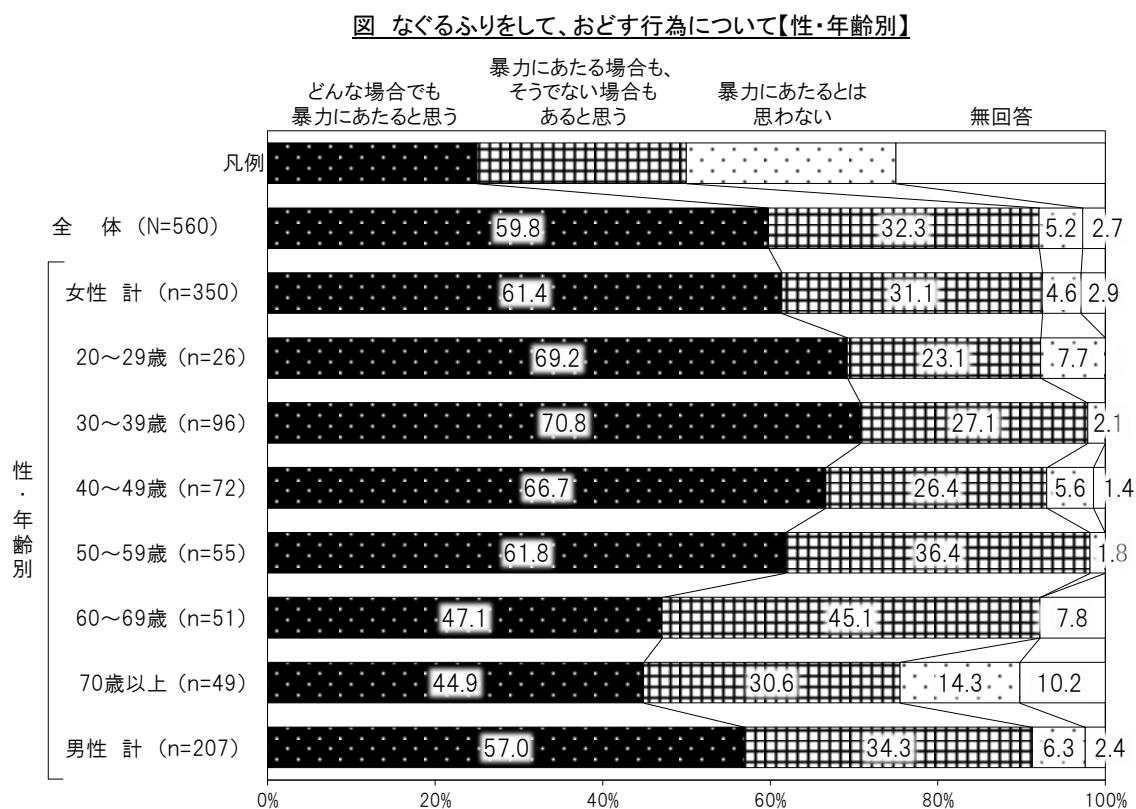


エ. なぐるふりをして、おどす

なぐるふりをして、おどす行為については、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と答える人が 59.8%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」と答える人が 32.3%、「暴力にあたるとは思わない」と答える人が 5.2%となっている。

性別にみると、男女ともほぼ同様の警句尾を示している。

女性年代別にみると、女性はいずれの年代でも「どんな場合でも暴力にあたると思う」と答える人が中心であるが、60歳代以上は「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」、「暴力にあたるとは思わない」と答える人も多くみられる。

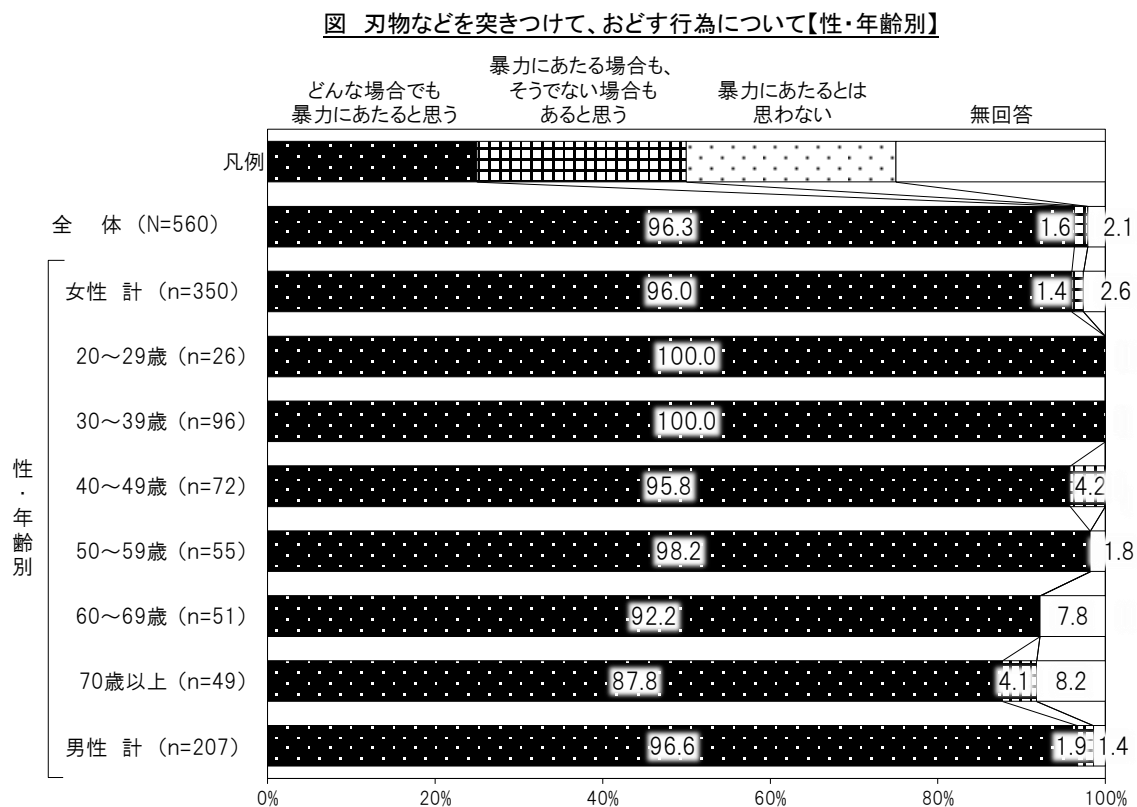


オ. 刃物などを突きつけて、おどす

刃物などを突きつけて、おどす行為については、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(96.3%)と答える人がほとんどである。

性別にみると、男女ともほぼ同様の結果となっている。

女性年齢別にみると、いずれの年代ともほぼ同様の傾向を示している。



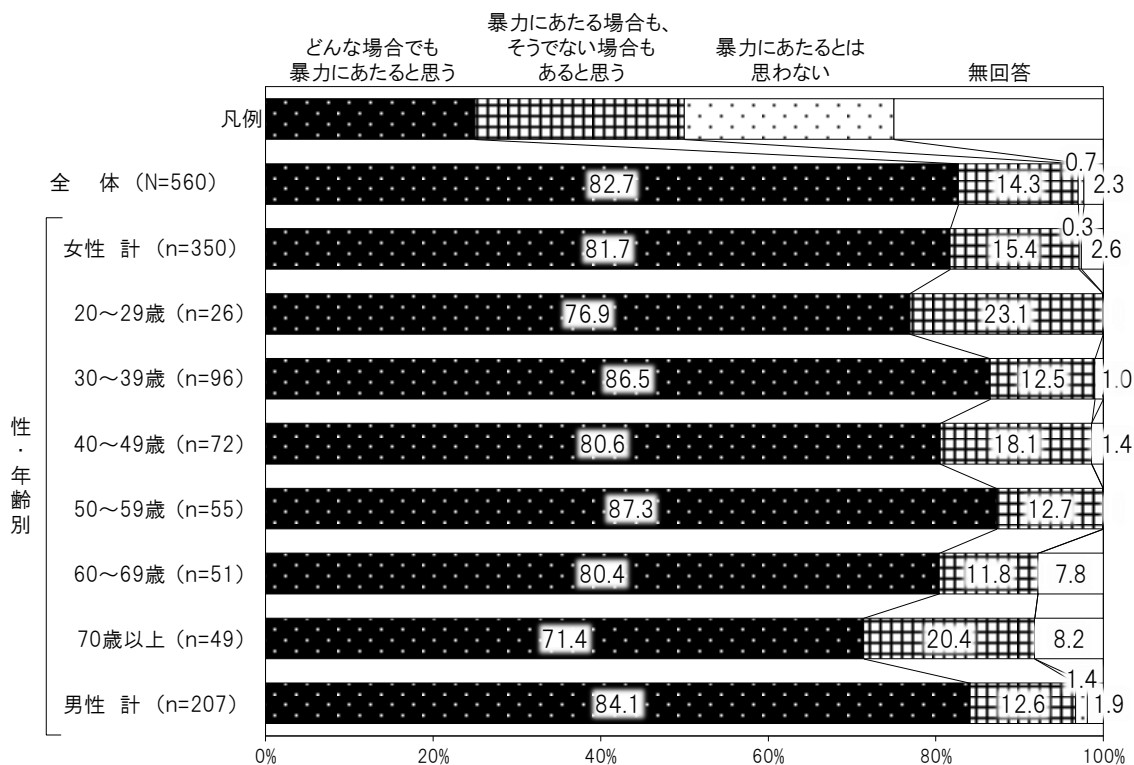
カ. 嫌がっているのに性的な行為を強要する

嫌がっているのに性的な行為を強要する行為については、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(82.7%)と答える人が大半を占め、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(14.3%)と回答する人は1割強にとどまっている。

性別にみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。

女性年齢別にみると、いずれの年代でも「どんな場合でも暴力にあたると思う」と答える人が大半を占めている。

図 嫌がっているのに性的な行為を強要する行為について【性・年齢別】



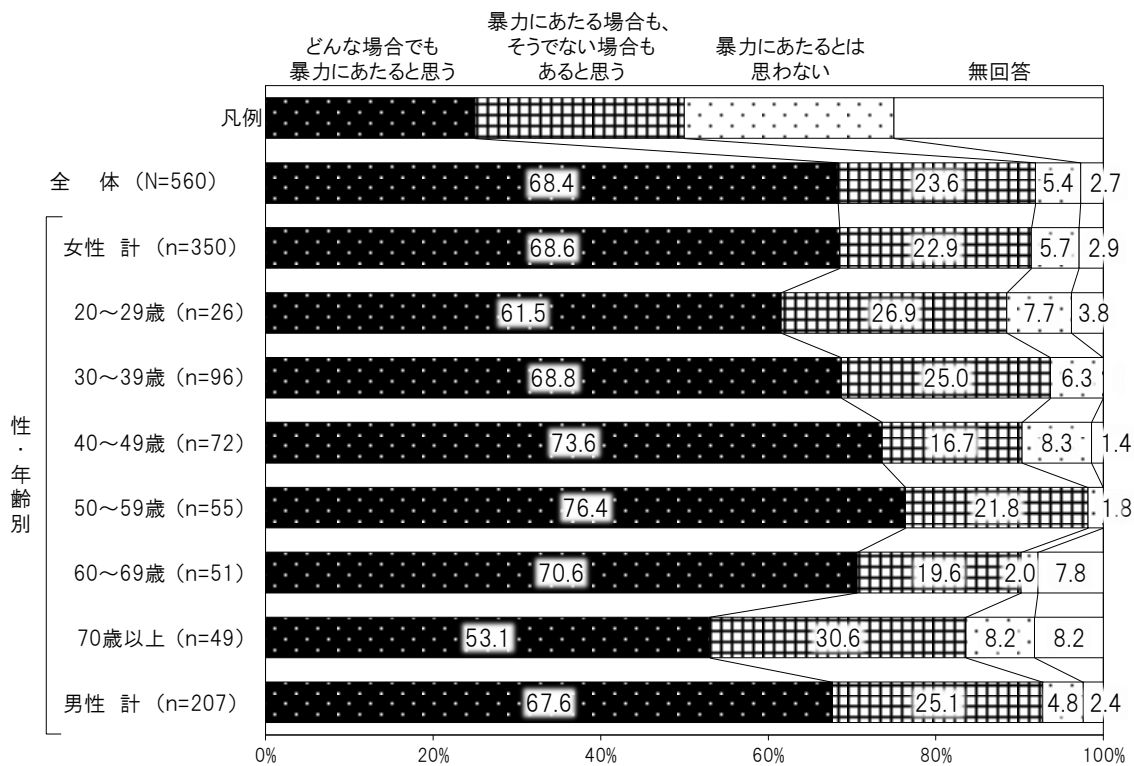
キ. 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる

見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる行為については、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と答える人が 68.4%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」と答える人が 23.6%、「暴力にあたるとは思わない」と答える人が 5.4%となっている。

性別にみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。

女性年齢別にみると、いずれの年代でも「どんな場合でも暴力にあたると思う」と答える人が最も多いものの、70歳以上は「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」と答える人も多くみられる。

図 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる行為について【性・年齢別】

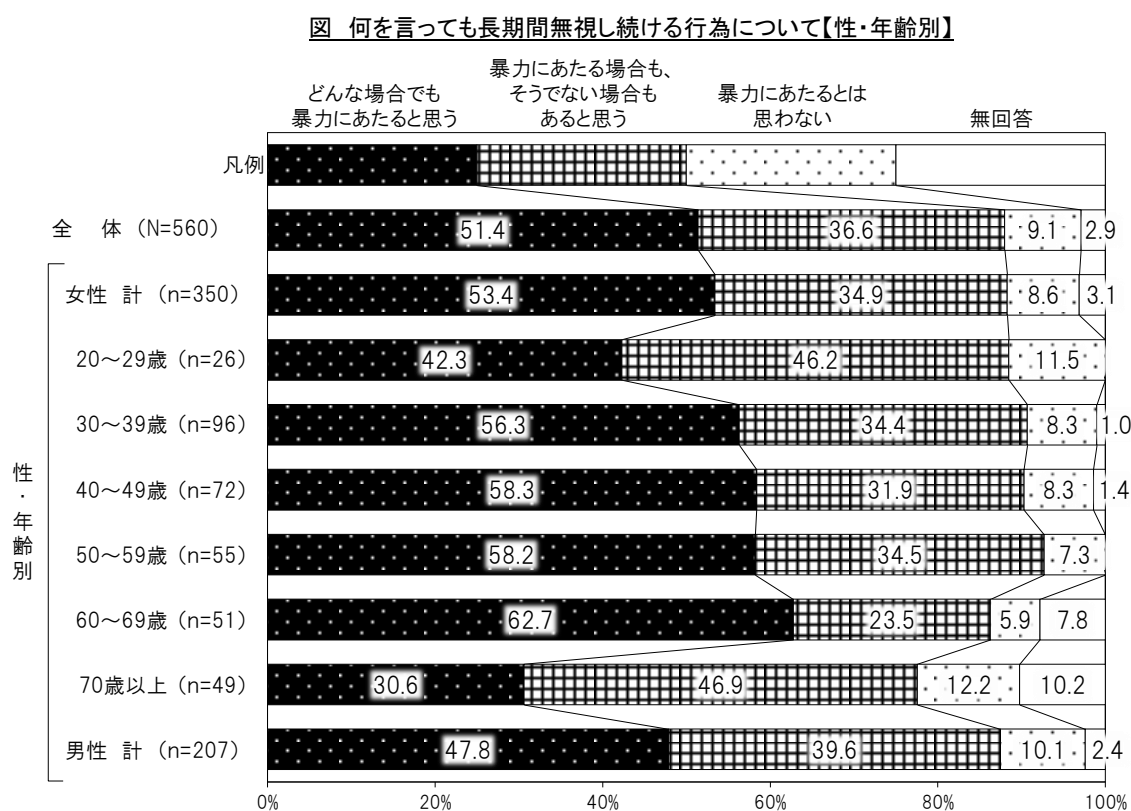


ク. 何を言っても長期間無視し続ける

何を言っても長期間無視し続ける行為については、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と答える人が51.4%と過半数を占めるが、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(36.6%)と答える人も多くみられる。

性別にみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。

女性年齢別にみると、20歳代と70歳以上は「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」と答える人が最も多く、他の年代との回答傾向が異なっている。

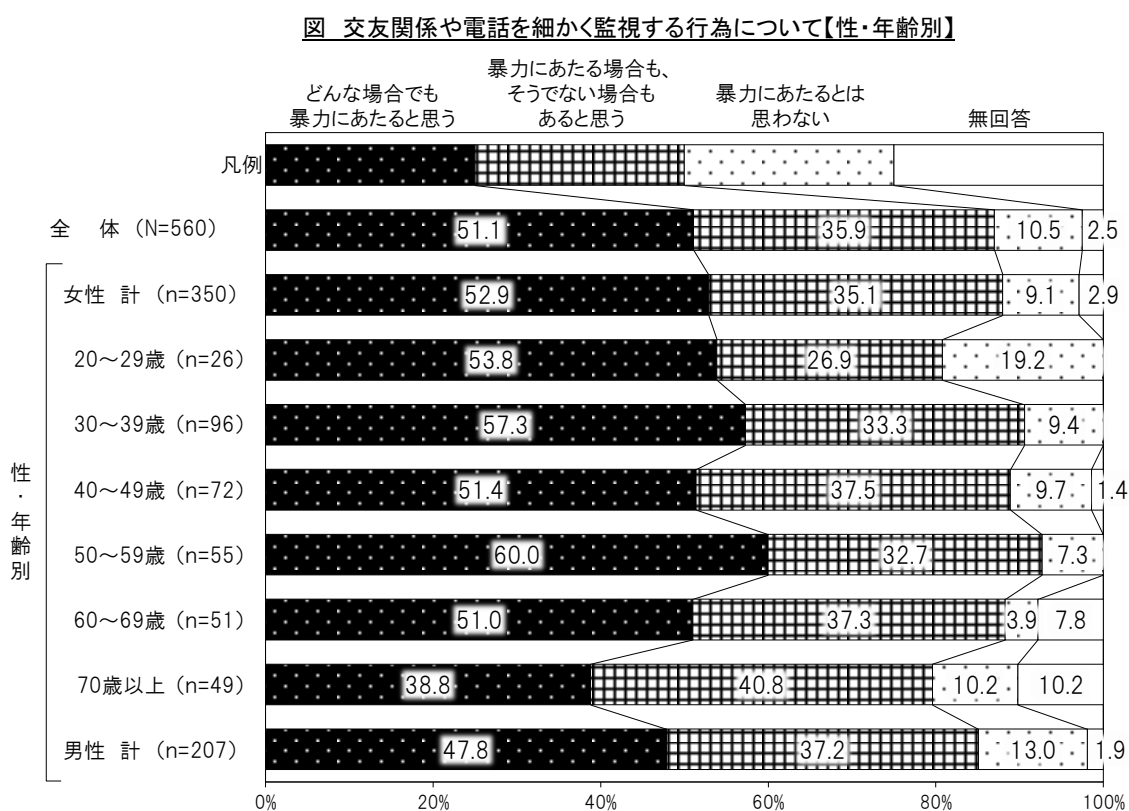


ケ. 交友関係や電話を細かく監視する

交友関係や電話や細かく監視する行為については、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と答える人が51.1%と過半数を占めるが、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(35.9%)と答える人も多くみられる。

性別にみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。

女性年齢別にみると、70歳以上は「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」と答える人が最も多く、他の年代との回答傾向が異なっている。



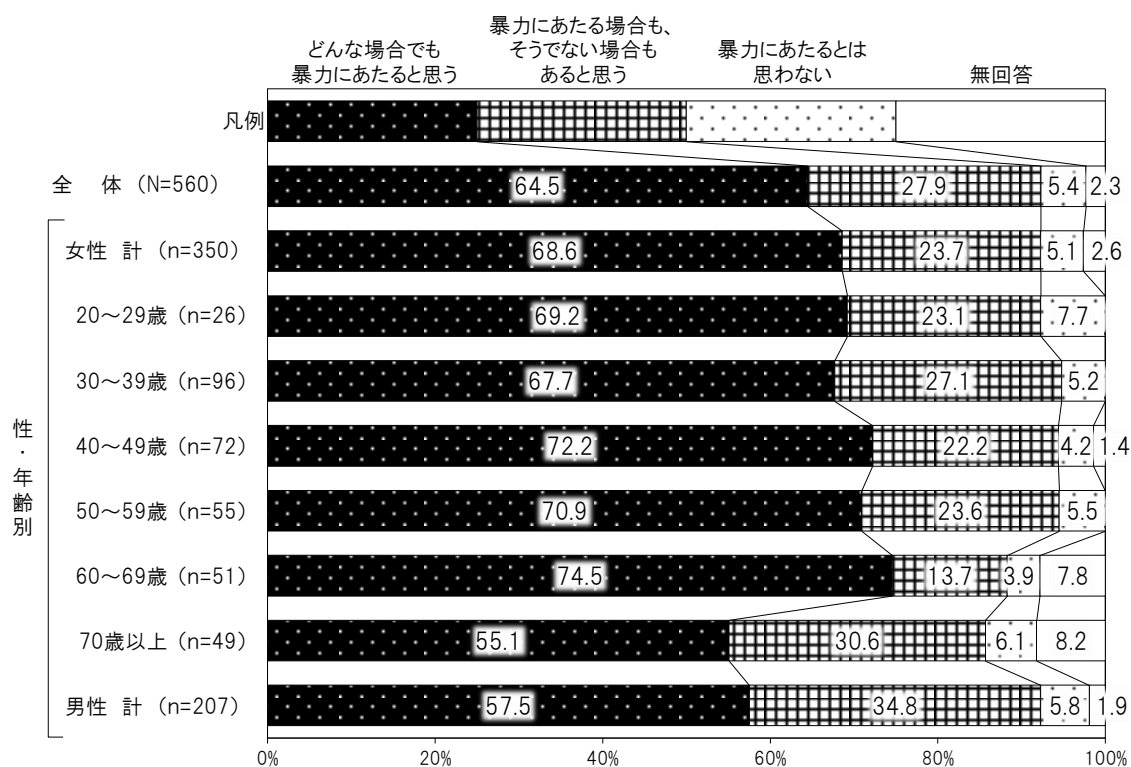
コ. 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言う

「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」と言う行為については、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と答える人が 64.5%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」と答える人が 27.9%、「暴力にあたるとは思わない」と答える人が 5.4%となっている。

性別にみると、男性は女性に比べ「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」と答える人が多くみられる。

女性年齢別にみると、いずれの年代でも「どんな場合でも暴力にあたると思う」と答える人が最も多くみられる。

図 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言う行為について【性・年齢別】

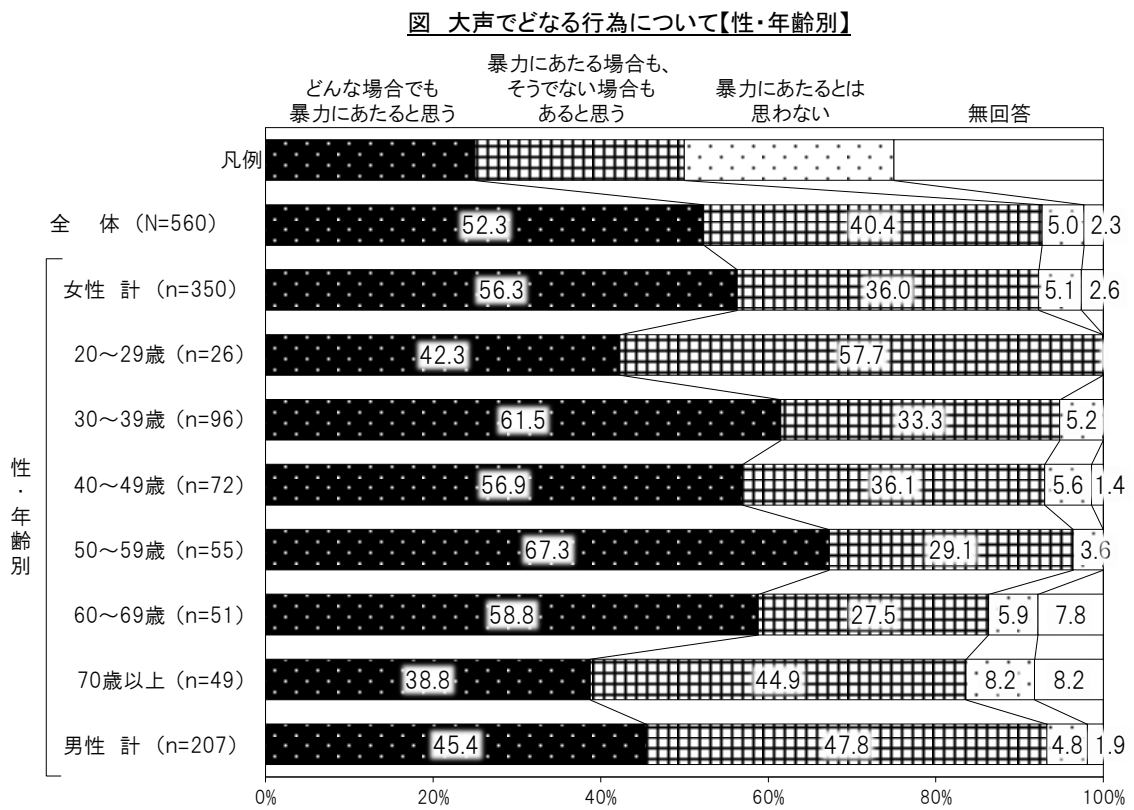


サ. 大声でどなる

大声でどなる行為については、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と答える人が 52.3%と過半数を占めるが、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(40.4%)と答える人も多くみられる。

性別にみると、女性は「どんな場合でも暴力にあたると思う」(56.3%)、男性は「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(47.8%)と答える人が最も多く、男女の意識の差が大きい。

女性年齢別にみると、20歳代と70歳以上は「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」と答える人が最も多く、他の年代との回答傾向が異なっている。

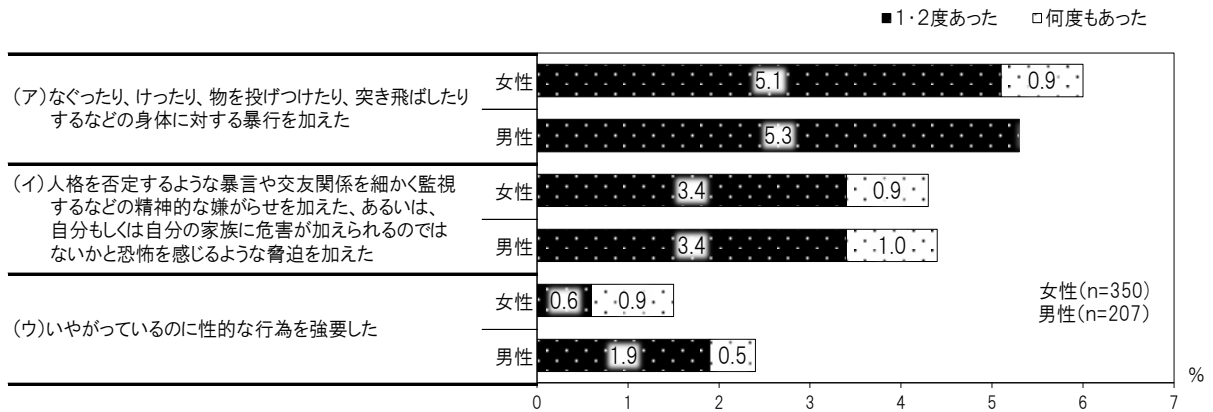


(5) この1年間のうち、配偶者・パートナー、恋人に行ったことがある行為

問 19. この1年間のうち、あなたは配偶者・パートナー、恋人に次のようなことをしたことがありますか。(ア)～(ウ)のそれぞれの項目についてあてはまるものを選んでください。(○はそれぞれ1つだけ)

この1年間のうち、配偶者・パートナー、恋人に行ったことがある行為をみると、男女とも「(ア)なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴力を加えた」(女性:6.0%、男性:5.3%)が最も多く、次いで「(イ)人格を否定するような暴言や交友関係を監視するなどの精神的な嫌がらせを加えたなど」(女性:4.3%、男性:4.4%)、「(ウ)いやがっているのに性的な行為を強要した」(女性:1.5%、男性:2.4%)となっている。

図 この1年間のうち、配偶者・パートナー、恋人に行ったことがある行為【全体】

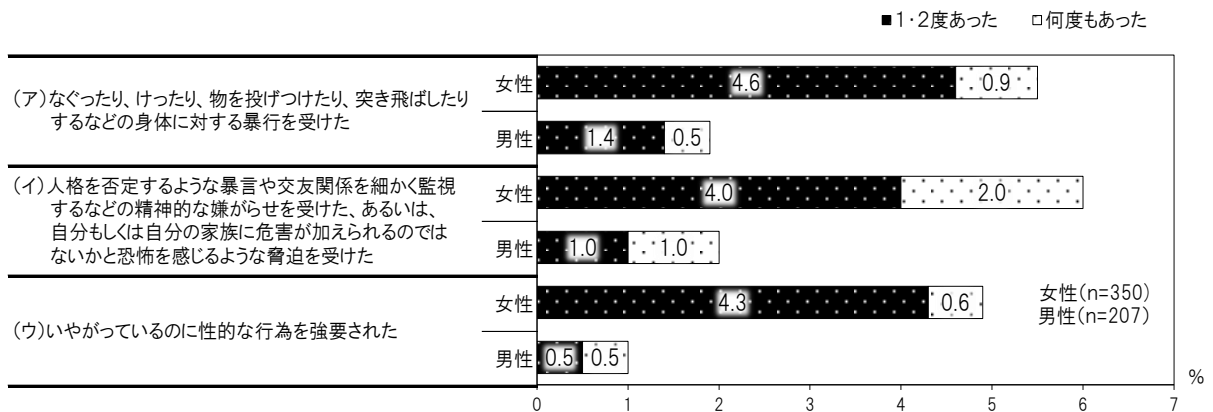


(6) この1年間のうち、配偶者・パートナー、恋人に受けたことがある行為

問 20. この1年間のうち、あなたは配偶者・パートナー、恋人から次のようなことをされたことがありますか。
 (ア)～(ウ)のそれぞれの項目についてあてはまるものを選んでください。
 (○はそれぞれ1つだけ)

この1年間のうち、配偶者・パートナー、恋人から受けたことがある行為をみると、男女とも「(イ)人格を否定するような暴言や交友関係を監視するなどの精神的な嫌がらせを加えたなど」(女性:6.0%、男性:2.0%)が最も多く、次いで「(ア)なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴力を加えた」(女性:5.5%、男性:1.9%)、「(ウ)いやがっているのに性的な行為を強要した」(女性:4.9%、男性:1.0%)となっているが、受けたことがある経験率では女性が男性を上回っている。

図 この1年間のうち、配偶者・パートナー、恋人に受けたことがある行為【全体】



(7) 行為を受けた後の相談先

(ア)～(ウ)のうち、1つでも「1.」または「2.」と答えた方にうかがいます。
 問 20-1. あなたが受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。
 (〇はいくつでも)

問 20(ア)～(ウ)の行為をこの1年間で、一度でも受けたことがあると回答した人に、行為を受けた後の相談先について尋ねたところ、男女ともに「どこ(誰)にも相談しなかった」(女性 72.1%、男性 50.0%)の割合が最も高く、女性の場合7割以上を占めている。

図 行為を受けた後の相談先【性別】



表 行為を受けた後の相談先【性・年齢別】

(単位:%)

	サンプル数	友人・知人に相談した	家族や親せきに相談した	民間の専門家や専門機関(弁護士、カウンセラー等)に相談した	医療関係者(医師、看護師など)に相談した	かすや地区女性ホットラインに相談した	警察に連絡・相談した	外トラの公的な機関に相談した	「かすや地区女性警察ホットライン」に相談した	その他	なご(誰)にも相談しなかった
全 体	51	17.6	13.7	3.9	3.9	-	-	-	-	-	68.6
性・年齢別	女性 計	43	14.0	16.3	2.3	2.3	-	-	-	-	72.1
	20～29歳	5	20.0	20.0	-	-	-	-	-	-	80.0
	30～39歳	12	8.3	16.7	-	-	-	-	-	-	75.0
	40～49歳	15	6.7	6.7	-	-	-	-	-	-	86.7
	50～59歳	6	16.7	16.7	-	-	-	-	-	-	66.7
	60～69歳	2	50.0	50.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-
	70歳以上	3	33.3	33.3	-	-	-	-	-	-	33.3
男性 計	8	37.5	-	12.5	12.5	-	-	-	-	-	50.0

(8) 相談しなかった理由

(問20-1で「9. どこ(誰)にも相談しなかった」と答えた方にうかがいます。)
 問20-2. どこ(誰)にも相談しなかったのは、なぜですか。(〇はいくつでも)

暴力を受けてどこ(誰)にも相談しなかった人に、相談しなかった理由について尋ねたところ、男女ともに「相談する程のことではないと思った」と答える人が最も多いものの、「恥ずかしくて誰にも言えなかった」、「相談してもむだだと思った」などの理由が上位に挙がっている。

図 相談しなかった理由【性別】

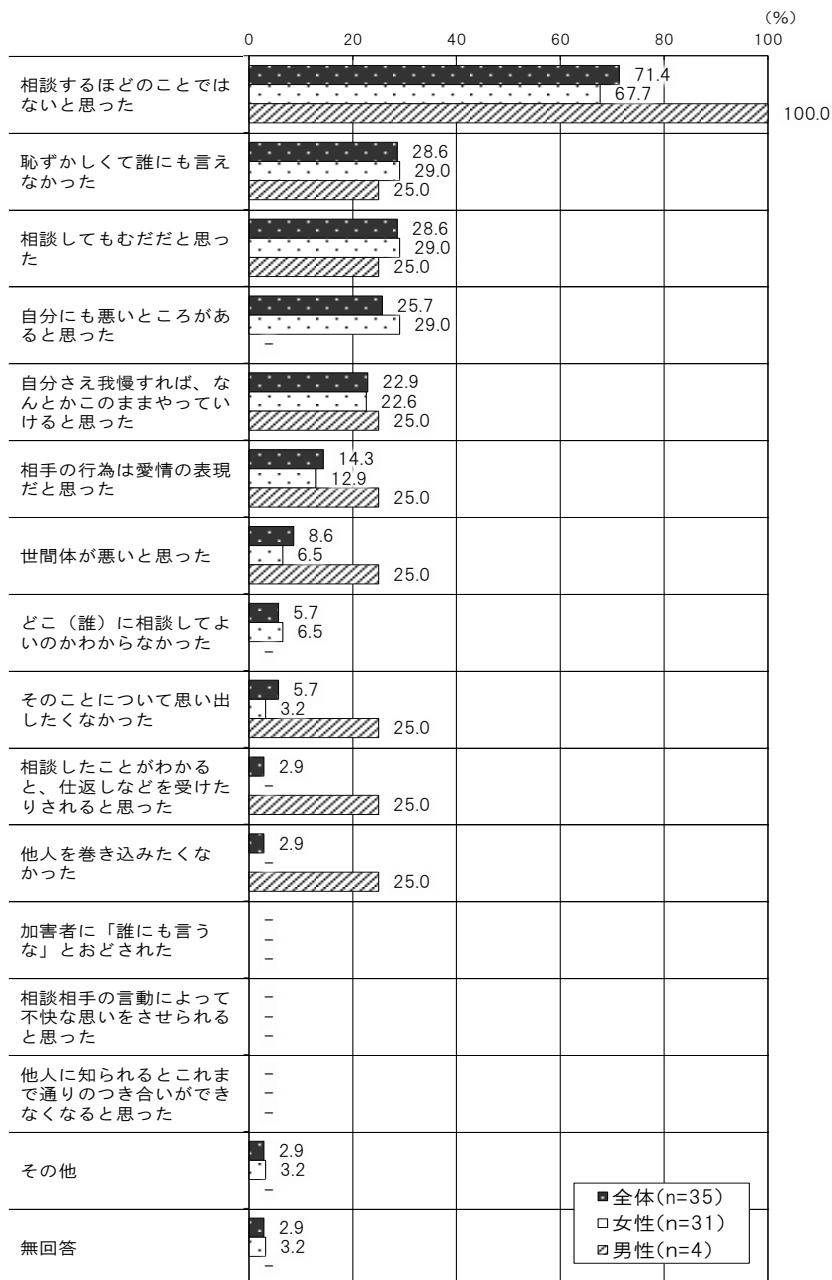


表 相談しなかった理由【性・年齢別】

(単位:%)

	サンプル数	相談するほどのことではないと思った	恥ずかしくて誰にも言えなかった	相談してもむだだと思つた	自分にも悪いところがあると思つた	自分さえ我慢すれば、なんとかなると思つた	相手の行為は愛情の表現だと思つた	世間体が悪いと思つた	たよりの誰かに相談して	出したくないと思つた	相談したことがわかる	他人を巻き込みたくない	
全体	35	71.4	28.6	28.6	25.7	22.9	14.3	8.6	5.7	5.7	2.9	2.9	
性・年齢別	女性計	31	67.7	29.0	29.0	29.0	22.6	12.9	6.5	6.5	3.2	-	-
	20～29歳	4	100.0	75.0	25.0	50.0	25.0	-	-	-	-	-	-
	30～39歳	9	44.4	22.2	22.2	22.2	33.3	11.1	11.1	11.1	-	-	-
	40～49歳	13	69.2	15.4	30.8	38.5	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	-	-
	50～59歳	4	75.0	25.0	25.0	-	25.0	25.0	-	-	-	-	-
	60～69歳	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	70歳以上	1	100.0	100.0	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-	-
男性計	4	100.0	25.0	25.0	-	25.0	25.0	25.0	-	25.0	25.0	25.0	

	サンプル数	加害者におどされた	相談相手の言動をさせられ不快な思いをした	他人に知られると気が通らない	その他	無回答	
全体	35	-	-	-	2.9	2.9	
性・年齢別	女性計	31	-	-	-	3.2	3.2
	20～29歳	4	-	-	-	-	-
	30～39歳	9	-	-	-	-	11.1
	40～49歳	13	-	-	-	7.7	-
	50～59歳	4	-	-	-	-	-
	60～69歳	0	-	-	-	-	-
	70歳以上	1	-	-	-	-	-
男性計	4	-	-	-	-	-	

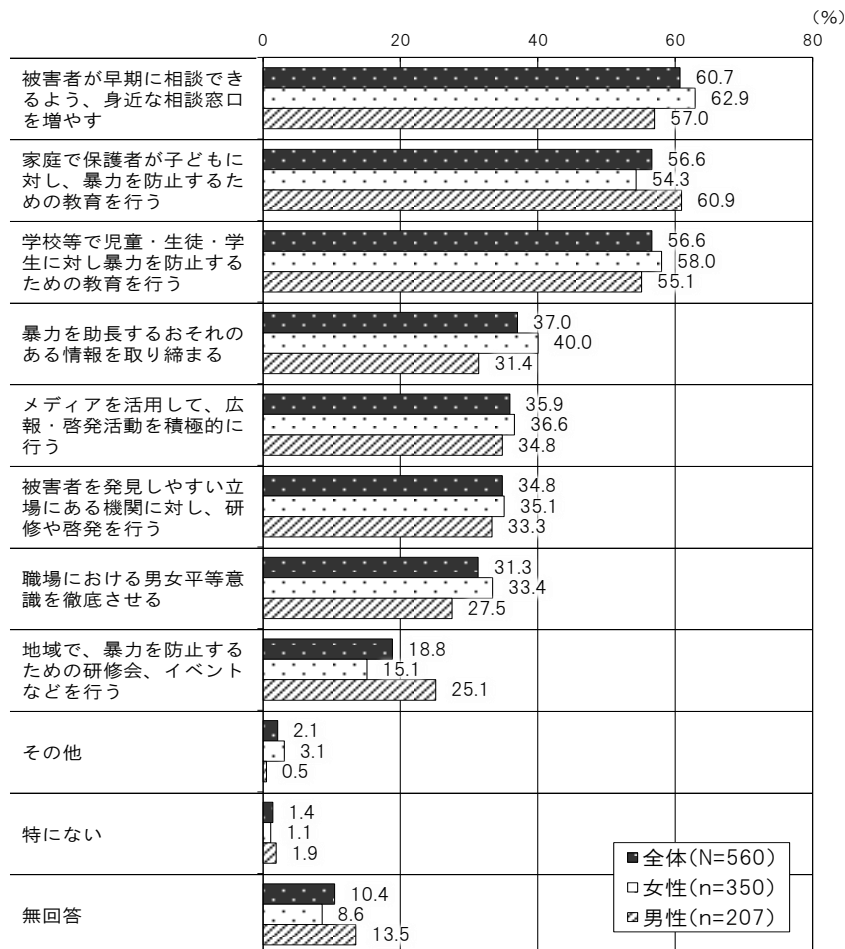
(9) セクシュアル・ハラスメントやDVをなくすための対策

問 21. セクシュアル・ハラスメントやDVなどへの関心が高まっていますが、このようなことをなくすためには、あなたはどうしたらよいと思いますか。(〇はいくつでも)

セクシュアル・ハラスメントやDVをなくすための対策をみると、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」(60.7%)が最も多く、次いで「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」、「学校等で児童・生徒・学生に対し暴力を防止するための教育を行う」(各々56.6%)の順となっている。

性別にみると、女性は「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」(62.9%)が最も多く、次いで「学校等で児童・生徒・学生に対し暴力を防止するための教育を行う」(58.0%)、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」(54.3%)の順となっている。一方で、男性は「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」(60.9%)が最も多く、次いで「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」(57.0%)、「学校等で児童・生徒・学生に対し暴力を防止するための教育を行う」(55.1%)の順となっている。

図 セクシュアル・ハラスメントやDVをなくすための対策【性別】



女性年齢別にみると、30歳代を除くすべての年代では「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」、30歳代では「学校等で児童・生徒・学生に対し暴力を防止するための教育を行う」という対策が最も多く回答されている。また、30歳代は「職場における男女平等意識を徹底させる」、50歳代は「メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う」、50歳代～70歳以上は「暴力を助長するおそれのある情報を取り締まる」という対策が、他の年代に比べ多くみられる。

表 セクシュアル・ハラスメントやDVをなくすための対策【性・年齢別】

(単位:%)

	サンプル数	窓口を増やす、身近な相談で	被害者が早期に相談で	るに、保護者が行う	家庭での教育を防止す	学校等での児童・生徒に対する教育	るの、情報を取り締まる	的、啓発活動をし、	広報・メディアを活用し、	し、研修や啓発活動を行う	立、場を修め、見聞を	被害者への啓発を徹底させる	意識を徹底させる	職場における男女平等	ン、地域の研修会、防	地、暴力を防止す	た、め、	その他	特	無
全 体	560	60.7	56.6	56.6	37.0	35.9	34.8	31.3	18.8	2.1	1.4	10.4								
性・年齢別	女性 計	350	62.9	54.3	58.0	40.0	36.6	35.1	33.4	15.1	3.1	1.1	8.6							
	20～29歳	26	73.1	50.0	57.7	19.2	7.7	34.6	30.8	-	3.8	-	7.7							
	30～39歳	96	58.3	57.3	63.5	32.3	40.6	35.4	42.7	15.6	4.2	2.1	7.3							
	40～49歳	72	63.9	55.6	58.3	37.5	44.4	37.5	31.9	12.5	2.8	-	5.6							
	50～59歳	55	65.5	54.5	56.4	50.9	49.1	47.3	38.2	20.0	5.5	-	5.5							
	60～69歳	51	62.7	54.9	52.9	47.1	33.3	35.3	29.4	15.7	-	3.9	13.7							
	70歳以上	49	61.2	46.9	53.1	49.0	22.4	16.3	18.4	18.4	2.0	-	14.3							
男性 計	207	57.0	60.9	55.1	31.4	34.8	33.3	27.5	25.1	0.5	1.9	13.5								

配偶状況別にみると、離婚者においては「学校等で児童・生徒・学生に対し暴力を防止するための教育を行う」、「職場における男女平等意識を徹底させる」という対策が、他の年代に比べ多くみられる。

表 セクシュアル・ハラスメントやDVをなくすための対策【配偶状況別】

(単位:%)

	サンプル数	窓口を増やす	被害者が早期に相談	家庭での教育を行う	学校等での児童・生徒に対する教育を行う	暴力に関する情報を取り締まる	広報・啓発活動を行う	メディアを活用して積極的	立修や啓発機を対	被害者を見出し	職場を徹底させる	地域での研修会を防止	その他	特にな	無回答
全 体	560	60.7	56.6	56.6	37.0	35.9	34.8	31.3	18.8	2.1	1.4	10.4			
配偶状況別	未婚	61	62.3	49.2	60.7	37.7	39.3	32.8	34.4	18.0	3.3	3.3	11.5		
	既婚(共働きである)	209	62.2	53.1	52.6	35.4	35.9	37.8	29.2	20.1	3.3	1.0	7.7		
	既婚(共働きでない)	222	58.6	61.3	62.2	38.3	36.5	33.8	32.0	18.5	1.4	1.8	10.4		
	離別	29	69.0	72.4	58.6	41.4	37.9	27.6	41.4	31.0	-	-	10.3		
	死別	27	66.7	63.0	51.9	40.7	25.9	29.6	22.2	7.4	-	-	11.1		

6. 男女共同参画社会の実現について

(1) 男女がすべての分野で平等になるために最も重要と思うこと

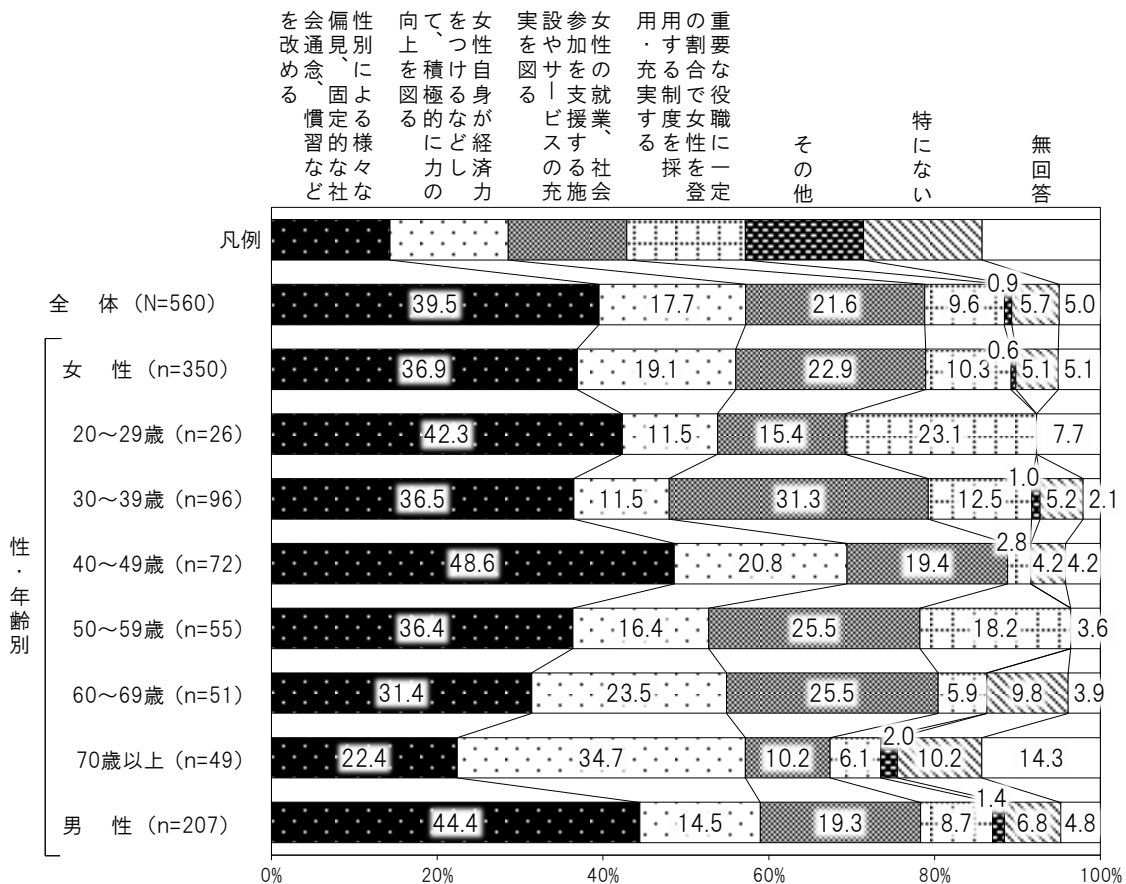
問 22. 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために最も重要と思うことは何ですか。
あなたの考えに最も近いものを選んでください。(〇は1つだけ)

男女がすべての分野で平等になるために最も重要だと思うことをみると、「性別による様々な偏見、固定的な社会通念、慣習などを改める」(39.5%)が最も多く、次いで「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る」(22.9%)、「女性自身が経済力をつけるなどして、積極的に力の向上を図る」(17.7%)の順となっている。

性別にみると、男女とも「性別による様々な偏見、固定的な社会通念、慣習などを改める」という回答が最も多いものの、男性が女性に比べ7.5ポイント高くなっている。

女性年齢別にみると、20歳代～60歳代では「性別による様々な偏見、固定的な社会通念、慣習などを改める」、70歳以上では「女性自身が経済力をつけるなどして、積極的に力の向上を図る」という回答が最も多くみられる。

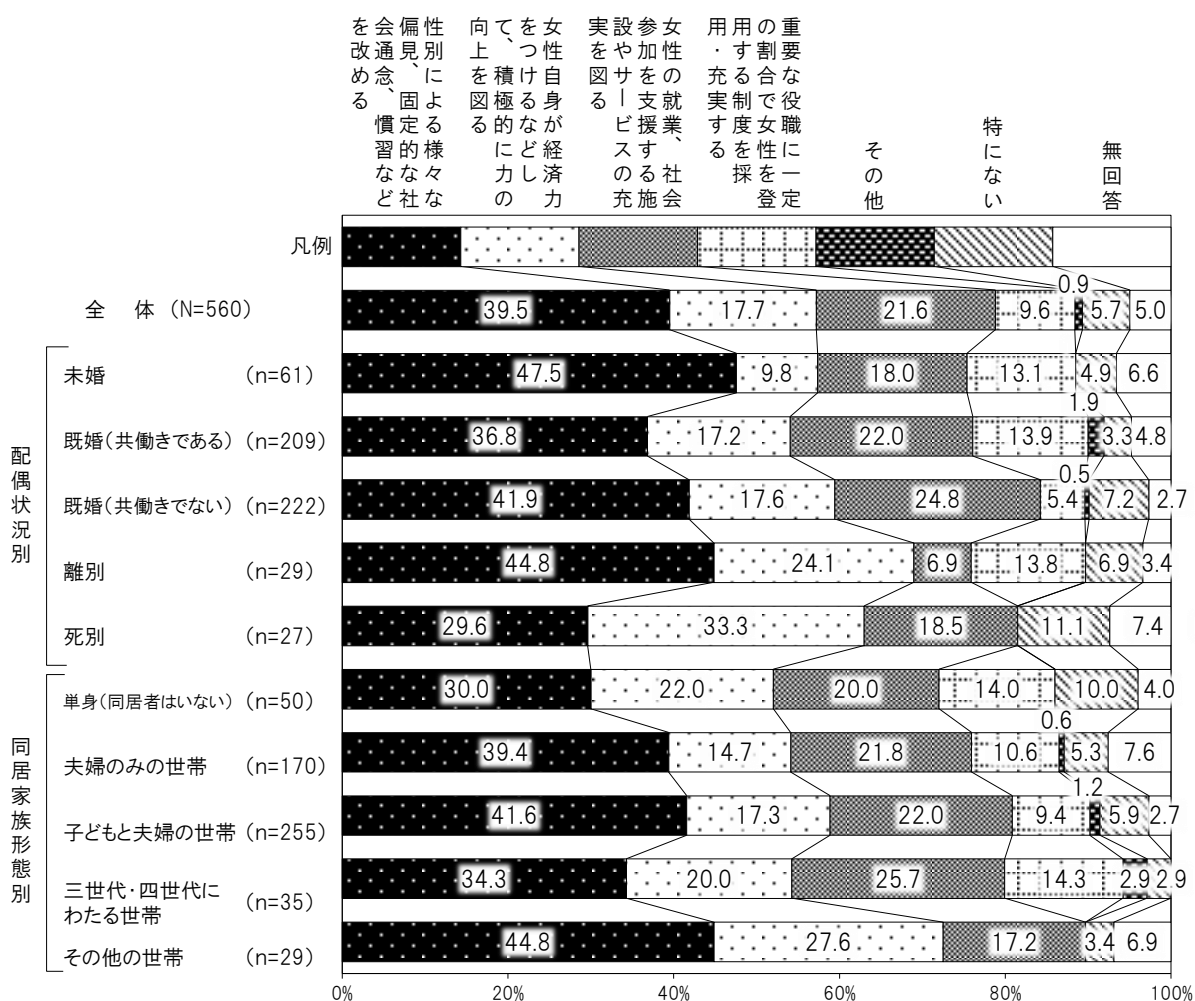
図 男女がすべての分野で平等になるために最も重要と思うこと【性・年齢別】



配偶状況別にみると、死別者は「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る」という割合が最も高くなっている。

同居家族形態別にみると、単身は「性別による様々な偏見、固定的な社会通念、慣習などを改める」という割合が他の年代に比べ低く、その他の世帯は「女性自身が経済力をつけるなどして、積極的に力の向上を図る」という割合が高い。

図 男女がすべての分野で平等になるために最も重要と思うこと【配偶状況別、同居家族形態別】



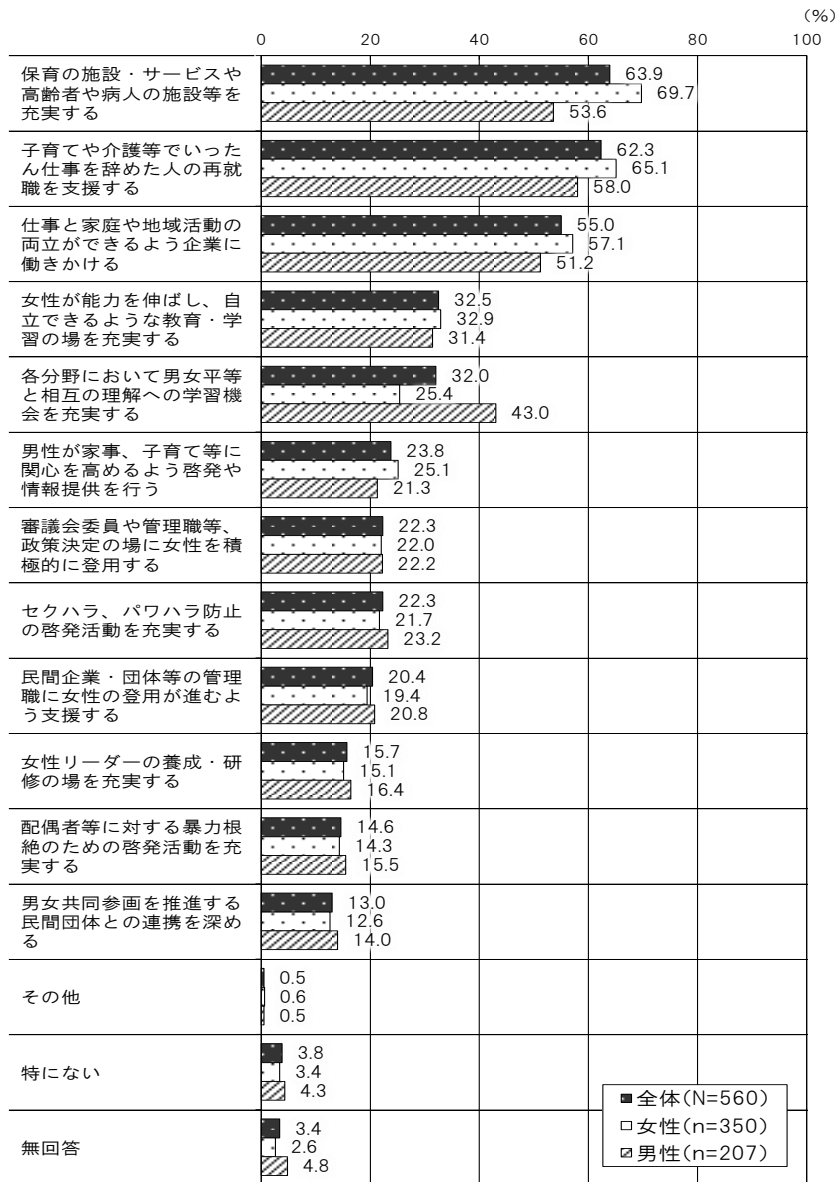
(2) 男女共同参画社会を実現するために粕屋町に望む施策

問 23. 「男女共同参画社会」を実現するために、今後、粕屋町はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

男女共同参画社会を実現するために粕屋町に施策をみると、「保育の施設・サービスや高齢者や病人の施設等を充実する」(63.9%)が最も多く、次いで「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(62.3%)、「仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける」(55.0%)の順となっている。

性別にみると、女性は男性より「保育の施設・サービスや高齢者や病人の施設等を充実する」と回答する人が多く、男性は女性より「各分野において男女平等と相互の理解への学習機会を充実する」と答える人が多い。

図 男女共同参画社会を実現するために粕屋町に望む施策【性別】



女性年齢別にみると、20歳代では「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」、30歳代以上では「保育の施設・サービスや高齢者や病人の施設等を充実する」という回答が最も多くみられる。また、20歳代は「女性が能力を伸ばし、自立できるような教育・学習の場を充実する」という回答が、他の年代に比べ多くみられる。

表 男女共同参画社会を実現するために粕屋町に望む施策【性・年齢別】

(単位:%)

		サンプル数	等や高年齢者や病人の施設等を充実する	保育の施設・サービスの充実	再就職を支援する	子育てや介護等でのつ	業の両立ができるよう活動	仕事と家庭や地域活動	・自立できるよう教	習機会を充実する	各分野において男女	発や情報提供を行う	男性が家事、子育て	性を積極的に登用する	審議委員や管理職	るの啓発活動を行う	セクハラ、パワハラ	む職に就く女性・団体の	民間企業・団体の	
全 体		560	63.9	62.3	55.0	32.5	32.0	23.8	22.3	22.3	20.4									
性・年齢別	女性 計	350	69.7	65.1	57.1	32.9	25.4	25.1	22.0	21.7	19.4									
	20～29歳	26	61.5	73.1	69.2	46.2	7.7	15.4	19.2	19.2	19.2									
	30～39歳	96	77.1	68.8	66.7	35.4	28.1	29.2	20.8	19.8	20.8									
	40～49歳	72	66.7	62.5	52.8	41.7	23.6	27.8	19.4	25.0	20.8									
	50～59歳	55	70.9	65.5	58.2	25.5	23.6	23.6	21.8	25.5	23.6									
	60～69歳	51	68.6	66.7	51.0	27.5	27.5	21.6	21.6	23.5	13.7									
	70歳以上	49	63.3	55.1	42.9	22.4	32.7	22.4	28.6	16.3	14.3									
	男性 計	207	53.6	58.0	51.2	31.4	43.0	21.3	22.2	23.2	20.8									
		サンプル数	研修の場を充実する	女性リーダーの養成	を根拠とする啓発活動	配偶者等に対する暴力	深める民間団体との連携	男男女女共同参画を推進	その他	特にな	無回答									
全 体		560	15.7	14.6	13.0	0.5	3.8	3.4												
性・年齢別	女性 計	350	15.1	14.3	12.6	0.6	3.4	2.6												
	20～29歳	26	23.1	3.8	11.5	-	7.7	-												
	30～39歳	96	12.5	16.7	11.5	1.0	4.2	-												
	40～49歳	72	18.1	12.5	8.3	1.4	1.4	2.8												
	50～59歳	55	14.5	16.4	18.2	-	-	3.6												
	60～69歳	51	9.8	15.7	17.6	-	7.8	3.9												
	70歳以上	49	16.3	14.3	10.2	-	2.0	6.1												
男性 計	207	16.4	15.5	14.0	0.5	4.3	4.8													

Ⅲ. 調査結果のまとめ

粕屋町では2015年3月に「粕屋町男女共同参画基本計画」の策定予定である。この計画は2015年(平成27年)度から2024年(平成36年)度を計画期間とし、男女共同参画に関する様々な施策を総合的・計画的に推進するためのものである。本調査は、計画の策定にあたり、粕屋町の男女共同参画の現状と課題を把握し、施策の効果的な推進を図るための基礎資料とすることを目的としている。以下、調査結果からみえてきた粕屋町の現状と課題についてみていく。

1. 男女平等に関する意識について

本調査では、男女の地位が平等になっていると思うかどうか、「家庭生活で」「職場で」「学校教育の場で」「政治の場で」「法律や制度のうえで」「社会通念、慣習、しきたりなどで」「地域活動・社会活動の場で」「社会全体で」という8つの分野についてたずねている。

最も平等感が高いのは「学校教育の場で」で、5割以上の方が「平等である」と回答している。反対に、特に平等感が低いのは「政治の場で」「社会通念、慣習、しきたりなどで」「社会全体で」の3項目であり、これらは「平等である」が1割程度かそれ以下にとどまる一方、『男性優遇』が7割から8割以上を占めており、不平等感が非常に強くなっている。

平成24年に内閣府が実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」(以下、「全国調査」という)に同様の調査項目がある(全国調査には「社会全体で」の項目はなし。また、「地域活動・社会活動の場で」は「自治会やNPOなどの地域活動の場」となっている)が、それと比較すると、比較できるいずれの項目についても、粕屋町は「平等である」の割合が10ポイントから20ポイント以上低く、不平等感がより強く表れている。特に全国調査との差が大きいのは「家庭生活で」「地域活動・社会活動の場で」の2項目で、粕屋町では家庭と地域という生活に密着した場において、不平等感が強いことがうかがえ、家庭や地域における男女共同参画を推進するような施策が必要とされている。

性別にみると、8項目すべてについて、女性は男性より『男性優遇』が高く、「平等である」が低くなっており、女性の方がより不平等感を覚えていることが分かる。

また、最も平等感が高かった「学校教育の場で」について性・年齢別でみると、40～49歳女性で『男性優遇』が3割を超えて高くなっている。この年代は中学生前後の子どもをもつ人が多い年代であり、実際の学校現場を目にするなかで不平等を感じている可能性が考えられる。学校教育では学習指導要領等に基づき、社会科や家庭課等のカリキュラムにおいて男女平等教育が実施されているが、それに加えて生活指導や進路指導なども含めた学校生活全般において、ジェンダーにとらわれない教育が実施されるよう配慮する必要がある。

「男は仕事、女は家庭」という考え方に対して同感するかどうかについては、『同感する』が48.2%、『同感しない』が50.7%で、固定的性別役割分担に『同感しない』人がわずかに上回っている。質問の仕方が異なるが、全国調査の同様の設問では、『賛成』が51.6%、『反対』が45.1%となっており、粕屋町の方が固定的性別役割分担への反対派が多くなっている。

性別でみると、女性は『同感する』45.7%、『同感しない』52.8%であるのに対し、男性は『同感する』52.1%、『同感しない』47.3%で、男女の地位の平等感と同様に、性別による意識の差がみられる。また、性・年齢別で

みても、『同感する』が最も低い 40～49 歳女性と、最も高い 70 歳以上女性とで 30 ポイント以上の差がみられる。このような、性別や年代による意識差をどのように埋め、共通認識をつくっていくかが、粕屋町の男女共同参画を推進するうえで重要になるだろう。

2. 家庭生活について

配偶者・パートナーと同居している人に、家庭内での役割分担をたずねたところ、「家計を支える(生活費を稼ぐ)」は 7 割超が「主に夫」、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事」は 8 割超が「主に妻」となっている。意識面では、「男は仕事、女は家庭」に同感しない人が半数を占めていたが、実態としては依然として固定的な性別役割分担が残っている。

子どもに関する項目をみると、「子どもの教育方針・進路目標の決定」は「夫・妻同程度」が 48.7%に上るが、「育児、子どものしつけ」は「夫・妻同程度」が 22.7%、「主に妻」が 46.4%となっており、夫も育児の方針決定には参加しているものの、日常の子育ては妻中心になっていることが多いようである。

また、「家計の管理」は「主に妻」が 7 割を超えているのに対し、「高額の商品や土地、家屋の購入決定」は「夫・妻同程度」が 5 割超、「主に夫」が 3 割台半ばで、「主に妻」は 4.9%である。日常の家計の管理は妻に任されているものの、高額商品の購入に関する決定権は夫という場合も多いことがうかがえる。

配偶状況別にみると、「家計を支える(生活費を稼ぐ)」は、既婚(共働きである)の人のほぼ 3 分の 1 が「夫・妻同程度」と回答しているが、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事」については既婚(共働きである)の人でも「夫・妻同程度」は 16.7%に過ぎず、「主に妻」が 8 割に上る。共働きで妻が夫と同等に家計を支えていても、家事の負担は妻に偏っている。全国的な傾向から、粕屋町においてもこれから共働き世帯が増加していくものと考えられるが、男性の家庭参画が進まなければ女性の負担が大きくなるばかりである。男性の意識啓発とともに、町内の事業所等に対して男女ともに家庭と仕事の両立がしやすいような職場環境づくりを働きかけていく必要がある。

「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度をたずねた設問でも、希望としては『「仕事」を優先』は女性で 2.6%、男性で 12.6%にとどまるのに対し、現実(現状)では女性の 16.0%、男性の 40.6%が『「仕事」を優先』と回答している。また、『「仕事」と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先』は、希望では男女とも 15%前後だが、現実(現状)では 5%程度である。性・年齢別でみると、子育て中の人も多い年代である 20～29 歳女性、30～39 歳女性では、希望よりも現実(現状)の『「仕事」と『家庭生活』をともに優先』と『「仕事」と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先』が低く、一方で『「仕事」を優先』と『「家庭生活」を優先』が高くなっている。希望としては「仕事も家庭生活も」と思っているが、現実には男性は仕事中心に、女性は仕事か家庭のどちらかを選ばざるを得ない状況がうかがえ、希望のバランスが実現できていない人が多いことがわかる。ワーク・ライフ・バランスの実現は、個人の生活の充実だけではなく、労働者の定着やモチベーションの向上など、企業等にとってもメリットが期待できる。町民や町内の事業所等の理解を得ながら、行政としても率先してワーク・ライフ・バランスに取り組むことを期待したい。

男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加を促すために必要なこととしては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」「男性による家事、子育て、介護についてもその評価を高める」などが上位に挙がっており、これは全国調査の傾向とほぼ同じである。一方、粕屋町の特徴として「年配者や周りの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考

え方を尊重する」の性別による回答の差が 20 ポイント近く開いていることが挙げられる(女性 42.3%、男性 23.2%)。家事等を夫婦で分担することについて、特に妻に対して「夫に家事をさせている」といった否定的な目が向けられてしまう現状があるのではと推測される。しかし、性別に関わらず生活に必要な技術を身につけるのは、生活の質を高めるうえでも重要なことである。あらゆる年代に対し、その重要性についての理解を促すよう、意識啓発や情報・学習機会の提供を拡充する必要があるだろう。

3. 地域活動について

現在参加している地域活動としては、「町内会・自治会活動」「環境・リサイクル活動」「子どもの育成に関する活動(PTA、子ども会など)」などが挙げられているが、男女ともほぼ半数の人が「どの活動にも参加していない」と回答している。粕屋町での居住年数別にみると、居住年数「3年未満」の人で「どの活動にも参加していない」が 72.4%、「3年～10年未満」の人で 56.4%と、居住年数が短い人ほど地域活動に参加していない。しかし、「20年以上」の人でも「どの活動にも参加していない」が 4 割を超えており、「町内会・自治会活動」への参加率も 3 割台半ばにとどまるなど、地域活動への参加率は全体的に高いとはいえない。

地域活動に参加していない理由としては、「忙しくて時間がないから」が最も高く、半数の人が回答している。粕屋町での居住年数別にみると、地域活動への参加率が低い「3年未満」の人では、「忙しくて時間がないから」「活動に関心がないから」が高くなっている一方、「活動に関する情報が少ないから」「一緒に参加する仲間がいらないから」も相対的に高く、地域活動に参加したいという意欲のある人は一定程度存在すると考えられる。一方、居住年数の長い人では「自分が高齢・病弱だから」「興味や関心の持てる活動が行われていないから」が相対的に高い。

粕屋町は、古くからの居住者と新規の居住者が混在する町である。性別を問わず地域での活動への参画を促すことは、地域の活性化や子どもや高齢者の見守り、防災などの地域の課題を解決するために重要である。老若男女がそれぞれのできる範囲で活動できるような魅力ある活動を創出しつつ、積極的な広報等を通じて新規住民を含めて参加を促し、地域のつながりを維持していきたい。

地域における男女共同参画を推進するには、単に地域での活動に加わるだけではなく、男女がともに方針決定に参画することが必要である。自分自身が団体の長や代表者に選ばれた場合に引き受けるかどうかをたずねた設問では、男性は「引き受ける」11.6%、「どうしても頼まれれば引き受ける」38.2%で、約半数が引き受けると回答しているが、女性では「引き受ける」2.0%、「どうしても頼まれれば引き受ける」27.7%と、引き受けるとする人は 3 割程度にとどまっている。引き受けない理由をみると、男女とも「時間的な余裕がないから」が最も高いが、女性は男性に比べて「責任が重いから」「知識や能力の面で不安があるから」が高くなっている。指導的立場に立つ女性を増やしていくためには、いきなりリーダーに抜擢するのではなく、まずは団体等のメンバーとして活動しながら意見表明できる機会を多くもてるようにするなど、段階を踏まえたリーダー育成施策が望まれる。

男女共同参画の視点から災害に備えるために必要なこととしても、性別にみると、女性は「街の防災会議や災害対策本部に女性の委員・職員を増やす」「避難所の運営に女性も参画できるようにする」「防災や災害現場で活動する女性のリーダーを育成する」などが男性より低くなっている。一方、「備蓄品について女性や介護者、障害者の視点を入れる」は女性で高い。災害対応についても、まずはニーズの聞き取り等、女性が意見を出せる場を設けながら、将来的にリーダーとして運営等に関わる人材を増やしていくような、地道な施策が必要だろう。

4. 職業観や仕事について

女性が職業をもつことについては、男女とも半数弱が「子どもができれば職業を中断し、子供に手がかからなくなって再びもつ方がよい」と回答しており、いわゆるM字型就労を支持する人が多くなっている。次に多いのは「ずっと職業をもっている方がよい」で、女性の4割超、男性の3割台半ばが回答している。全国調査と比較すると、粕屋町は就業継続派が少なく、M字型就労派が多くなっているものの、一方で、結婚や出産後は職業をもたない方がよいとする専業主婦派は全国調査に比べて少なくなっている。

性・年齢別でみると、20～29歳女性では約3分の2の人がM字型就労派である。また、配偶状況別では未婚者でM字型就労派が6割弱と高くなっている。これから結婚・出産を経験するかもしれない層でM字型就労型への支持が高くなっており、仕事と子育てを両立できるかどうかという不安あるのではないかと考えられる。上述したように、事業所等に対してワーク・ライフ・バランスや両立支援への理解を促すとともに、保育サービスの拡充や男性の育児参画についての啓発等を推進し、性別に関わらず仕事と子育ての両立が可能な環境を整えていきたい。

現在の職場での女性への差別については、半数以上が「特に思わない」と回答しているが、言い換えれば現在職業をもっている女性の4割超、男性の3割超が職場での女性差別を感じていることになる。「昇進・昇格に差がある」「賃金に格差がある」「結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある」「能力を正しく評価しない」がそれぞれ1割を超える人が回答しているが、これらは内容によっては男女雇用機会均等法や労働基準法、育児・介護休業法等に違反する可能性もあるものであり、これらの法令について、事業所等に対して情報提供と啓発を進める必要がある。

5. セクシュアル・ハラスメントやDV（配偶者や恋人間の暴力）について

セクシュアル・ハラスメントを受けたり見聞きした経験については、「自分が直接受けたことがある」が女性で12.3%、男性で0.5%、「セクシュアル・ハラスメントを受けた女性を知っている」が女性18.0%、男性15.0%、「セクシュアル・ハラスメントを受けた男性を知っている」が女性0.9%、男性2.4%となっており、「自分のまわりではそのようなことがない」と無回答を除くと女性の約3割、男性の2割弱がセクシュアル・ハラスメントを受けたり身近で見聞きしたことがあり、特に女性の被害が多いことが分かる。性・年齢別でみると、40～49歳の女性で「自分が直接受けたことがある」が3割弱と高くなっている。セクシュアル・ハラスメントを受けた場所としては、「職場」が圧倒的に多くなっている。セクシュアル・ハラスメントについても、事業所等に対して男女雇用機会均等法についての情報提供や啓発、相談窓口等の周知を図るなどの対策が求められる。

次にDVについてみる。具体的な行為の内容について、夫婦・パートナー、恋人間で行われた場合に暴力と思うかどうかをたずねた設問では、「身体を傷つける可能性のある物でなく」「刃物などを突きつけて、おどす」は9割台半ば、「足でける」「嫌がっているのに性的な行為を強要する」は8割強が「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答している。しかし、精神的暴力や社会的暴力については「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」「暴力にあたるとは思わない」の割合が高くなる傾向がみられ、「何を言っても長期間無視し続ける」「交友関係や電話を細かく監視する」「大声でどなる」は「どんな場合でも暴力にあたると思う」が5割強にとどまっている。言葉や態度による暴力や、行動の制限や監視などの社会的暴力についてもDVになるということ、広く啓発していくことが重要である。

この1年間にDVを受けた経験については、身体的暴力、精神的暴力、性的暴力のいずれについても、女性の5%前後、男性の約1~2%が受けたことがあると回答しており、粕屋町においても少なからぬ人がDVを経験していることが明らかとなった。しかし、この1年間にDVを受けた人の約7割は、その被害について「どこ(誰)にも相談しなかった」と回答しており、また、誰かに相談した人も多くは友人や家族等への相談であり、公的な機関や専門家への相談はほとんどなされておらず、DV被害が潜在化している可能性が示唆された。

セクシュアル・ハラスメントやDVをなくすための対策としては、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が約6割で最も高くなっている。粕屋町では、糟屋地区1市7町での事業として、電話や面接での相談ができる「かすや地区女性ホットライン」を開設しているが、その認知度は女性で約2割と低く、窓口はあってもそれが十分に知られていない状況である。各種相談窓口を整備、維持するとともに、町民への周知に努めたい。また、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」「学校等で児童・生徒・学生に対して暴力を防止するための教育を行う」も、ともに5割を超える人が回答している。セクシュアル・ハラスメントやDVは、それが発生した時の対処はもちろん、予防という観点からの教育啓発が重要である。学校等を通じ、児童・生徒や保護者に対し、デートDVやスクール・セクハラ等についての啓発と情報提供を継続的に行っていくことが望ましい。

6. 男女共同参画社会の実現について

男女が社会のあらゆる分野で平等になるために最も重要だと思うこととしては、「性別による様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりなどを改める」が39.5%と最も多く、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る」が21.6%、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図る」が17.7%、「政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実する」が9.6%と続いている。

性・年齢別にみると、20~29歳の女性では、「政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実する」が23.1%と相対的に高く、子育て中の人が多い年代である30~39歳の女性では「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る」が高くなっている。また、60~69歳、70歳以上の女性では、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図る」が相対的に高くなっている。しかし、これらの問題はそれぞれ独立して存在するものではなく、女性の就業継続が難しいことや役職につく女性が少ないことが、女性の経済的困難につながっていたり、性別による偏見や固定的な社会通念が、女性が役職につくことを難しくしているなど、それぞれが絡み合うことで生じている問題でもある。そのため、男女の人生を長いスパンでとらえたうえで、総合的に施策を推進していくことが重要である。

男女共同参画社会を実現するために粕屋町が力を入れるべき施策としては、「保育の施設・サービスや高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」「仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける」の3項目が特に高くなっている。男女共同参画社会の実現に向け、まずは仕事と家庭生活や地域活動との両立への支援が求められているといえる。また、特にこれらの項目は女性で高くなっており、現状として女性が仕事と家庭生活等との両立に困難を感じていることがうかがえる。特に、年少人口比率や核家族世帯比率が高い粕屋町においては、仕事と育児や介護との両立は今後ますます大きな課題となると思われる。施設やサービスの質と量の確保はもちろんだが、行政だけでなく、企業や地域ぐるみで両立を支えていくという意識を醸成していくことが必要だろう。

資料（使用した調査票）

粕屋町男女共同参画に関する意識調査

平成26年8月

各位

粕屋町長 因 清範

アンケート調査ご協力をお願い

町民の皆さまには、日頃から町政に対しご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

男女が、お互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い性別にとらわれることなく、その個性と能力を最大限発揮することができる社会を「男女共同参画社会」といいます。

粕屋町では、この男女共同参画社会の実現を目指し、このたび、平成27年度を初年度とする「粕屋町男女共同参画基本計画」を策定することといたしました。

この調査は、町民の皆さまの現状やご意見をおうかがいし、計画に反映させるために、町内にお住まいの満20歳以上の男女2,000人を無作為に抽出して実施するものです。

お答えいただきました内容は、すべて統計的に処理し、個々のアンケート内容の公表や調査の目的以外には一切使用いたしません。

お忙しい中、大変恐縮ですが、調査の目的をご理解いただき、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

<記入上のお願い>

1. この調査は、封筒のあて名の方がご記入ください。
2. ご回答は、あてはまる番号に○印をつけてください。選択する○印の数は、「1つだけ」、「いくつでも」などありますので、質問文にご注意ください。
3. 記入は、鉛筆、ボールペンなどではっきりとご記入ください。
4. 各質問で「その他」にお答えいただいた方は、その内容をなるべく具体的にご記入ください。
5. 調査票、返信用封筒とも名前や住所を記入する必要はありません。
6. この調査票のご記入が終わりましたら、お手数ですが同封の返信用封筒にて、8月17日（日）までにご返送ください。※切手は不要です。

※内容などについて、不明な点や疑問な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

【問い合わせ先】

粕屋町 協働のまちづくり課 広報広聴係

〒811-2392 糟屋郡粕屋町駕与丁一丁目1番1号

TEL：092-938-0173（直通） FAX：092-938-3150

男女平等に関する意識についてうかがいます。

問1. あなたは男女平等や男女共同参画をテーマにする話題にどの程度関心がありますか。
(○は1つだけ)

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 非常に関心がある | 3. あまり関心がない |
| 2. やや関心がある | 4. 関心がない |

問2. あなたは、今からあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(ア)から(ク)の中からあなたの気持ちに最も近いものを1つだけお答えください。
(○はそれぞれ1つだけ)

		男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
(ア) 家庭生活上で	⇒	1	2	3	4	5	6
(イ) 職場で	⇒	1	2	3	4	5	6
(ウ) 学校教育の場で	⇒	1	2	3	4	5	6
(エ) 政治の場で	⇒	1	2	3	4	5	6
(オ) 法律や制度のうえで	⇒	1	2	3	4	5	6
(カ) 社会通念、慣習、しきたりなどで	⇒	1	2	3	4	5	6
(キ) 地域活動・社会活動の場で	⇒	1	2	3	4	5	6
(ク) 社会全体で	⇒	1	2	3	4	5	6

問3. 「男は仕事、女は家庭」という考え方があります。あなた自身の気持ちとしては、この考え方にどの程度同感しますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 同感する | 3. あまり同感しない |
| 2. ある程度同感する | 4. 同感しない |

問4. これらの言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものをすべてあげてください。(○はいくつでも)

1. 男女共同参画社会
2. 男女雇用機会均等法
3. 女子差別撤廃条約
4. ポジティブ・アクション（積極的改善措置）
5. ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）
6. 配偶者暴力防止法（DV防止法）
7. デートDV
8. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
9. 男女共同参画週間（6月23～29日）
10. 育児・介護休業法
11. かすや地区女性ホットライン



家庭生活についてうかがいます。

問5. あなたは家事を男女で分担することについてどう思いますか。(○は1つだけ)

- | |
|--------------------------------|
| 1. 男女とも同じように家事を行うのがよい |
| 2. どちらでも手のあいている方が家事をすればよい |
| 3. 家事は主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度でよい |
| 4. 男性は家事をしなくてよい |
| 5. その他 () |

問6. (現在、「配偶者・パートナー(事実婚含む)と同居している方」にお尋ねします) あなたの家庭では、次にあげるようなことを、主にどなたがされていますか。(ア)から(ク)について、それぞれ選んでください。(○はそれぞれ1つだけ)

		主に夫	主に妻	夫・妻同程度	その他の家族	該当しない・わからない
(ア) 家計を支える(生活費を稼ぐ) ⇒		1	2	3	4	5
(イ) 掃除、洗濯、食事の支度などの家事 ⇒		1	2	3	4	5
(ウ) 育児、子どものしつけ ⇒		1	2	3	4	5
(エ) 子どもの教育方針・進路目標の決定 ⇒		1	2	3	4	5
(オ) 家計の管理 ⇒		1	2	3	4	5
(カ) 高額の商品や土地、家屋の購入決定 ⇒		1	2	3	4	5
(キ) 親の世話(介護) ⇒		1	2	3	4	5
(ク) 町内会・自治会等の地域活動 ⇒		1	2	3	4	5

問7. 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活(地域活動・学習・趣味・付き合い等)」の優先度についておたずねします。(ア)、(イ)のそれぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つだけ)

		「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
(ア) あなたの希望 ⇒		1	2	3	4	5	6	7
(イ) あなたの現実(現状) ⇒		1	2	3	4	5	6	7

問8. 日頃の生活の中で（ア）～（オ）に費やしている時間はそれぞれどれくらいですか。およその時間を（ ）内に数字でご記入ください。※該当しない場合は「×」をご記入ください。

（1）仕事や学校のある日

（ア）仕事・学校（通勤・通学時間を含む）	（ ）時間
（イ）家事（炊事、買物、洗濯、掃除など）	（ ）時間
（ウ）育児・介護	（ ）時間
（エ）自由に使える時間（趣味、読書、テレビなど）	（ ）時間
（オ）睡眠時間	（ ）時間

（2）休みの日・仕事や学校のない日

（ア）仕事・学校（通勤・通学時間を含む）	
（イ）家事（炊事、買物、洗濯、掃除など）	（ ）時間
（ウ）育児・介護	（ ）時間
（エ）自由に使える時間（趣味、読書、テレビなど）	（ ）時間
（オ）睡眠時間	（ ）時間

問9. 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす 2. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす 3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる 4. 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重する 5. 社会の中で、男性による家事、子育て、介護についてもその評価を高める 6. 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする 7. 男性が家事、子育て、介護に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う 8. 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高める 9. 男性が子育てや介護を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめる 10. 家庭と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける 11. その他（ ） 12. 特に必要はない |
|--|

地域活動についてうかがいます。

問 10. あなたは現在、地域づくりにかかわる活動を何かなさっていますか。(○はいくつでも)

1. 子どもの育成に関する活動（PTA、子ども会など）
2. 町内会・自治会活動
3. 環境・リサイクル活動
4. 地域安全・防犯活動
5. 相互援助活動（高齢者支援、介護、育児、給食サービスなど）
6. 国際交流・国際貢献活動
7. 男女共同参画推進のための活動
8. その他（)
9. どの活動にも参加していない

→ (問 10で「9. どの活動にも参加していない」と答えた方にうかがいます。)

問 10-1. あなたが、活動に参加していないのはどのような理由からですか。(○はいくつでも)

1. 活動するための施設が近くにないから
2. 自分が高齢・病弱だから
3. 経済的に余裕がないから
4. 家族の理解や協力が得られないから
5. 一緒に参加する仲間がいないから
6. 他人と一緒に活動するのがわずらわしいから
7. 興味や関心の持てる活動が行われていないから
8. 活動に関する情報が少ないから
9. 活動に関心がないから
10. 忙しくて時間がないから
11. その他（)



問 11. あなた自身が、団体の長や代表者として選ばれる機会があったとしたら、あなたはその職を引き受けたいと思いますか。(○は1つだけ)

- 1. 引き受ける
- 2. どうしてもと頼まれれば引き受ける
- 3. 引き受けない

→ (問 11 で「3. 引き受けない」と答えた方にうかがいます。)

問 11-1. 引き受けない理由は何ですか。(○はいくつでも)

- 1. 責任が重いから
- 2. 知識や能力の面で不安があるから
- 3. 時間的な余裕がないから
- 4. 経済的な余裕がないから
- 5. 家族の同意が得られないから
- 6. 人間関係がわずらわしいから
- 7. 性別によって不利・不当な扱いを受けそうだから
- 8. こうした役職に興味がないから
- 9. その他 ()

問 12. 地域活動において、女性の「参画」を進めるためには、あなたはどのようなことが最も必要だと思いますか。(○は1つだけ)

- 1. 家族が家事・育児の分担をする
- 2. 男性中心の社会通念や慣習を改めるための啓発活動を実施する
- 3. 女性のリーダーを養成するための講座やセミナーを開催する
- 4. 育児や介護を支援するための施設を充実させる
- 5. さまざまな立場の人が参加しやすいよう、活動時間帯を工夫する
- 6. 女性自身が積極的に参加する意識を持つ
- 7. 女性の参画は必要と思わない
- 8. その他 ()

問 13. 東日本大震災では、日頃の防災や震災対応に女性の視点が生かされていないことなどの問題が指摘されました。災害に備えるために、これからどのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

- 1. 町の防災会議や災害対策本部に女性の委員・職員を増やす
- 2. 避難所の運営に女性も参画できるようにする
- 3. 女性も男性も防災活動や訓練に取り組む
- 4. 備蓄品について女性や介護者、障害者の視点を入れる
- 5. 避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする
- 6. 防災や災害現場で活動する女性のリーダーを育成する
- 7. 日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする
- 8. 日頃からの男女平等、男女共同参画意識を高める
- 9. その他 ()
- 10. 特にない

職業観や仕事についてうかがいます。

問 14. 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。(○は1つだけ)

1. ずっと職業をもっている方がよい
2. 結婚するまでは職業をもち、あとはもたない方がよい
3. 子どもができるまで職業をもち、あとはもたない方がよい
4. 子どもができたなら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい
5. 女性は職業をもたない方がよい
6. その他 ()

問 15. あなたは、現在職業(収入を伴う仕事)をもっていますか。

※臨時雇、アルバイトなどを含みます。(○は1つだけ)

1. もっている
2. もっていない

→ (問 15で「1. もっている」と答えた方にうかがいます。)

問 15-1. あなたの今の職場では、仕事の内容や待遇面で、女性は男性に比べ不当に差別されていると思うことがありますか。(○はいくつでも)

1. 賃金に格差がある
2. 昇進、昇格に格差がある
3. 能力を正当に評価しない
4. 補助的な仕事しかやらせてもらえない
5. 女性を管理職に登用しない
6. 結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある
7. 女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある
8. 教育・訓練を受ける機会が少ない
9. その他 ()
10. 特に思わない

問 16. 育児や家族の介護を行うために、法律に基づき育児休業・介護休業・子の看護休暇を取得できる制度があります。あなたは、男性が、この制度を活用することについてどう思いますか。(○は1つだけ)

1. 男性も育児・介護休業・子の看護休暇を積極的に取るべきである
2. 男性も育児・介護休業・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う
3. 育児・介護は女性の方がうまくいくので、男性が休業・休暇を取る必要はない
4. その他 ()

セクシュアル・ハラスメントやDV（配偶者や恋人間の暴力）についてうかがいます。

問 17. あなたは、セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）を受けたり見聞きしたりしたことがありますか。（○はいくつでも）

1. 自分が直接受けたことがある
2. セクシュアル・ハラスメントを受けた女性を知っている
3. セクシュアル・ハラスメントを受けた男性を知っている
4. 自分のまわりではそのようなことがない

→（問 17で「1. 自分が直接受けたことがある」と答えた方にうかがいます。）

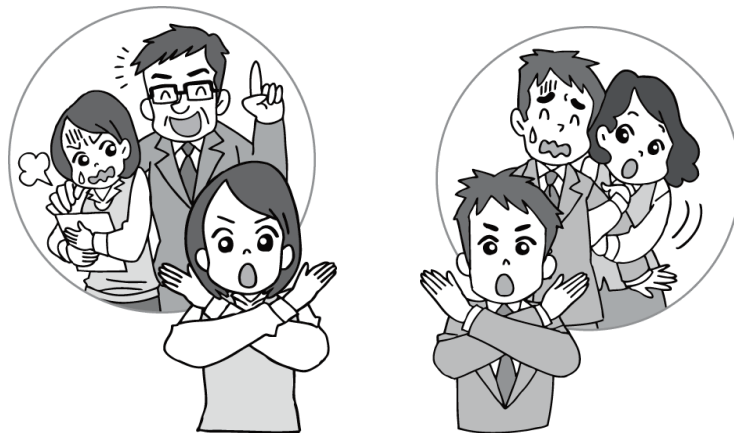
問 17-1. セクシュアル・ハラスメントを受けた場所はどこですか。（○はいくつでも）

1. 職場
2. 学校
3. 地域
4. その他（ ）

→（問 17で「1. 自分が直接受けたことがある」と答えた方にうかがいます。）

問 17-2. その後、あなたはどのような行動をとりましたか。（○はいくつでも）

1. 相手に直接抗議した
2. 職場の上司や学校の先生などに相談した
3. 家族や友人に相談した
4. 公的な相談機関や警察、弁護士などに相談した
5. その他（ ）
6. 特に何もしなかった



問 18. あなたは次のようなことが夫婦・パートナー、恋人間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。(ア)～(サ)のそれぞれの項目についてあてはまるものを選んでください。
(○はそれぞれ1つだけ)

		どんな場合でも 暴力にあたると思う	暴力にあたる場合 も、そうでない場合 もあると思う	暴力にあたるとは 思わない
(ア) 平手で打つ	⇒	1	2	3
(イ) 足でける	⇒	1	2	3
(ウ) 身体を傷つける可能性のある物でなぐる	⇒	1	2	3
(エ) なぐるふりをして、おどす	⇒	1	2	3
(オ) 刃物などを突きつけて、おどす	⇒	1	2	3
(カ) 嫌がっているのに性的な行為を強要する	⇒	1	2	3
(キ) 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	⇒	1	2	3
(ク) 何を言っても長期間無視し続ける	⇒	1	2	3
(ケ) 交友関係や電話を細かく監視する	⇒	1	2	3
(コ) 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」と言う	⇒	1	2	3
(サ) 大声でどなる	⇒	1	2	3

問 19. この1年間のうち、あなたは配偶者・パートナー、恋人に次のようなことをしたことがありますか。(ア)～(ウ)のそれぞれの項目についてあてはまるものを選んでください。
(○はそれぞれ1つだけ)

		1・2 度あった	何 度もあ った	ま ったく ない
(ア) なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を加えた	⇒	1	2	3
(イ) 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを加えた、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を加えた	⇒	1	2	3
(ウ) いやがっているのに性的な行為を強要した	⇒	1	2	3

問 20. この1年間のうち、あなたは配偶者・パートナー、恋人から次のようなことをされたことがありますか。(ア)～(ウ)のそれぞれの項目についてあてはまるものを選んでください。(○はそれぞれ1つだけ)

		1・2度あった	何度もあった	まったくない
(ア)	なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた ⇒	1	2	3
(イ)	人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた ⇒	1	2	3
(ウ)	いやがっているのに性的な行為を強要された ⇒	1	2	3

→ ((ア)～(ウ)のうち、1つでも「1.」または「2.」と答えた方にうかがいます。)

問 20-1. あなたが受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○はいくつでも)

1. かすや地区女性ホットラインに相談した 2. 警察に連絡・相談した 3. 1～2以外の公的な機関に相談した 4. 民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど）に相談した 5. 医療関係者（医師、看護師など）に相談した 6. 家族や親せきに相談した 7. 友人・知人に相談した 8. その他（) 9. どこ（誰）にも相談しなかった
--

→ 問 20-1 で「9. どこ（誰）にも相談しなかった」と答えた方は、次ページの問 20-2 へお進みください。

(問 20-1 で「9. どこ(誰)にも相談しなかった」と答えた方にうかがいます。)

問 20-2. どこ(誰)にも相談したかったのは、なぜですか。(〇はいくつでも)

1. どこ(誰)に相談してよいのかわからなかったから
2. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
3. 相談してもむだだと思ったから
4. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
5. 加害者に「誰にも言うな」とおどされたから
6. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
7. 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
8. 世間体が悪いと思ったから
9. 他人を巻き込みたくなかったから
10. 他人に知られると、これまで通りのつき合い(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思ったから
11. そのことについて思い出したくなかったから
12. 自分にも悪いところがあると思ったから
13. 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
14. 相談するほどのことではないと思ったから
15. その他()

問 21. セクシュアル・ハラスメントやDVなどへの関心が高まっていますが、このようなことをなくすためには、あなたはどうしたらよいと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う
2. 学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う
3. 地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う
4. 職場における男女平等意識を徹底させる
5. メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う
6. 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす
7. 被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う
8. 暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、コンピュータソフトなど)を取り締まる
9. その他()
10. 特にない

男女共同参画社会の実現について

問 22. 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために最も重要と思うことは何ですか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(○は1つだけ)

1. 性別による様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める
2. 女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図る
3. 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る
4. 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実する
5. その他 ()
6. 特にない

問 23. 「男女共同参画社会」を実現するために、今後、粕屋町はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(○はいくつでも)

1. 学校教育や職場、地域などの各分野において、男女平等と相互の理解について学習機会を充実する
2. 女性が能力を伸ばし、自立できるような教育・学習の場を充実する
3. 仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける
4. 子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
5. 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う
6. 保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する
7. 国・地方公共団体の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する
8. 民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する
9. 配偶者等に対する暴力根絶のための啓発活動を充実する
10. セクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメント防止の啓発活動を充実する
11. 女性リーダーの養成・研修の場を充実する
12. 男女共同参画を推進する民間団体との連携を深める
13. その他 ()
14. 特にない

問 24. 男女共同参画に関して、女性の意見を町政により反映させていくために必要なことなど、粕屋町へのご意見・ご希望などありましたら、自由にご記入ください。

最後に、あなたやあなたのご家族についてうかがいます。

F 1. あなたの性別をお知らせください。(○は1つだけ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

F 2. あなたの平成26年7月1日現在における満年齢をお知らせください。(○は1つだけ)

- | | | |
|-----------|-----------|------------|
| 1. 20～24歳 | 5. 40～44歳 | 9. 60～64歳 |
| 2. 25～29歳 | 6. 45～49歳 | 10. 65～69歳 |
| 3. 30～34歳 | 7. 50～54歳 | 11. 70～74歳 |
| 4. 35～39歳 | 8. 55～59歳 | 12. 75歳以上 |

F 3. あなたの職業・職種をお知らせください。※出産休暇、育児休業中の方も働いているものとみなします。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 自営業主(農林漁業・商工サービス等) | 7. 労務職 |
| 2. 家族従業者 | 8. パート・アルバイト、派遣社員 |
| 3. 自由業(開業医・弁護士・作家等) | 9. 専業主婦・主夫 |
| 4. 管理職 | 10. 学生 |
| 5. 専門・技術職 | 11. 無職 |
| 6. 一般事務職 | 12. その他() |

F 4. 粕屋町内での居住年数(通算)をお知らせください。(○は1つだけ)

- | | | | |
|---------|------------|-------------|----------|
| 1. 3年未満 | 2. 3～10年未満 | 3. 10～20年未満 | 4. 20年以上 |
|---------|------------|-------------|----------|

F 5. あなたの現在の配偶状況をお知らせください。(○は1つだけ)

- | | |
|---------------|-------|
| 1. 未婚 | 4. 離別 |
| 2. 既婚(共働きである) | 5. 死別 |
| 3. 既婚(共働きでない) | |

※本調査における「既婚」は、法律婚、事実婚を問いません。

F 6. 現在の同居家族の形態(あなた自身を含む)は、次のどれにあてはまりますか。(○は1つだけ)

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. 単身(同居者はいない) | 4. 三世代・四世代にわたる世帯 |
| 2. 夫婦のみの世帯 | 5. その他の世帯() |
| 3. 子どもと夫婦の世帯 | |

F 7. あなたがお住まいの小学校区をお知らせください。(○は1つだけ)

- | | |
|------------|--------------------------------|
| 1. 大川小学校 | (大隈、上大隈、江辻、戸原、朝日、長戸、内橋三) |
| 2. 仲原小学校 | (酒殿、甲仲原、花ヶ浦、乙仲原東、駕輿丁) |
| 3. 粕屋西小学校 | (内橋一、内橋二、阿恵、柚須、乙仲原西、多の津、サンライフ) |
| 4. 粕屋中央小学校 | (長者原上、長者原中、長者原下、若宮、原町) |

調査は以上で終了です。

長時間にわたるご協力ありがとうございました。